

令和元年度
島根県外国人住民実態調査等報告書

令和元年（2019年）10月
島根県環境生活部文化国際課

はじめに

島根県では、近年、外国人住民数が大幅に増加しています。今年7月に公表された総務省の「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（平成31年1月1日現在）では、本県の外国人住民は8,875人で、対前年比の人口増加率は15.4%と全国一位となりました。

これは、県内企業の人手不足などを背景として、ブラジル人の派遣会社社員や、ベトナム人の技能実習生が増加したことが主な要因と考えられます。

また、今年4月に改正入管法が施行され、新たに特定技能が在留資格に加わったことにより、今後も外国人住民の国籍や家族構成の多様化、県内での定住化が進むものと思われます。

こうした状況を踏まえ、県内の外国人住民の実態や、日常生活における不便や懸念、行政に求めるサービスのニーズなどを把握するため、平成23年度から8年ぶりとなる島根県外国人住民実態調査を実施しました。この調査は、県内全市町村にご協力いただき、県と市町村の共同事業として実施しました。

また、今回はこれに加えて、広報部県民対話室と連携し、しまねwebモニター登録者を対象に「多文化共生について」をテーマに意識調査を実施しました。

現在、県においては、外国人住民の受入れ・共生の取組みは日常生活全般に関わることから、今年3月、副知事をトップに関係部局長で構成する庁内連携会議を立ち上げ、情報共有を図りながら、市町村・関係団体とも連携した取組みを進めているところです。

今回の調査から得られた結果や貴重なご意見については、庁内連携会議や市町村・関係団体で情報共有を図り、外国人住民にとって島根県が暮らしやすいと実感していただける生活環境の整備や、外国人住民と日本人住民が共に支え合い、地域社会の一員として幸せに暮らしていける多文化共生による地域づくりに繋げてまいります。

最後に、ご回答をお寄せいただいた皆さま、並びにご協力いただいた県内市町村および関係者の皆さまに深く感謝しお礼申し上げます。

令和元年（2019年）10月

島根県環境生活部文化国際課長 柳楽 ひとみ

目 次

第1部 調査実施の概要

1. 島根県外国人住民実態調査 P. 1
 - (1) 調査の目的
 - (2) 実施主体
 - (3) 調査の設計
 - (4) 市町村ごとの調査数
 - (5) 回収の結果
 - (6) 質問項目
2. 第5回しまねwebモニター調査 P. 3
 - (1) 調査の目的
 - (2) 実施主体
 - (3) 調査の設計
 - (4) 回収の結果
 - (5) 質問項目
3. 集計・分析方法 P. 4
4. 調査の実施体制 P. 4

第2部 調査結果の概要及び考察

- はじめに P. 5
1. 外国人住民の実態と課題 P. 5
 2. 外国人住民に必要な行政サービスニーズ P. 6
 3. 日本人住民の多文化共生への意識 P. 7

第3部 島根県外国人住民実態調査の結果及び分析

1. 基本属性 P. 9
 - 【性別】【年齢】【国籍・地域】【在留資格】【島根県に住んでいる期間】
 - 【今後の居住予定期間】【婚姻関係の有無】
2. 雇用・労働 P. 17
 - 【職業】【1か月あたりの平均収入】【母国への送金】【休日の過ごし方】
3. 居住 P. 27
 - 【同居人】【住まい】
4. 地域での日本人との付き合い P. 31
 - 【自治会について】【近隣の日本人との交流】
 - 【近隣の日本人とどのような交流がしたいか】
5. 日本語について P. 35
 - 【日本語能力】【日本語学習の理由】【これから日本語を勉強したいか】
6. 子どもの教育 P. 42
 - 【子どもの有無】【子供の人数】【子どもの基本的な情報】
 - 【子どもの教育で心配なこと】
7. 生活上の困りごと P. 48
 - 【困った時の相談相手】【今、困っていること】【健康保険への加入状況】
 - 【自分や家族が病気の際の行動】【病院での言葉の問題】

- 【外国人差別や人権侵害を受けたことがあるか】
- 【差別や人権侵害を受けたと感じた場面】
- 8. 自然災害 P. 56
 - 【被災経験の有無】【指定避難場所を知っているか】【災害のための備え】
 - 【災害関連情報の入手方法】
- 9. 行政からの情報のサービスについて P. 60
 - 【よく利用するメディアや情報】【今必要な情報】
 - 【情報を得やすい方法や場所】【情報提供を望む言語】
 - 【これから望む行政サービス】

第4部 第5回しまねwebモニター調査の結果及び分析

- 1. 回答者の属性 P. 67
 - 【年齢】【地域】
- 2. 多文化共生に関する状況 P. 68
 - 【「多文化共生」という言葉を聞いたことがあるか】
 - 【外国人住民と互いに認め合い、共に暮らす「多文化共生」社会を島根県で実現することについてどう思うか】
 - 【外国人住民とどの程度関わりたいか】
 - 【外国人住民とどのように関わりたいか】
 - 【近所に外国人は住んでいるか】
 - 【近所の外国人住民と付き合いはあるか】
 - 【近所の外国人住民をどのように感じているか】
 - 【近所以外で外国人住民と付き合いがあるか】
 - 【どのようなところで付き合いがあるか】
 - 【外国人住民と交流するにあたり、これまでに課題となったこと、または交流するにあたり課題になると思われること】
 - 【外国人住民との相互理解を深めるために、どのような機会があれば良いと思うか】
 - 【外国人住民との相互理解を深めるために、必要だと思うこと】
 - 【外国人住民との相互理解を深めるために、外国人住民に対して期待すること】
 - 【外国人住民との「多文化共生」社会の実現のために、特に必要だと思う県の施策】

第5部 参考資料

- 1. 集計結果 P. 76
 - (1) 島根県外国人住民実態調査
 - (2) 第5回しまねwebモニター調査
- 2. 調査票 P. 97
 - (1) 島根県外国人住民実態調査
 - (2) 第5回しまねwebモニター調査
- 3. 自由意見 P. 114
 - (1) 島根県外国人住民実態調査
 - (2) 第5回しまねwebモニター調査

第1部 調査実施の概要

1. 島根県外国人住民実態調査

(1) 調査の目的

県内の外国人住民の実態や、日常生活における不便や懸念、行政に求めるサービスのニーズなどを把握することにより、今後の県の施策や行政サービスの充実に反映させることを目的とする。

(2) 実施主体

県内19市町村・文化国際課が共同実施

(3) 調査の設計

- ① 調査対象：県内在住の20歳以上の外国人住民
- ② 標本数：2,000人
- ③ 抽出方法：H30年末の市町村毎の外国人住民数により按分し無作為抽出
- ④ 調査票：6カ国語（ポルトガル語・中国語・タガログ語・ベトナム語・韓国語・英語）の翻訳版と、やさしい日本語版をセットで送付
- ⑤ 調査方法：郵送法
- ⑥ 調査時期：令和元年5月

(4) 市町村ごとの調査数

松江市	330人	奥出雲町	20人	海士町	2人
浜田市	140人	飯南町	10人	西ノ島町	5人
出雲市	1,050人	川本町	5人	知夫村	1人
益田市	80人	美郷町	4人	隠岐の島町	18人
大田市	90人	邑南町	20人	合計	2,000人
安来市	60人	津和野町	10人		
江津市	70人	吉賀町	35人		
雲南市	50人				

(5) 回収の結果

- ① 回収数（率）：566（28.3%）
- ② 回答者の構成
 - i) 年齢

項目	年齢	
構成	20～29歳	27.0%
	30～39歳	32.9%
	40～49歳	22.4%
	50～59歳	12.2%
	60歳以上	4.6%

ii) 国籍・在留資格

項目	国籍		在留資格	
	構成	ブラジル	33.7%	永住者
中国		20.3%	技能実習	20.3%
ベトナム		12.4%	日本人の配偶者等	19.3%
フィリピン		12.4%	定住者	16.4%
韓国・朝鮮		5.8%	留学	5.3%

(6) 質問項目

1. 基本属性

【性別】【年齢】【国籍・地域】【在留資格】【島根県に住んでいる期間】
【今後の居住予定期間】【婚姻関係の有無】

2. 雇用・労働

【職業】【1か月あたりの平均収入】【母国への送金】【休日の過ごし方】

3. 居住

【同居人】【住まい】

4. 地域での日本人との付き合い

【自治会について】【近隣の日本人との交流】
【近隣の日本人とどのような交流がしたいか】

5. 日本語について

【日本語能力】【日本語学習の理由】【これから日本語を勉強したいか】

6. 子どもの教育

【子どもの有無】【子供の人数】【子どもの基本的な情報】
【子どもの教育で心配なこと】

7. 生活上の困りごと

【困った時の相談相手】【今、困っていること】【健康保険への加入状況】
【自分や家族が病気の際の行動】【病院での言葉の問題】
【外国人差別や人権侵害を受けたことがあるか】
【差別や人権侵害を受けたと感じた場面】

8. 自然災害

【被災経験の有無】【指定避難場所を知っているか】【災害のための備え】
【災害関連情報の入手方法】

9. 行政からの情報のサービスについて

【よく利用するメディアや情報】【今後必要な情報】
【情報を得やすい方法や場所】【情報提供を望む言語】
【これから望む行政サービス】

2. 第5回しまねwebモニター調査

(1) 調査の目的

しまねwebモニター登録者を対象に、「多文化共生について」をテーマに意識調査を実施。

(2) 実施主体

広報部県民対話室・環境生活部文化国際課が共同実施

(3) 調査の設計

- ① 調査対象：しまねwebモニター登録者 690名（7/2現在）
（県内在住、登録年度の4月1日現在で満15歳以上）
- ② 調査方法：県ホームページの「しまねwebモニターアンケート画面」から回答
- ③ 調査時期：令和元年7月3日（水）～7月12日（金）

(4) 回収の結果

- ① 回収数（率）：390（56.5%）
- ② 回答者の構成

i) 年齢

項目	年齢	
構成	20代以下	6.2%
	30代	20.0%
	40代	23.6%
	50代	24.1%
	60代	14.9%
	70代以上	11.3%

ii) 地域

項目	地域	
構成	松江市	44.6%
	出雲市	21.3%
	浜田市	7.4%
	益田市	4.9%
	大田市	4.6%

(5) 質問項目

1. 回答者の属性

【年齢】【地域】

2. 多文化共生に関する状況

【「多文化共生」という言葉を聞いたことがあるか】

【外国人住民と互いに認め合い、共に暮らす「多文化共生」社会を島根県で実現することについてどう思うか】

【外国人住民とどの程度関わりたいか】

【外国人住民とどのように関わりたいか】

【近所に外国人は住んでいるか】

【近所の外国人住民と付き合いはあるか】

【近所の外国人住民をどのように感じているか】

【近所以外で外国人住民と付き合いがあるか】

【どのようなところで付き合いがあるか】

【外国人住民と交流するにあたり、これまでに課題となったこと、または交流するにあたり課題になると思われること】

【外国人住民との相互理解を深めるために、どのような機会があれば良いと思うか】

【外国人住民との相互理解を深めるために、必要だと思うこと】

【外国人住民との相互理解を深めるために、外国人住民に対して期待すること】

【外国人住民との「多文化共生」社会の実現のために、特に必要だと思う県の施策】

3. 集計・分析方法

集計・分析については、エクセル 2019 を使用した。

4. 調査の実施体制

(1) 集計受託者：株式会社アテナ

(2) 調査・分析協力者：島根大学法文学部法経学科

教授 宮本 恭子

公益財団法人しまね国際センター

多文化共生推進課長 仙田 武司

(3) 令和元年度島根県在住外国人実態調査報告書作成にかかる意見交換会の開催

・第1回 令和元年8月19日(月) 13:30~16:00

島根県庁東庁舎 3階 301 会議室

・第2回 令和元年9月4日(水) 9:00~12:00

島根県庁東庁舎 3階 302 会議室

島根大学法文学部法経学科 教授 宮本 恭子

はじめに

総務省が公表した2019年住民基本台帳に基づく人口動態調査によると、島根県は外国人住民の増加率が15.42%で全国1位となった。こうしたなかで実施した令和元年度島根県外国人住民実態調査の結果は、島根の現在と未来を考える上で、極めて重要なデータを与えてくれた。

第一に、外国人住民の定着・定住化は停滞している様子が見られることだ。第二に、配偶者や子供と暮らしている家族世帯が増えており、生活者としての外国人の問題が見られる。第三に、日本人住民の意識調査から読み取れる問題がある。「多文化共生」が、多くの日本人住民にとって、言葉の理解のみに終わっており、日々の暮らしの中で感じたり、実践するところには至っていない。職場以外の地域における日本人と外国人が接する機会はあまり多くないようである。また、職場や日々の暮らしのなかで差別や人権侵害を受けていると感じる外国人住民も多くいるようである。

外国人を積極的に受け入れていく社会においては、日本人、外国人双方が納得できる受け入れの理念が必要となってくる。“共生”こそ、外国人受け入れを進めるに当たり共有すべき理念である。また、国連加盟国が採択したSDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」は“誰一人取り残さない”を理念とする。これも外国人受け入れを進めるための基本理念である。しかしながら、誰も置き去りにしない共生社会を具体的に実践することは容易ではない。これらを順に論じていきたい。

1. 外国人住民の実態と課題

回答結果からは、外国人住民が島根県に居住する期間は短期間である傾向が見られる。そのことは、回答者のほぼ半数(51.8%)の県内居住期間が2年以内にとどまっていることから明らかであろう。その一方で、県内居住期間が15年を超える回答者も14.7%を占める。

こうした居住期間の傾向は、在留資格からも読み取れるところであり、回答者の3割強が永住資格(永住者と定住者を合わせて36.9%)で、技能実習が約2割(20.3%)となっている。滞在期間が限られている技能実習生が増える傾向にあることが、外国人住民の島根県に居住する期間の短期化につながっていると思われる。

しかしながら、今後の島根県での居住予定の回答結果からは、「ずっと島根県に住みたい」者は3割を超えており、「わからない」と回答した2割(20.5%)の者が「ずっと島根県に住みたい」に変わると、両方を合わせた約5割の者が、島根県での定住を希望することになる。特に、国籍別で見るとブラジル人は、「今後の居住予定がわからない」と回答した者が約3割で最も多く、これらのブラジル人が島根県での定住を選択した場合、島根県の外国人住民全体の定着化が進むものと考えられる。

就労は、回答者の約 95%を占める生産年齢人口のほとんどが就労者である(約 9 割)。とはいえ、20 代から 40 代の無業者も 33 人見られる。もちろんこの中には、専業主婦(夫)や学生が含まれるが、教育、労働、職業訓練のいずれにも参加していない状態の者がいるかもしれない。就労先は島根県の地域特性を示しているからなのか、約半数が製造業に従事し、電子機器製造業で働く者が約 3 割(33.0%)に及ぶ。国籍別ではブラジル人が約 9 割を占め圧倒的に多い。収入は月収 20 万円未満が 55.5%となる。月収 30 万円以上の者がおよそ 1 割いる一方で、月収 10 万円未満の者が 2 割を占める。また、在留資格別で見ると、月収 10 万円未満の者は留学生と技能実習生に多い。技能実習生は約 8 割が母国に送金しており、少ない収入を母国への送金に回している者が多く、日本での生活は厳しい環境にあることがうかがわれる。

回答者は、配偶者や子どもと暮らしている者が半数を占める一方、父母と同居している者はおよそ 10%にとどまっている。本調査結果からは、核家族で暮らす外国人世帯(または外国人配偶者を含む世帯)が標準的なパターンになってきていると考えられる。国籍別に見るとブラジル人とフィリピン人では家族帯同化が顕著になってきている。ただし、ひとり暮らし(18.6%)、友人・知人と暮らす者(15.4%)も一定数見られ、ベトナム人の技能実習生は友人・知人との同居が多い。

外国人の定着化と住居の所有形態との関係は表裏一体だ。住まいの質問事項からおおよその持ち家率も判明しており、回答者の 15.7%は自己所有の家に住んでいる。国籍別に見ると韓国、朝鮮(48.5%)、フィリピン(40.0%)、ブラジル(4.7%)、ベトナム(0%)と大きな開きもある。また、自治会(町内会)に加入する者は 124 人で、購入・賃貸の一戸建てに住む者 120 人とほぼ同数になっている。外国人とその家族が今後も島根県で暮らし続ける定着化志向は、住居の所有と自治会加入に顕著に現れてくると思われる。近隣の日本人との付き合いについて、回答者の約 8 割が近隣の日本人とあいさつや話をするなど、あいさつ程度の付き合いを持っており、7 割近くの者は積極的な交流を望んでいる。居住地域で日本人と積極的に交流を持てるようにしていくことが必要である。

2. 外国人住民に必要な行政サービスニーズ

円滑なコミュニケーションの実現には、日本語教育の充実が必要である。日本語能力について尋ねた質問を見ると、「日本語をほとんど聞き取ることができない」と答えた者 9.0%、「ほとんど読むことができない」と答えた者 17.0%となっており、「簡単な日常会話や、ゆっくり話せば聞き取りはできる」とする者が約 6 割を占める。さらに、「ひらがなまたはカタカナであれば読み、書きできる」とする者は 8 割まで増える。ただし、「ひらがなまたはカタカナであっても、書くことができる」者はほぼ半数以下にとどまる。書くことへのハードルは高いが、ひらがなやカタカナであれば日常のコミュニケーションに問題がないとする者が極めて高い数値を示すのだ。しかし、地域社会でひらがなやカタカナ表記を見かけることはほとんどない。例えば、公共機関、医療機関、学校、道路標識などをひらがなやカタカナで表記すれば、外国人が生活しやすくなるのではないと思われる。

また、「現在日本語を学習していない」が 57.2% (324 人)、このうち「日本語学習をしたい」と思っている者が 72.8% (236 人)もいる。しかし、日本語を勉強する意欲はあってもできていない者が多数おり、その理由には、「仕事が忙しくて時間がない」

(33.5%)、「日本語教室の時間が合わない」(18.2%)、「近くに日本語教室がない」(13.6%)といった学習環境の不備が挙げられている。外国人住民の日本語教育への需要は強く存在しており、働き方の違いや居住地域に応じた日本語教育の環境を整備する必要があるだろう。

このことは日常生活にも反映している。例えば、病院に行くときに自ら一人で対応している者は3割程度(36.2%)にすぎない。病院に行く時に通訳を頼んだり(12.0%)、家族や友人に頼る者が3割程度(33.7%)、(公財)しまね国際センターのコミュニティ通訳ボランティアを頼む(2.3%)で、おおよそ半数の者が病気になっても、自分たちで対応できていない。自分でうまく症状を伝えられない者や、通訳を介して受診することをためらう者もいるかもしれない。一人で受診することを希望する場合にも対応できるように、医療機関側が通訳を配置するなどして、外国人患者が安心して受診できる体制を整備することが必要である。例えば、地域の基幹的医療機関における医療通訳の配置や、院内案内図の多言語化の支援が必要である。しかし、すべての外国人に対して母語で情報を伝えることは不可能だ。そこで、多くの外国人が理解できる日本語(「やさしい日本語」)での対応を検討することが求められる。

災害時の情報源では、64.8%の人がインターネットを活用しているが、正確に情報を知りたいという願望が行政サービスの充実の希望(「行政情報の多言語化の充実」39.9%、「防災対策などの多言語化の充実」22.4%)に出ている。また、日々必要とする情報の取得手段は、「SNS (Facebook、Twitter など)」が最も多くなっており(56.4%)、災害時に情報を得やすい方法や場所など、外国人にも分かりやすい情報伝達に向けた改善が求められる。

外国人児童生徒の教育等の充実については、子どもがいる世帯の回答者の4割近く(第1子34.6%、第2子37.8%、第3子39.1%)は、日本語の授業を理解できず困っていることや、行政サービスの充実の希望(「外国人の子どもに対する教育支援の充実」21.9%)でもニーズの高さが確認された。また、学齢期の子どもを持つ親は、「子どもの進学のこと」が最も心配であると回答している。外国人住民の定住化が進めば、それに伴って家族として居住する外国人児童生徒の教育に基礎自治体は対処していかななくてはならなくなる。外国籍の子どもが日本社会において自身の将来を展望できるようにするためにも、まずは義務教育課程での就学支援を促進すべきである。また、しっかりと日本語教育を充実し、高校、そして大学まで進学できる可能性を拡げることである。

外国人住民が島根県に定着・定住化するに当たっては、それと対になるかたちで、共生社会の実現に向けた取り組みが必要となる。しかし、“共生”の意味するところを理解し、具体的に実現するには至っていない。回答者の3割(30.9%、175人)が「差別・人権侵害を受けたと感じることがある」と回答している。具体的には、「会社の人の言葉や態度」(92人)、「通りすがりの知らない人の言葉や態度」(71人)などが挙げられている。外国人住民が差別・人権侵害を受けたと感じるような、職場や日々の暮らしの中での言動や態度は決してあってはならないものである。これは、労働者及び生活者としての外国人の権利を守ることでもある。

3. 日本人住民の多文化共生への意識

「多文化共生」という言葉についての理解は徐々に進んでいるようだ。『「多文化共

生」という言葉を知っている』と答えたのは回答した者の6割を占める。「近隣に外国人が住んでいない」と答えたのは42.8%で、住んでいる者(33.6%)に対する質問で、どのように付き合っているかの質問で一番多いのは「特に付き合いはない」が56.5%になっている。近隣に外国人が住んでいてもほぼ付き合いがないのが標準のようである。外国人との付き合いがある者に対する質問で、どこで付き合いがあるのかとの質問で一番多いのは「職場や学校で」が41.3%、「趣味の活動」が21.2%になっている。これらを考え合わせると、近隣の者の外国人とほとんど付き合いがない日本人にとっては仕事場や学校に外国人がいるかどうかで、外国人との接触経験がほぼ決まってしまう可能性が高いということだ。日常生活の中では、「子どもを通じた親の交流」(13.5%)、「ボランティア活動」(11.5%)などで日本人県民が外国人と接する機会も見られるが、対象者は限定されるであろう。

外国人との接触機会が少ない理由には、「言葉の違い」(72.6%)、「文化や習慣の違い」(71.3%)、「生活習慣の違い」(67.7%)が課題であるとの回答が多く見られる。だが、日本人住民の外国人住民との共生へ向けての意識が低いわけではない。なぜなら、回答者のほぼ半数以上が外国人住民との交流を希望している(55.7%)結果から推察できる。加えて、外国人住民と関わりたい者に対する「外国人住民とどのように関わりたいか」との質問で一番多いのは「外国人住民から外国語を学びたい」が64.1%になっているからである。このことから、一方的に日本人住民が外国人に教えたり、支援するだけでなく、外国人住民からも学びたいという、日本人住民と外国人住民との相互の学び合いや支え合いが実現できる共生へ向けての意識が醸成されつつあることを読み取ることができる。外国人住民との相互理解のための機会としては、「異文化を体験する機会(伝統芸能や料理教室など)」(64.4%)、「地域での交流や活動の機会(自治会活動等)」(53.6%)との回答が多い。また、日本人住民と外国人住民との相互理解のためには、日本人は外国人の「文化や生活習慣の違いについて知る」ことが必要であるとの回答が7割を超えており、外国人に対しては、「日本の法律、生活ルール、習慣を守る」ことを期待するとの回答がほぼ8割にのぼっている。こうした外国人に対する期待を実現し、「多文化共生」社会の実現に向けて県に求める施策として、「外国人住民に対する日本の生活ルール、習慣、文化などの周知」(67.9%)、「外国人の子どもに対する教育の充実」(41.0%)、「外国人住民に対する医療・保健・福祉などの生活支援」(36.2%)が必要だとする回答が多い。

問題は近隣に外国人がいない、もしくは、いても付き合いがない、職場以外での付き合いをしている経験がないことで、交流をしたいと思ってもそのきっかけをつかめずに、共生への思いのみの世界で終わっていることだろう。共生社会の歩みを前進するための課題は、何か特別なイベントをするのではなく、日本人住民が外国人住民から学べる場を作ることや、日々の暮らしの中で外国人住民と日本人住民が声を掛け合う場や機会をいかにして作っていくかということだ。そのために、近隣で会った時に互いにあいさつをすることから始める必要があるだろう。

第3部 島根県外国人住民実態調査の結果及び分析

1. 基本属性

本調査における回答者の性別構成を見ると、「男性」が36.2%、「女性」が61.1%と、女性が半数を上回り、2012年度の調査(男性29.8%、女性66.4%)と同様の回答割合となった。

年齢別構成を見てみると、「30～39才」が32.9%と最も多く、続いて「20～29才」が27.0%、「40～49才」が22.4%、「50～59才」が12.2%、「60～69才」が3.2%、「70才以上」が1.4%の順になっている。2012年度の調査と比較すると、「20～29才」(2012年度：31.3%)と「40～49才」(2012年度：23.8%)、「70歳以上」(2012年度：3.5%)が減少し、「30～39才」(2012年度：28.8%)と「50～59才」(2012年度：6.3%)、「60～69才」(2.5%)が増加している。

年齢を性別でみると、「20～29才」で「女性」65.4%、「30～39才」で「女性」62.9%、「40～49才」で「女性」63.8%、「50～59才」で「女性」55.1%と、50代までは「女性」が半数を上回った。一方、「60～69才」で「男性」61.1%、「70才以上」で「男性」50.0%と、60歳以上で男性が多くなる。

また、国籍・地域別割合について見てみると、「ブラジル」が33.7%と最も多い。続いて「中国」20.3%、「ベトナム」12.4%、「フィリピン」12.4%の順となる。2012年度の調査と比較すると、「中国」が大きく減少(2012年度：38.8%)し、「ブラジル」が大きく増加(2012年度：17.3%)している。また、2012年度の調査では回答項目になかった「ベトナム」も3位に浮上している。

国籍を性別、年齢別でみると、「ブラジル」では「男性」が56.0%、「30～39才」が30.9%と一番多かった。「中国」では「女性」が80.9%、「30～39才」が37.4%と一番多かった。「ベトナム」では「女性」が68.6%、「20～29才」が65.7%と一番多かった。「フィリピン」では「女性」が90.0%を占め、「40～49才」が38.6%で最も多かった。「ブラジル」は30代の男性、「中国」は30代の女性、「ベトナム」は20代の女性、「フィリピン」は40代の女性が多い結果となった。

在留資格別の割合を見ると、「永住者」が20.5%、「技能実習」が20.3%、「日本人の配偶者等」が19.3%、「定住者」が16.4%となっており、これら4区分の在留資格で回答者の76.5%を占めた。在留資格を性別、年齢別、国籍別でみると、「永住者」は「女性」62.1%、「40～49才」35.3%、「フィリピン」が28.4%と最も多かった。

「技能実習」は「女性」85.2%、「20～29才」45.2%、「ベトナム」が47.8%と最も多かった。「日本人の配偶者等」は「女性」64.2%、「30～39才」31.2%、「ブラジル」が48.6%と最も多かった。「定住者」は「男性」「女性」ともに49.5%、「30～39才」33.3%、「ブラジル」が93.5%と大多数を占めた。

次に、島根県での居住期間について見てみると、「1年～2年」29.9%が一番多く、続いて「3年～5年」17.5%の順となるが、「15年以上」も14.7%と、島根県で15年以上居住していると回答した者も多い。

なお、「韓国、朝鮮」は72.7%、「フィリピン」は40.0%が島根県に15年以上居住していると回答しているなど長期滞在している者が多い。

島根県でのこれからの居住予定に関する質問についても、2012年度の調査から大きな変化はなく、「ずっと島根県に住む」が33.4%と最も多く、続いて、「1年～3年」

が 24.0%、「わからない」が 20.5%の順になっている。

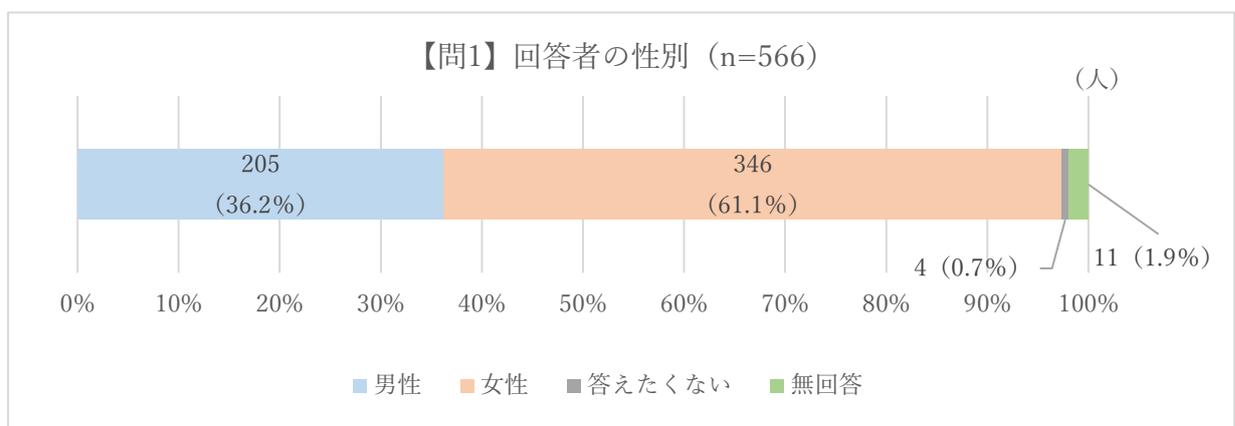
最後に、婚姻の有無に関する質問では「結婚している(結婚相手は日本国籍以外)」が 38.3%、「結婚している(結婚相手は日本国籍)」は 30.9%であった。「結婚相手の国籍にかかわらず結婚している」69.2%が、「結婚していない」29.9%を大きく上回る結果となった。

【性別】

問1 あなたの性別はどれですか。(1つに○)

1. 男	2. 女	3. 答えたくない
------	------	-----------

回答者の性別構成をみると、「女性」が 61.1%、「男性」が 36.2%で女性が 24.9 ポイント上回った。

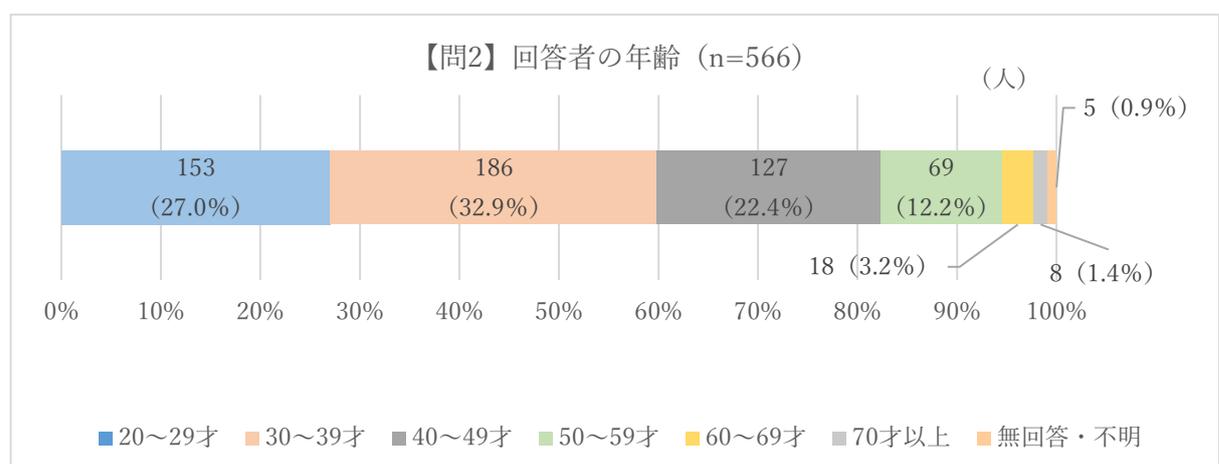


【年齢】

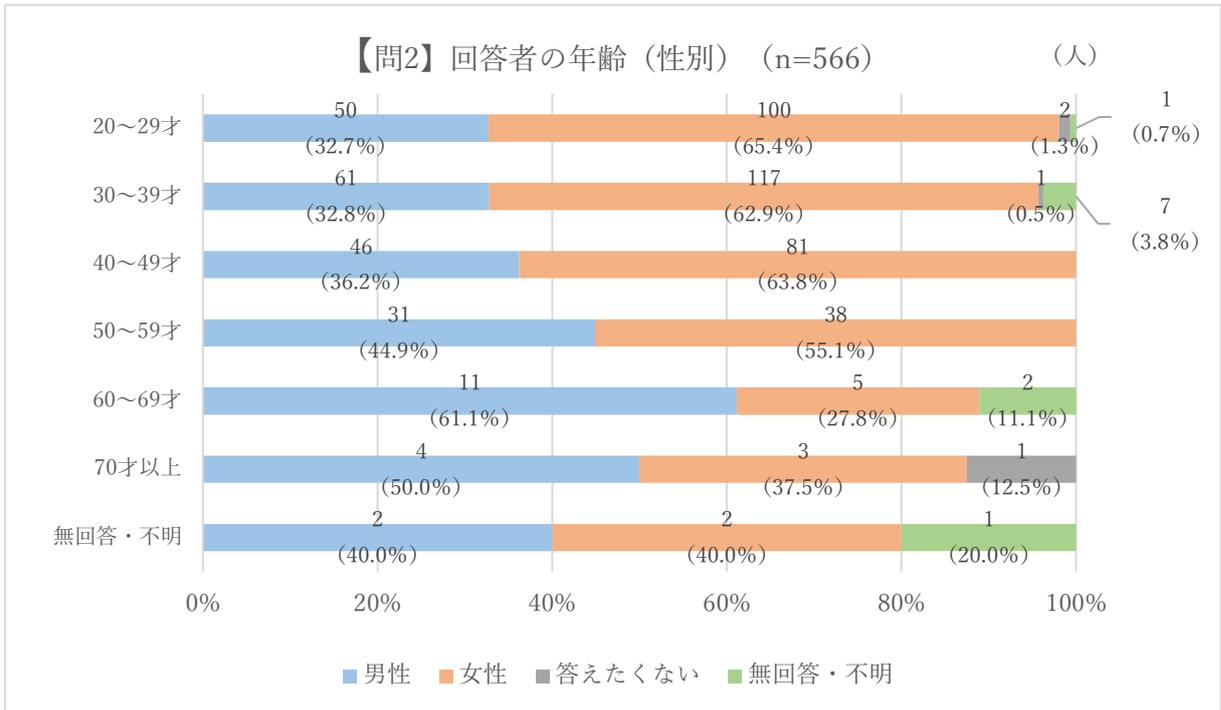
問2 あなたの年齢はどれですか。(1つに○)

1. 20~29才
2. 30~39才
3. 40~49才
4. 50~59才
5. 60~69才
6. 70才以上

回答者の年齢別構成をみると、「30~39才」が 32.9%と最も多く、次いで、「20~29才」が 27.0%、「40~49才」が 22.4%、「50~59才」が 12.2%と続く。以上の4区分の年齢で回答者総数の 94.5%を占めた。「60才以上」は 4.6%と少なかった。



(参考) 【問2】年齢と【問1】性別のクロス集計



【国籍・地域】

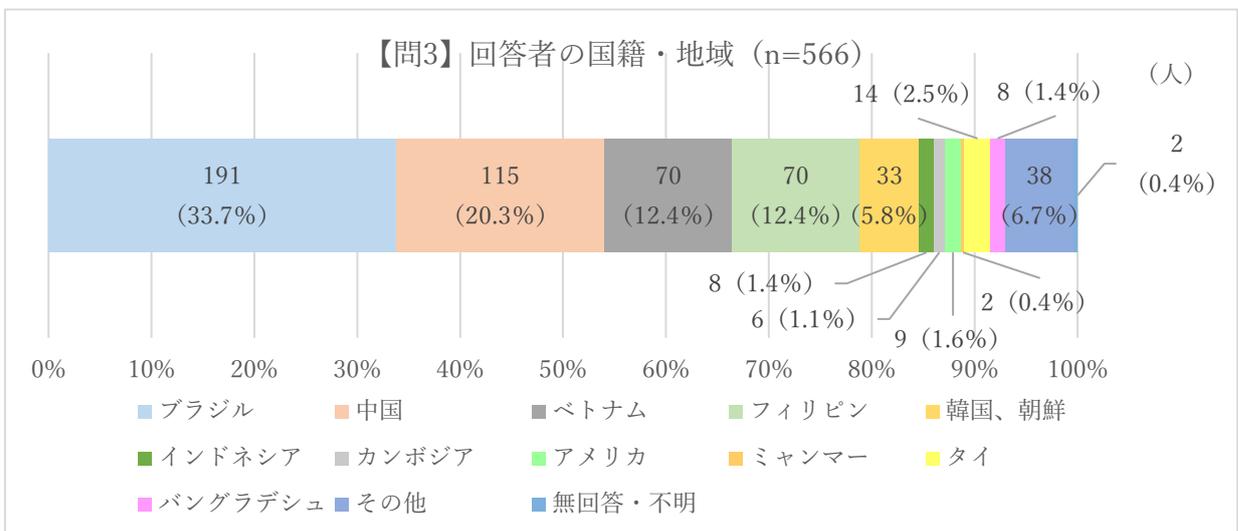
問3 あなたの国籍・地域はどれですか。(1つに○)

(在留カード・特別永住者証明書に書いてある国籍・地域を教えてください)

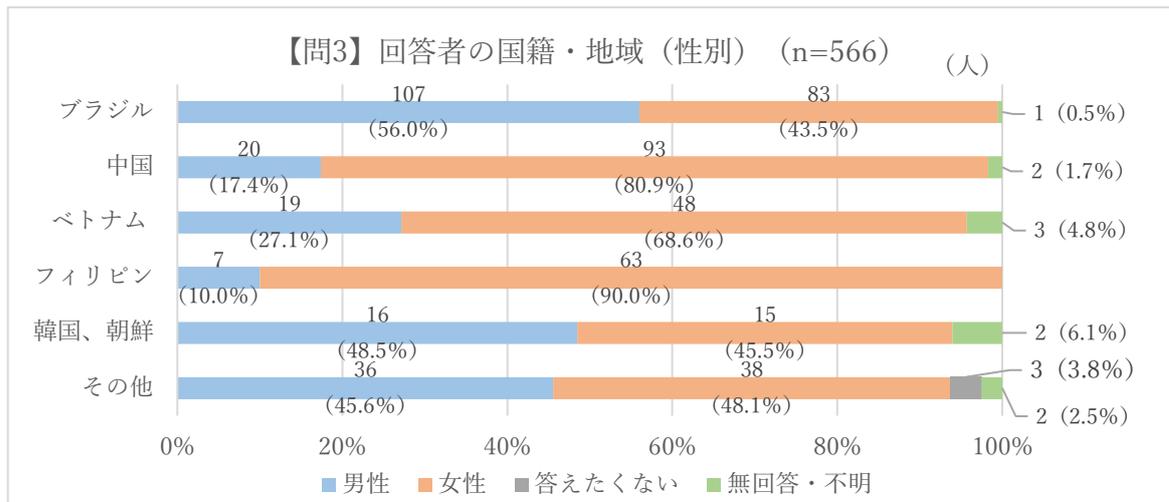
1. ブラジル	7. カンボジア
2. 中国	8. アメリカ
3. ベトナム	9. ミャンマー
4. フィリピン	10. タイ
5. 韓国、朝鮮	11. バングラデシュ
6. インドネシア	12. その他 ()

※島根県の在留外国人数の多い順に記載しています

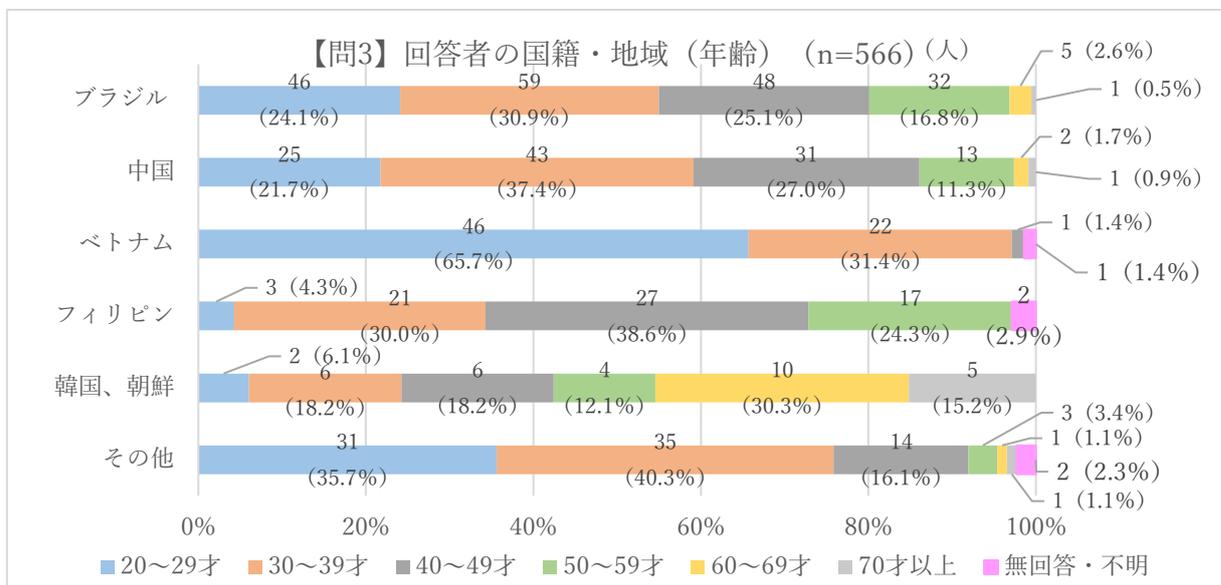
回答者の国籍・地域別割合をみると、「ブラジル」が33.7%と最も多い。次いで、「中国」20.3%、「ベトナム」12.4%、「フィリピン」12.4%と続く。



(参考) 【問3】 国籍・地域と【問1】 性別のクロス集計



(参考) 【問3】 国籍・地域と【問2】 年齢のクロス集計

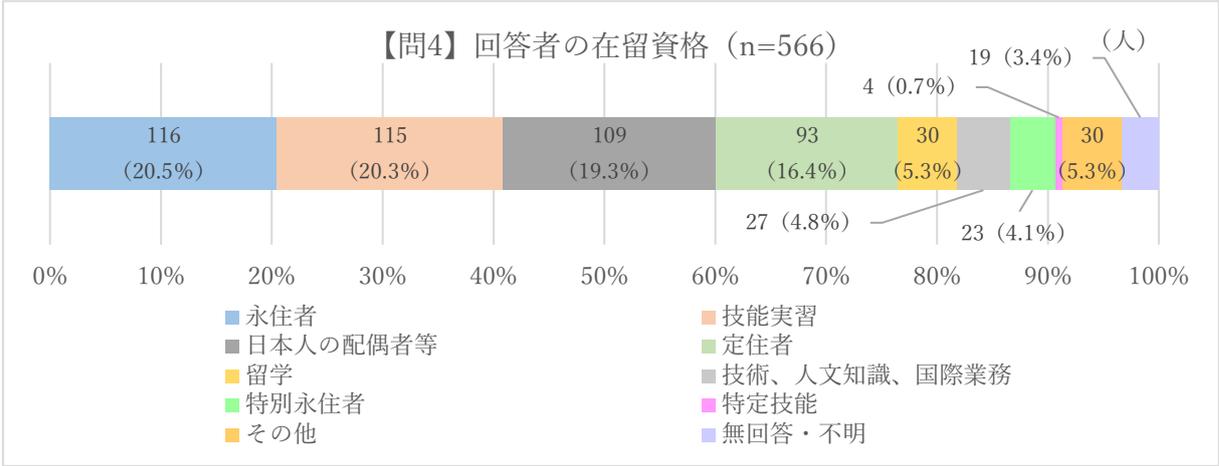


【在留資格】

問4 あなたの在留資格はどれですか。(1つに○)

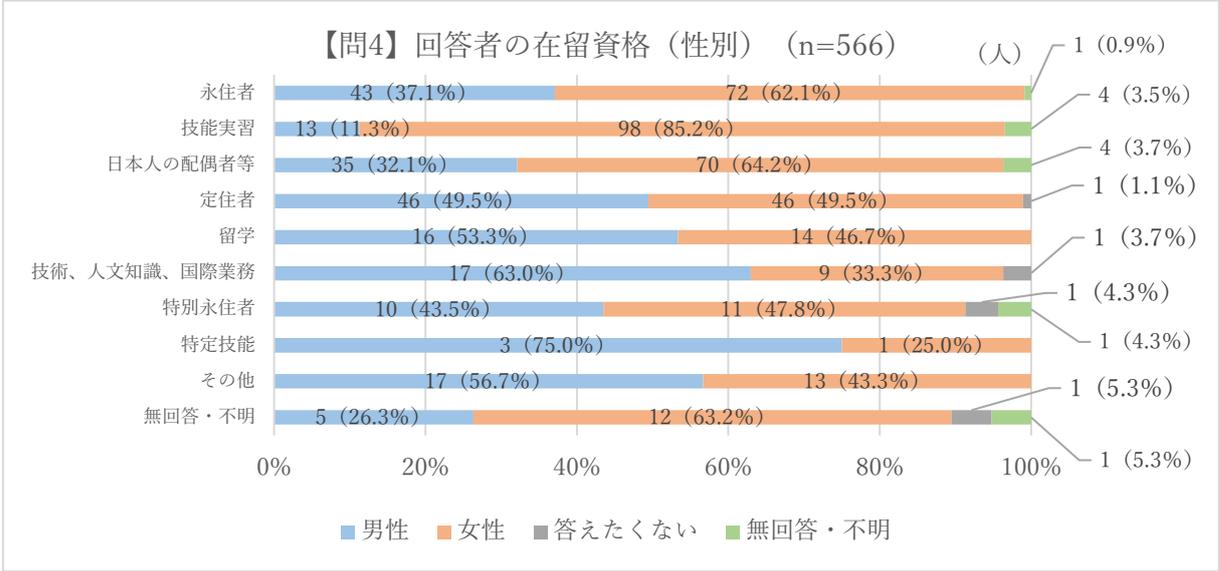
1. 留学
2. 技能実習
3. 特定技能
4. 技術、人文知識、国際業務
5. 日本人の配偶者等
6. 定住者
7. 特別永住者
8. 永住者
9. その他 ()

在留資格別の割合をみると、「永住者」が20.5%、「技能実習」が20.3%、「日本人の配偶者等」が19.3%、「定住者」が16.4%となっており、これら4区分の在留資格で回答者の76.5%を占めた。以下、「留学」5.3%と続き、その他の資格はいずれも5%未満であった。

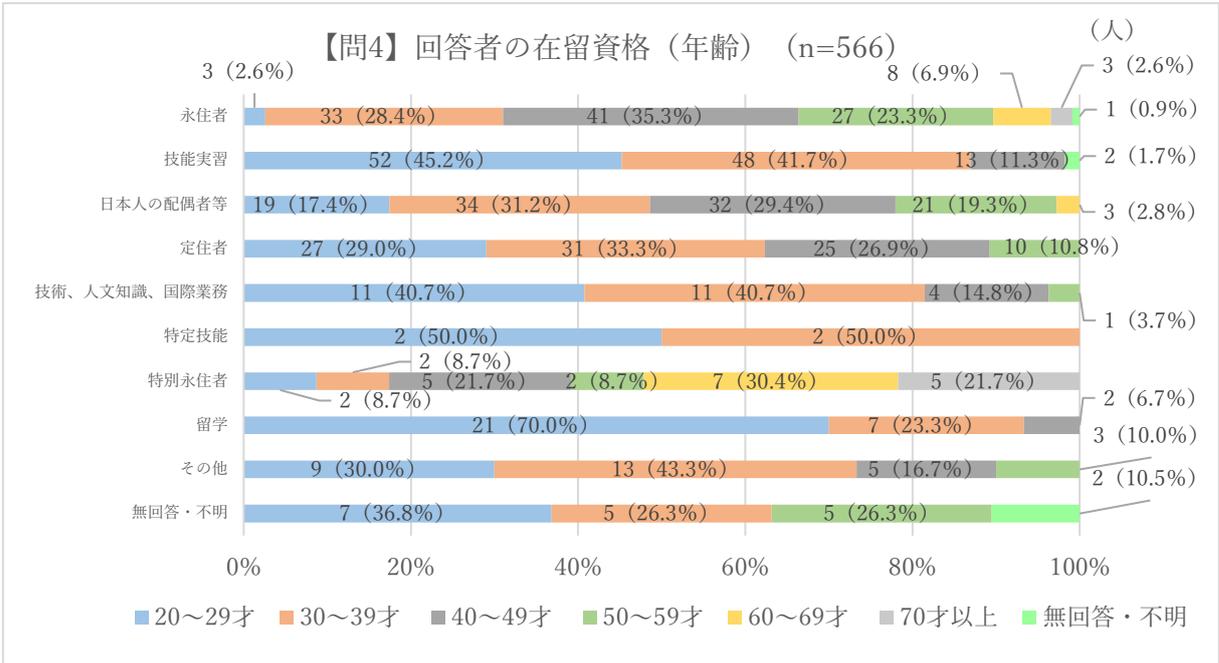


※特定技能 4 名について、回答者の職種が「建設業」「教育、学習支援」が選択されており、特定技能の試験未実施・対象外の職種であるため、選択誤りと判断される。

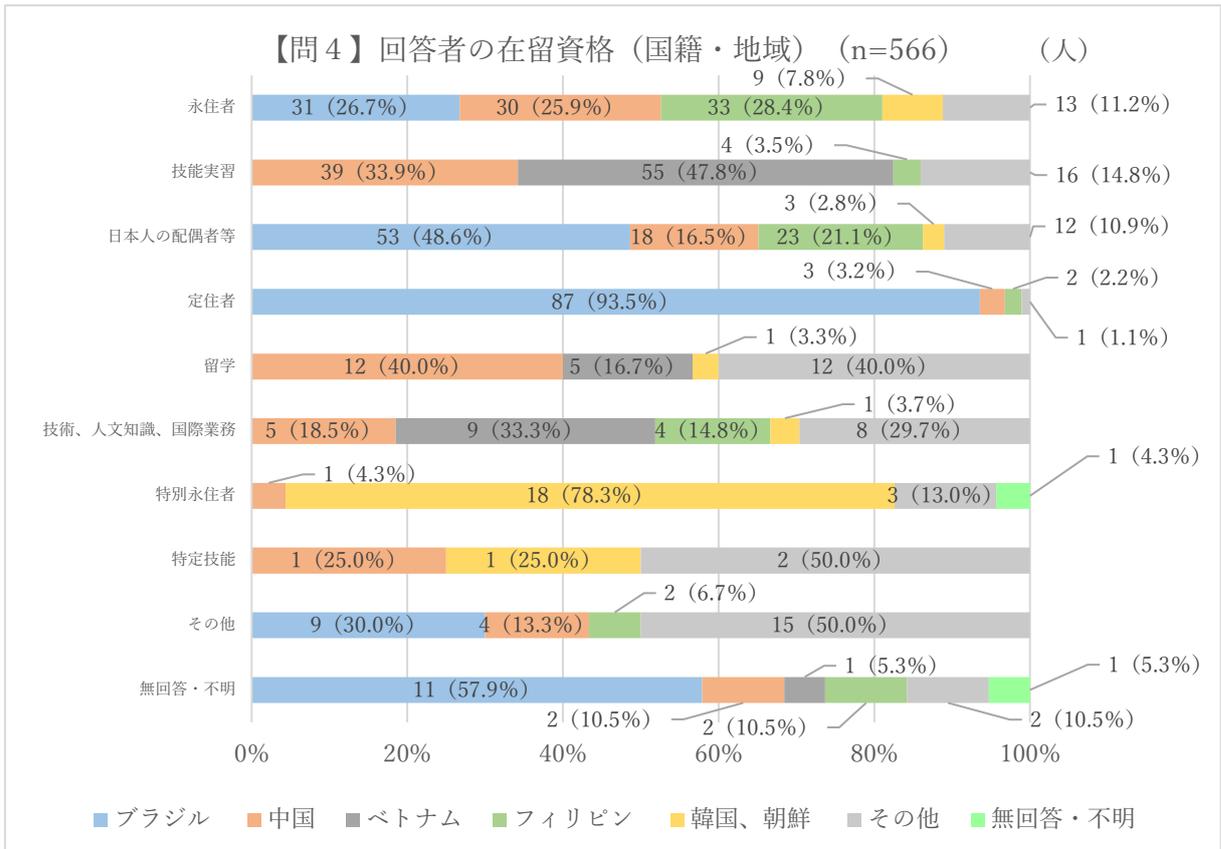
(参考) 【問4】在留資格と【問1】性別のクロス集計



(参考) 【問4】在留資格と【問2】年齢のクロス集計



(参考) 【問4】在留資格と【問3】国籍・地域のクロス集計

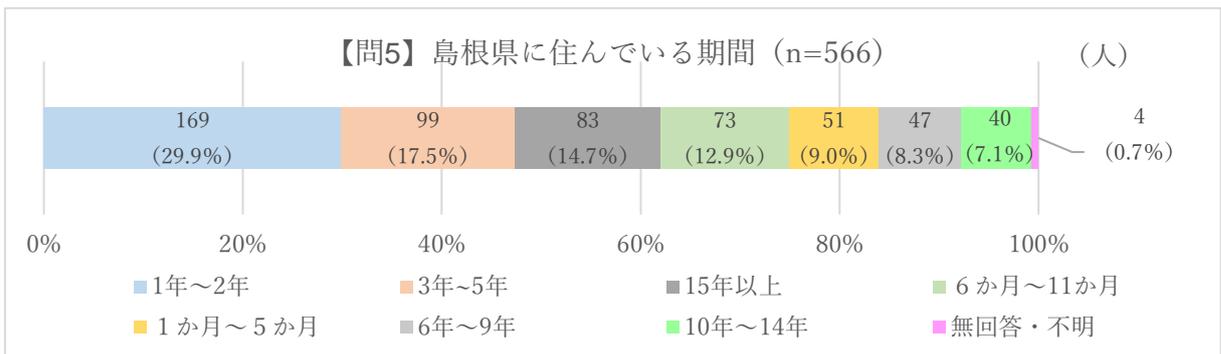


【島根県に住んでいる期間】

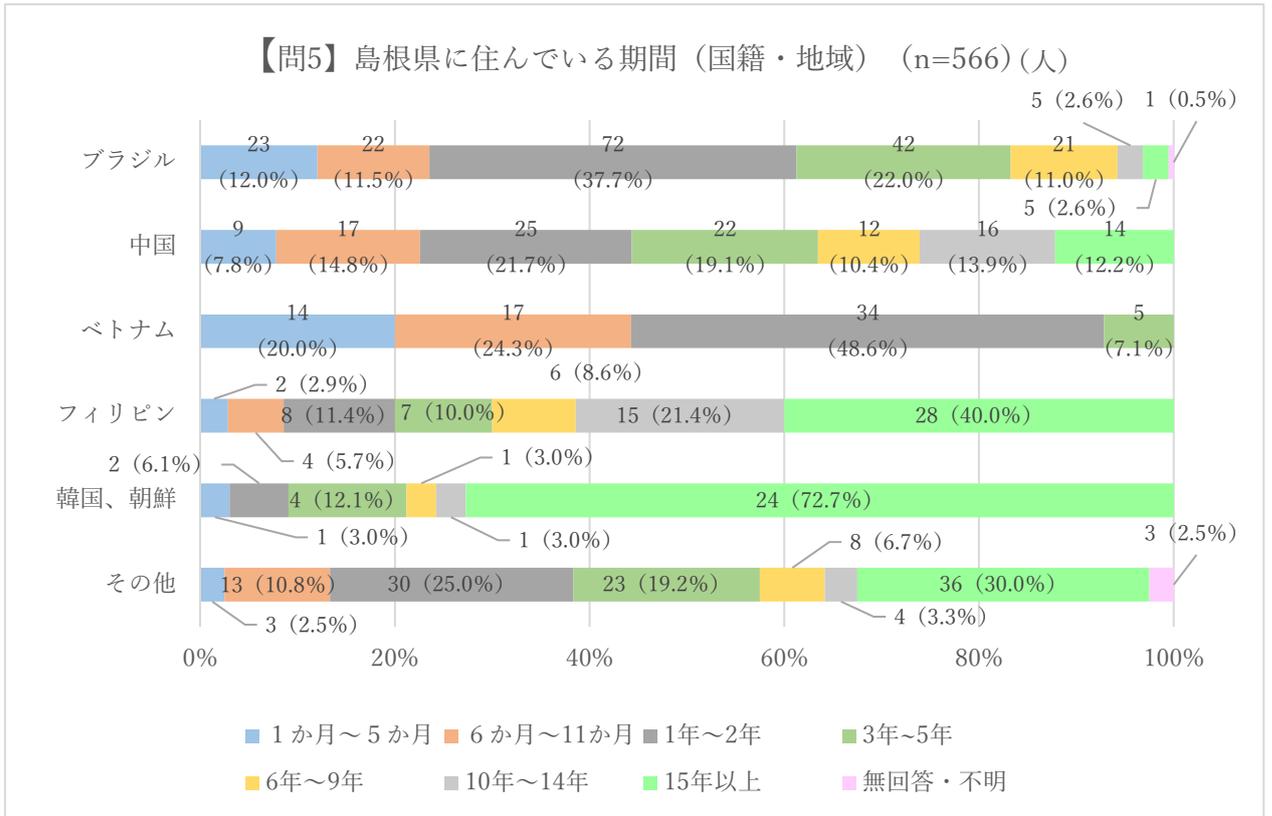
問5 あなたはどのくらい島根県に住んでいますか。（1つに○）

1. 1か月～5か月
2. 6か月～11か月
3. 1年～2年
4. 3年～5年
5. 6年～9年
6. 10年～14年
7. 15年以上

回答者の「島根県での居住期間」をみると、「1年～2年」が29.9%と最も多く、次いで「3年～5年」が17.5%、「6か月～11か月」が12.9%であった。これに「1か月～5か月」9.0%を加えた4区分の期間「1か月～5年」で回答者総数の約7割を占めた。一方、「15年以上」が14.7%であった。



(参考) 【問5】 島根県に住んでいる期間と【問3】 国籍・地域のクロス集計

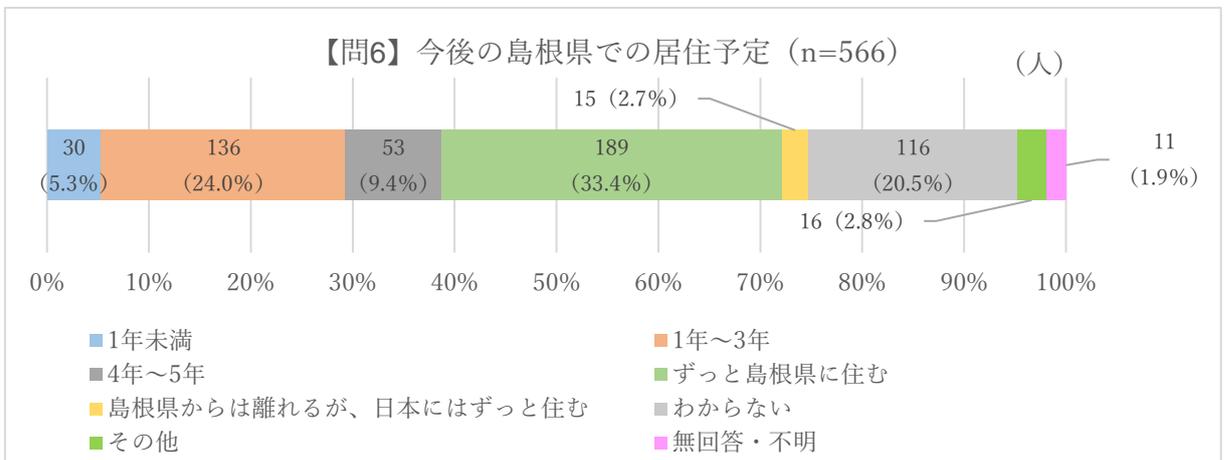


【今後の居住予定期間】

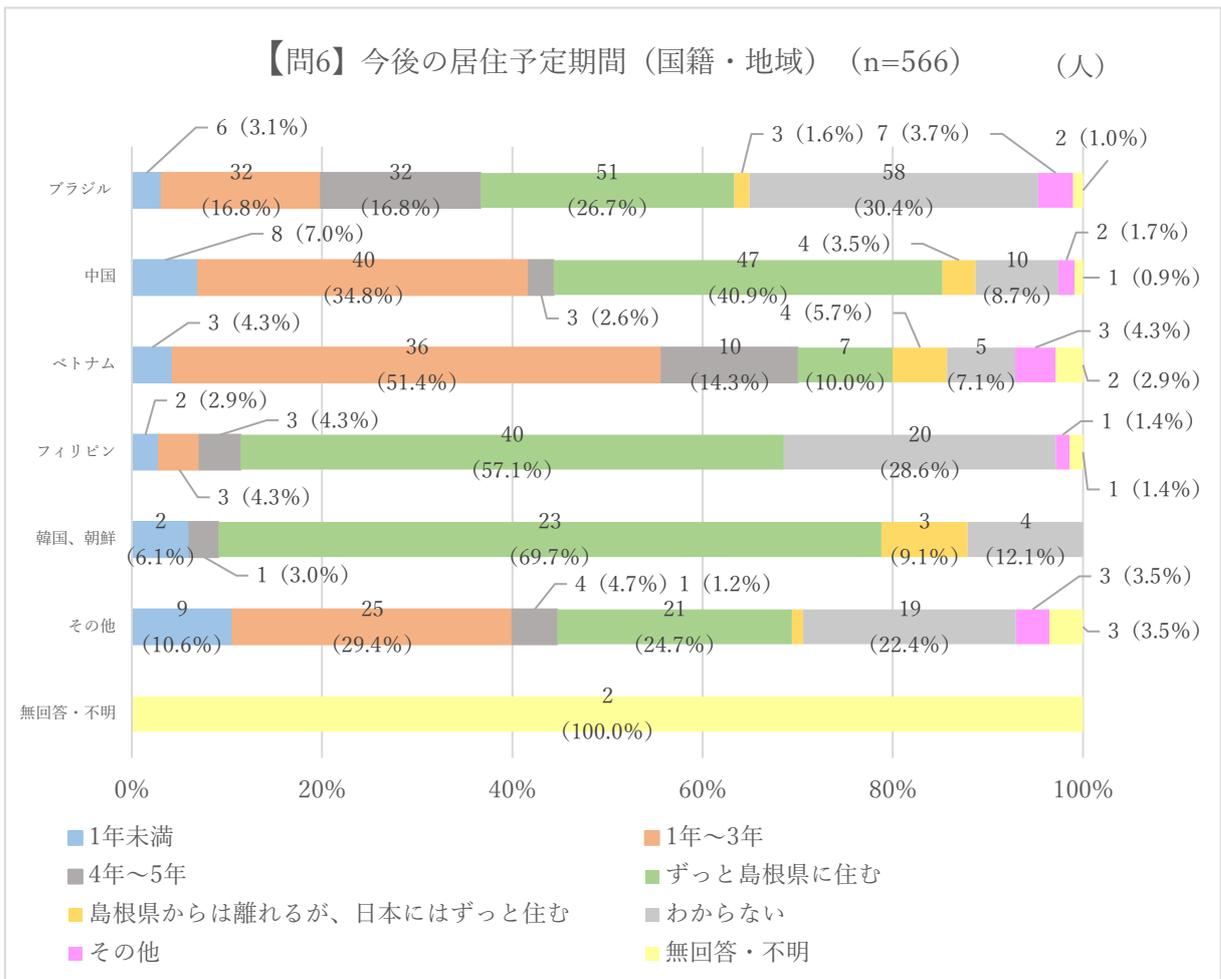
問6 あなたはこれから、どのくらい島根県に住む予定ですか。(1つに○)

1. 1年未満
2. 1年～3年
3. 4年～5年
4. ずっと島根県に住む
5. 島根県からは離れるが、日本にはずっと住む
6. わからない
7. その他 ()

「これから、どのくらい島根県に住む予定か」をみると、「ずっと島根県に住む」が33.4%で最も多く、次いで、「1年～3年」が24.0%、「わからない」が20.5%であった。



(参考) 【問6】 今後の居住予定期間と 【問3】 国籍・地域のクロス集計

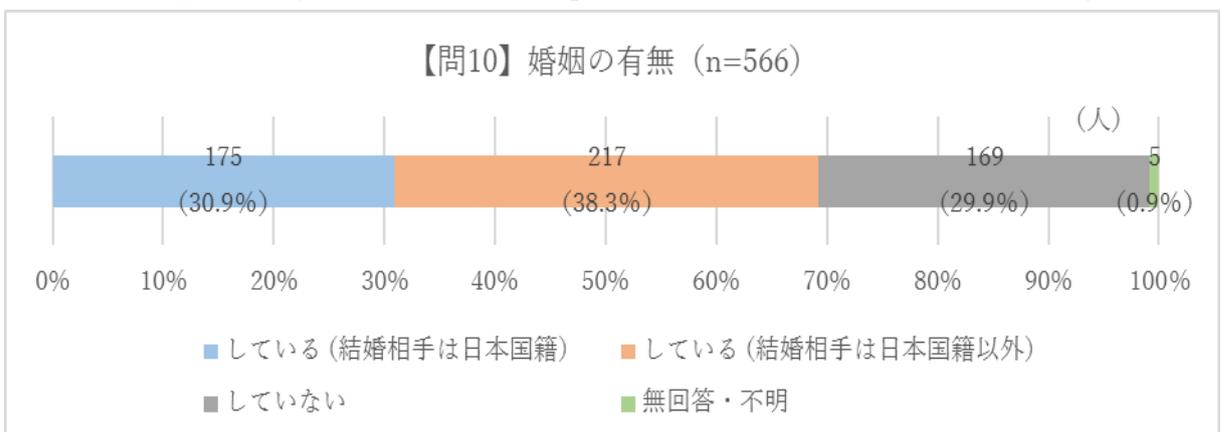


【婚姻関係の有無】

問10 あなたは結婚していますか。(1つに○)

1. している (結婚相手は日本国籍)
2. している (結婚相手は日本国籍以外)
3. していない

「結婚している(結婚相手は日本国籍以外)」が38.3%、「結婚している(結婚相手は日本国籍)」は30.9%であった。「結婚相手の国籍にかかわらず結婚している」との回答は約7割を占めた。「結婚していない」と回答した者は、29.9%であった。



2. 雇用・労働

就業の状態については「仕事をしている」と答えた者が87.8%に及んだ。なお、「無職」は、「20～29才」7.8%、「30～39才」6.5%、「40～49才」7.1%、「50～59才」13.0%、「60～69才」22.2%、「70歳以上」12.5%となり、若い世代で「仕事をしていない」者もみられた。

職業は「製造業(電子機器)」33.0%をはじめ、「製造業(繊維工業)」9.2%、「製造業(食料品)」6.5%や「製造業(鉄鋼業)」4.8%を合わせると製造業が5割(53.5%)を超える。

最も多かった製造業(電子機器)に従事する者に目を向けると、「男性」56.1%と、男性が半数を上回る。年齢別では「30～39才」28.9%、「20～29才」27.8%の順となった。国籍別では「ブラジル」が87.2%と最も多い。在留資格別では「定住者」41.2%が一番多く、「日本人の配偶者等」が28.3%で続く。「島根県での居住期間」については、「1年～2年」が38.0%で最も多く、「3年～5年」が20.9%で続く。「これからの居住予定期間」については、「わからない」が27.8%で最も多い。「平均月収」については、「20万～29万円」63.1%が最も多く、「10～19万円」20.3%、「30万円以上」10.7%の順であった。婚姻については、「日本国籍以外の相手と結婚している」51.9%が、「結婚していない」29.9%と「日本国籍の相手と結婚している」17.6%を上回った。「子どもの有無」については、「子どもがいない」が54.0%であるが、「子どもがいる」も43.9%となっており、子どもがいる者が約半数近くを占めた。製造業(電子機器)に従事する者については、ブラジル国籍の夫婦と子どもがいる家庭が多い傾向がうかがえる。

1か月あたりの平均収入は、「10万～19万円」が36.4%で一番多い。「30万円以上」が7.6%となっている一方、「10万円未満」が19.1%となり、平均収入が「30万円以上」の者と「10万円未満」の者と二極化の傾向が見られる。平均収入を国籍別に見ると、ブラジルは「20～29万円」64.9%が最も多く、「30万円以上」も12.0%であった。中国53.0%、ベトナム68.6%、フィリピン50.0%で「10～19万円」が最も多く、中国31.3%、ベトナム21.4%、フィリピン30.0%が「10万円未満」となっている。平均収入「10万円未満」が最も多い在留資格は、「留学」80.0%で、「永住者」25.0%、「日本人の配偶者等」20.2%、「技能実習」13.0%が続く。

「10～19万円」は「技能実習」83.5%、「留学」10.0%となっている。なお、「技能実習」は「無回答」3.5%と回答した者以外の全員(96.5%)が、平均収入「20万円未満」となっており、その他の在留資格と比べて平均収入が低い傾向にあることがわかる。なお「10～19万円」の平均収入が最も多い業種は、「農業、林業」80.0%であった。

母国への送金については、「している」56.7%が、「していない」37.5%を大きく上回っている。送金「していない」が最も少なかったのは「技能実習」18.3%となっており、平均収入が低い傾向にあるが母国へ送金している者が多いことがわかる。

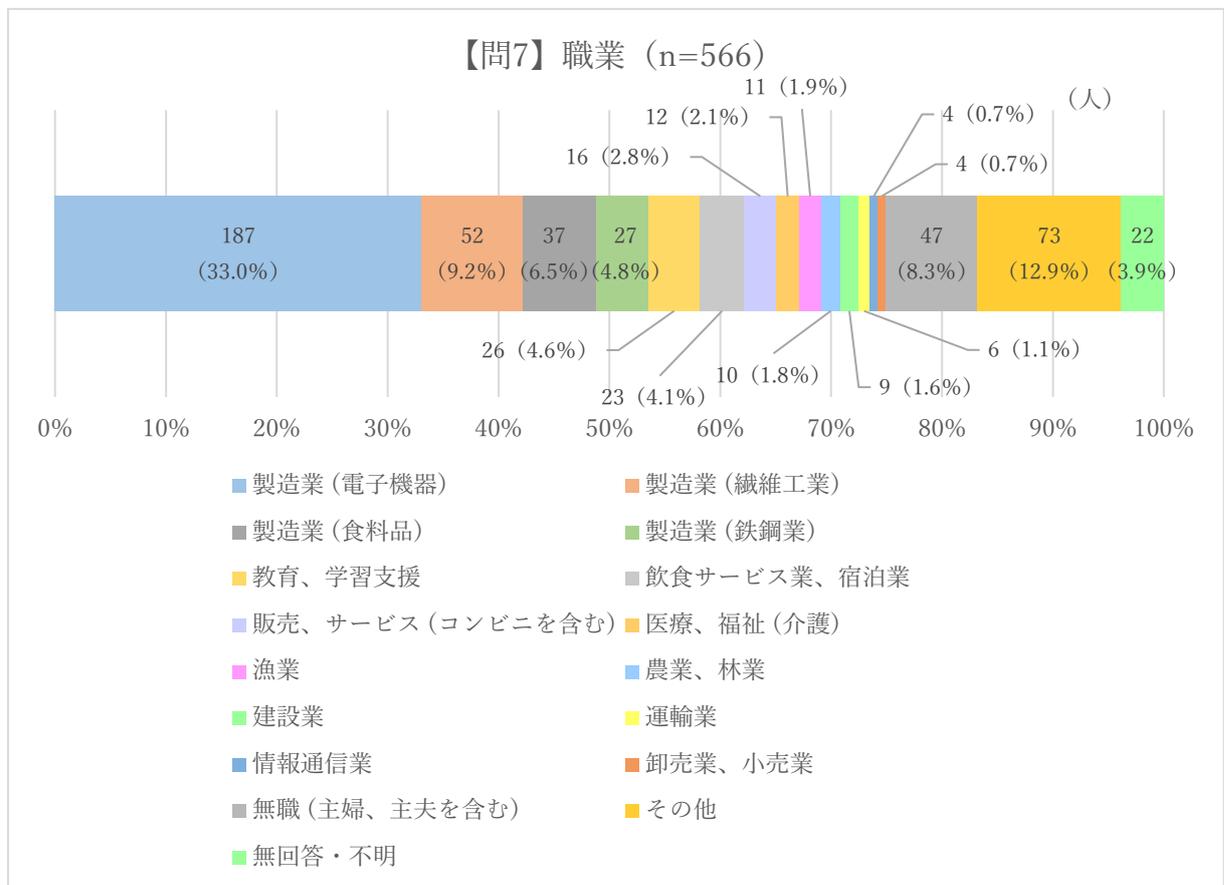
休日の過ごし方は、「買い物に行く」が59.2%と最も多く、「家事をする」が54.4%、「家でテレビや映画を見る」が36.6%、「寝る」が29.2%、「趣味」が24.7%、「家でゲームやインターネットをする」が23.9%、「ドライブをする」が16.4%、「スポーツをする」が9.5%の順となった。休日は家事や趣味などをして過ごしている様子が見える。

【職業】

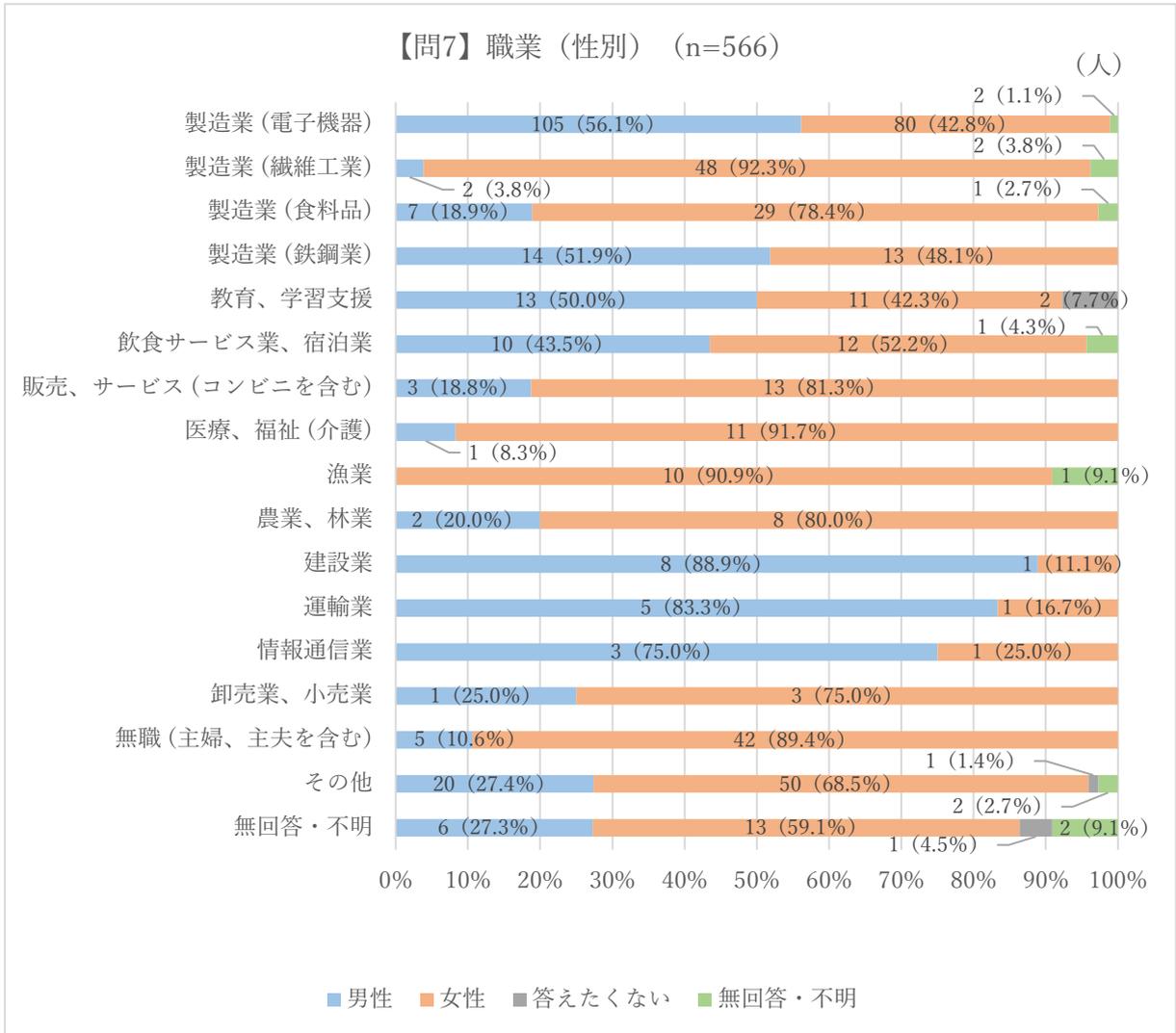
問7 あなたのお仕事は何ですか。(アルバイトを含む)

1. 農業、林業
2. 漁業
3. 建設業
4. 製造業（食料品）
5. 製造業（繊維工業）
6. 製造業（電子機器）
7. 製造業（鉄鋼業）
8. 情報通信業
9. 運輸業
10. 販売、サービス（コンビニを含む）
11. 卸売業、小売業
12. 飲食サービス業、宿泊業
13. 教育、学習支援
14. 医療、福祉（介護）
15. その他（ ）
16. 無職（主婦、主夫を含む）

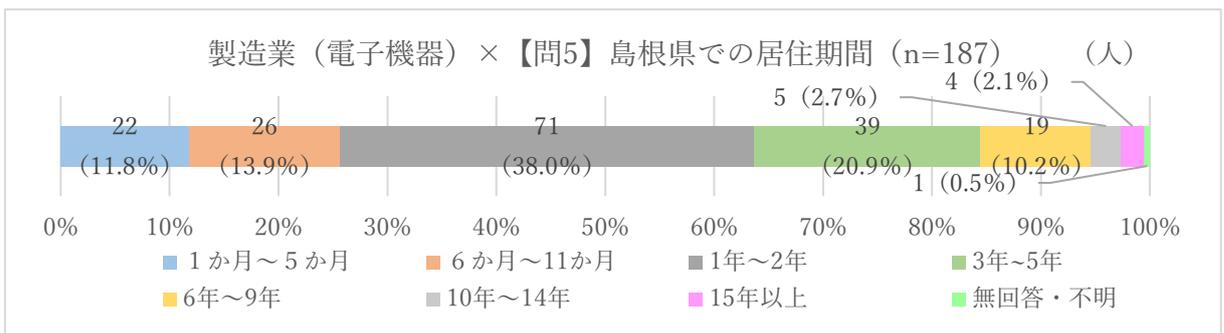
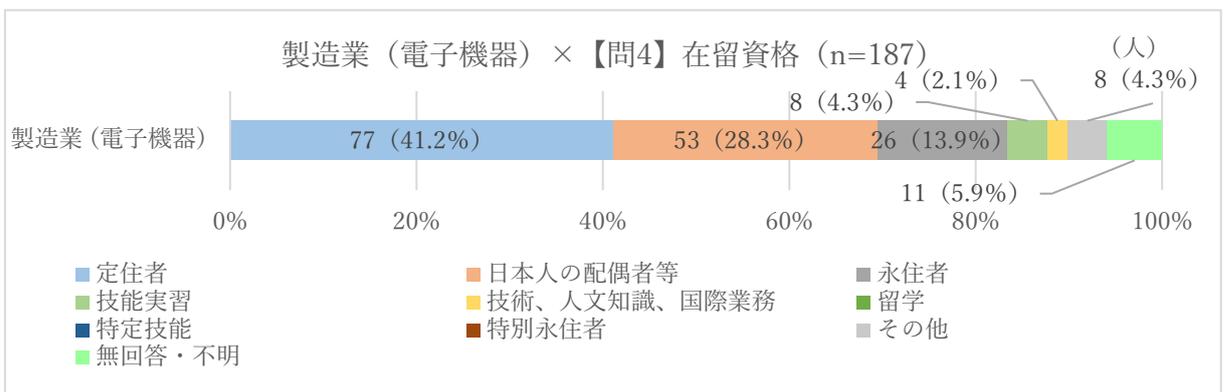
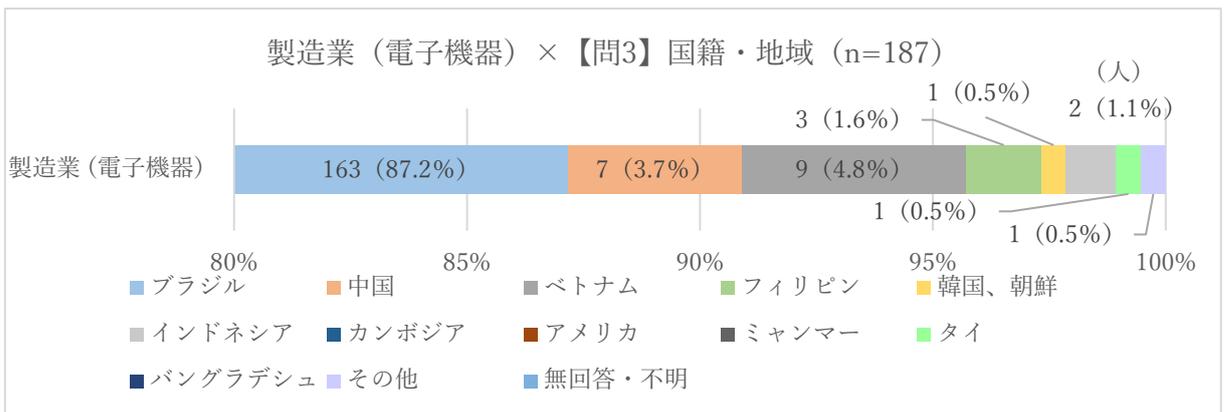
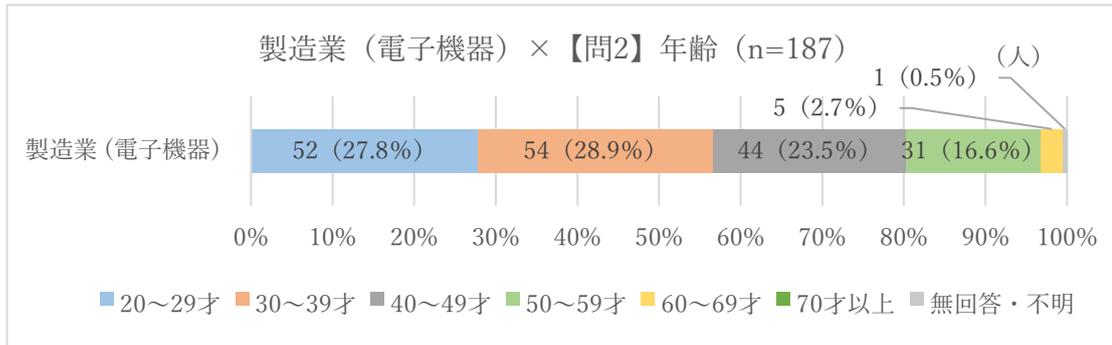
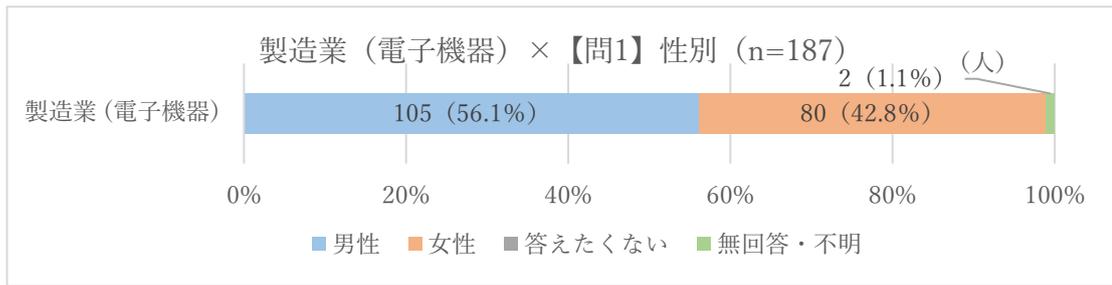
就業の状態については「仕事をしている」と答えた者が87.8%であった。職業についてみると、製造業(電子機器)で働く者が33.0%と最も多い。その他の製造業もすべて合計すると、全体の53.5%を占める。

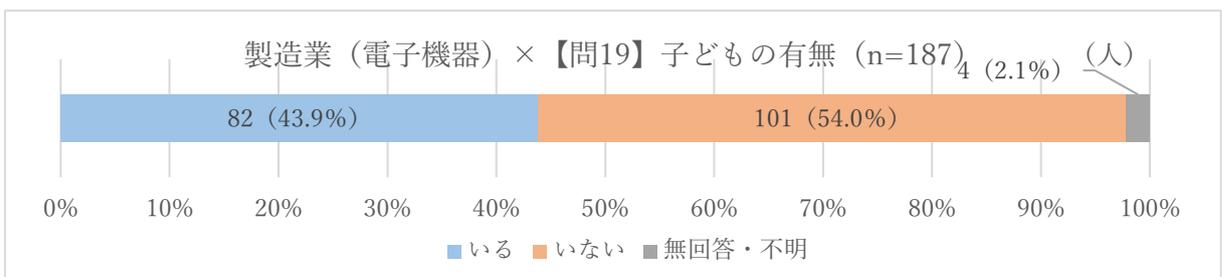
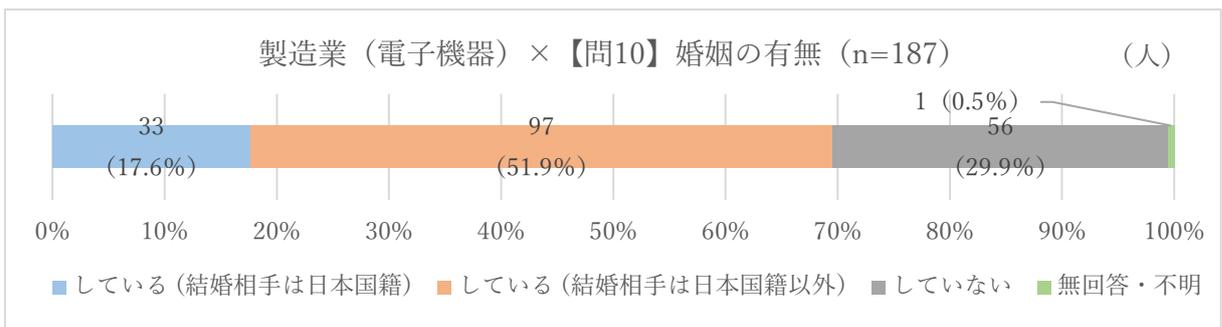
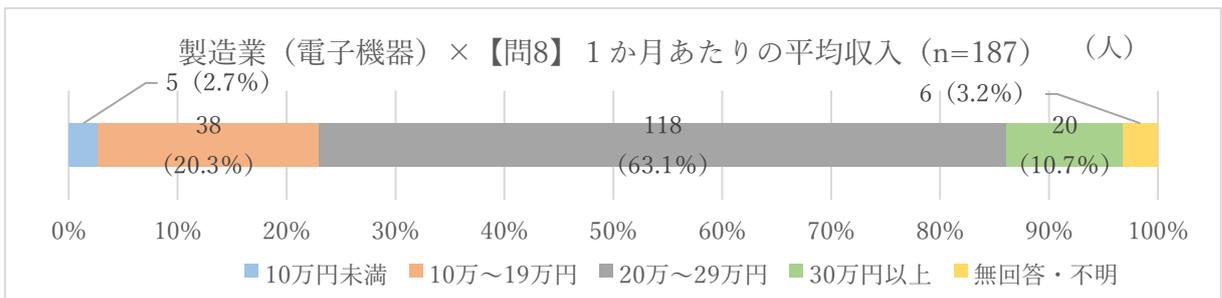
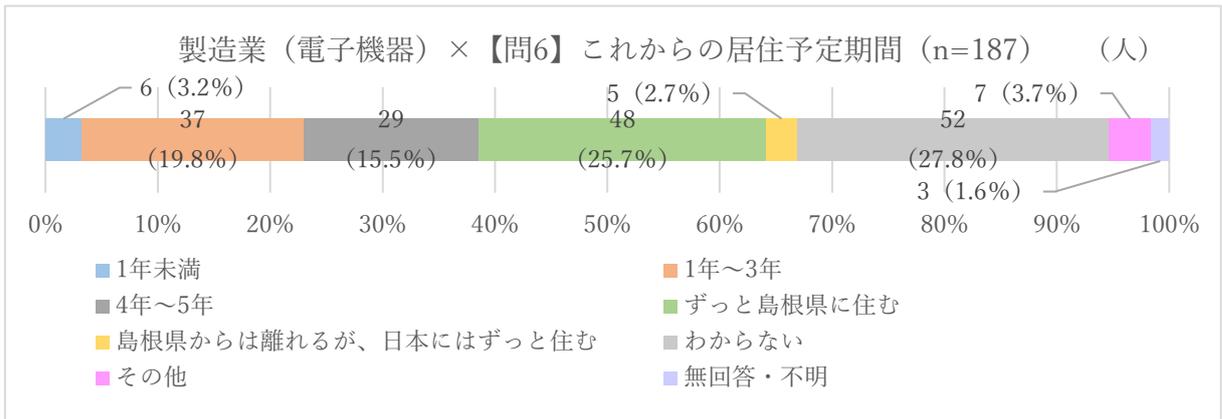


(参考) 【問7】職業と【問1】性別のクロス集計



(参考) 製造業（電子機器）のクロス集計結果





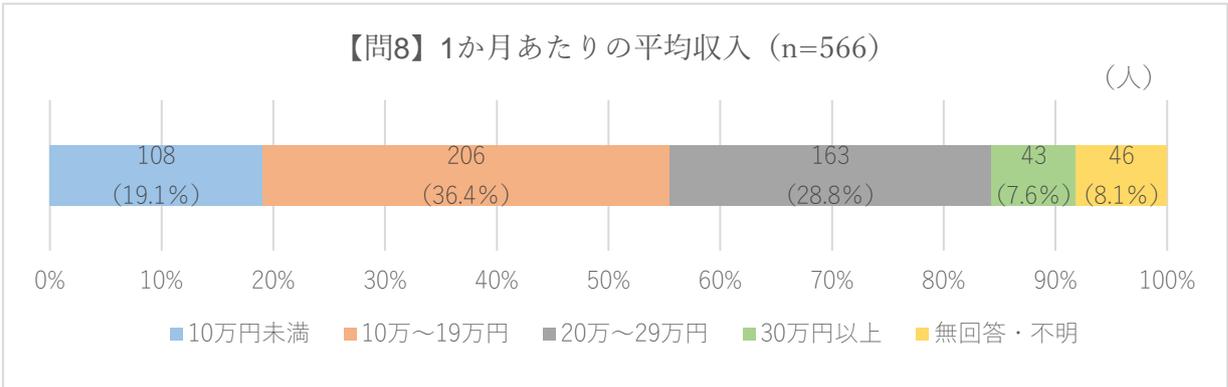
【1か月あたりの平均収入】

問8 あなたの1か月あたりの平均的な収入は次のうちどれですか。（1つに○）

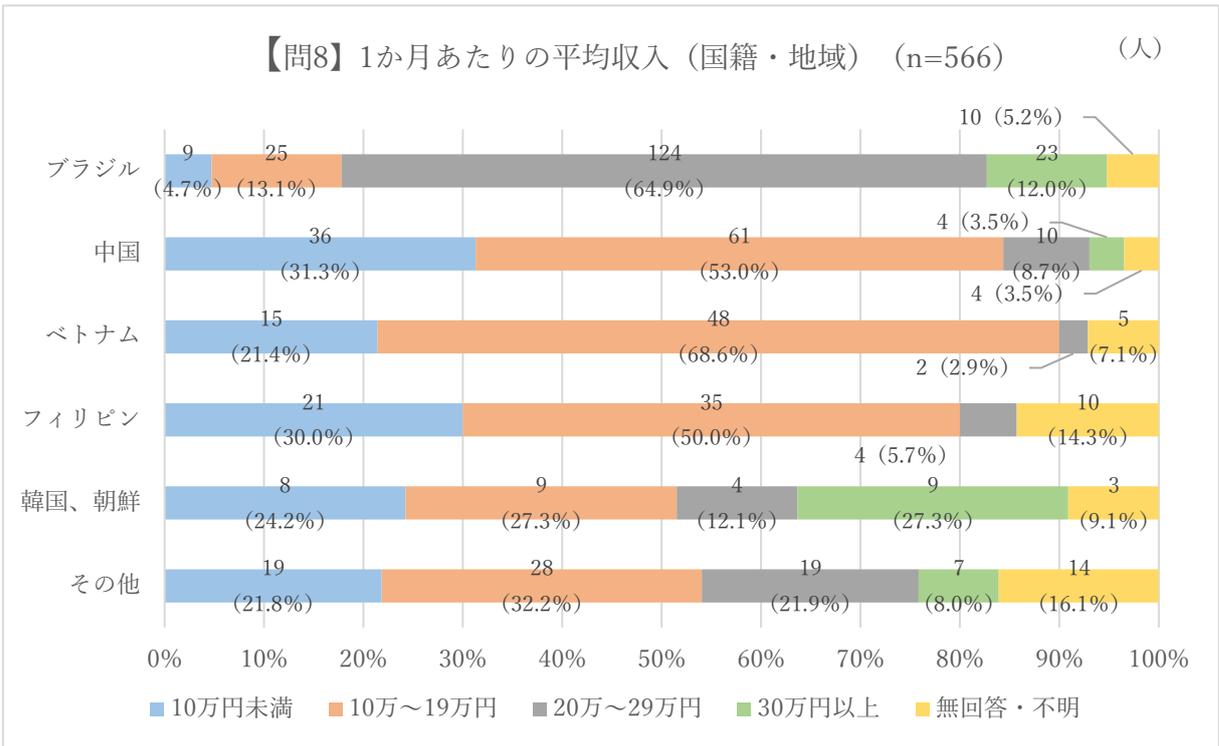
（アルバイトを含む）

1. 10万円未満
2. 10万～19万円
3. 20万～29万円
4. 30万円以上

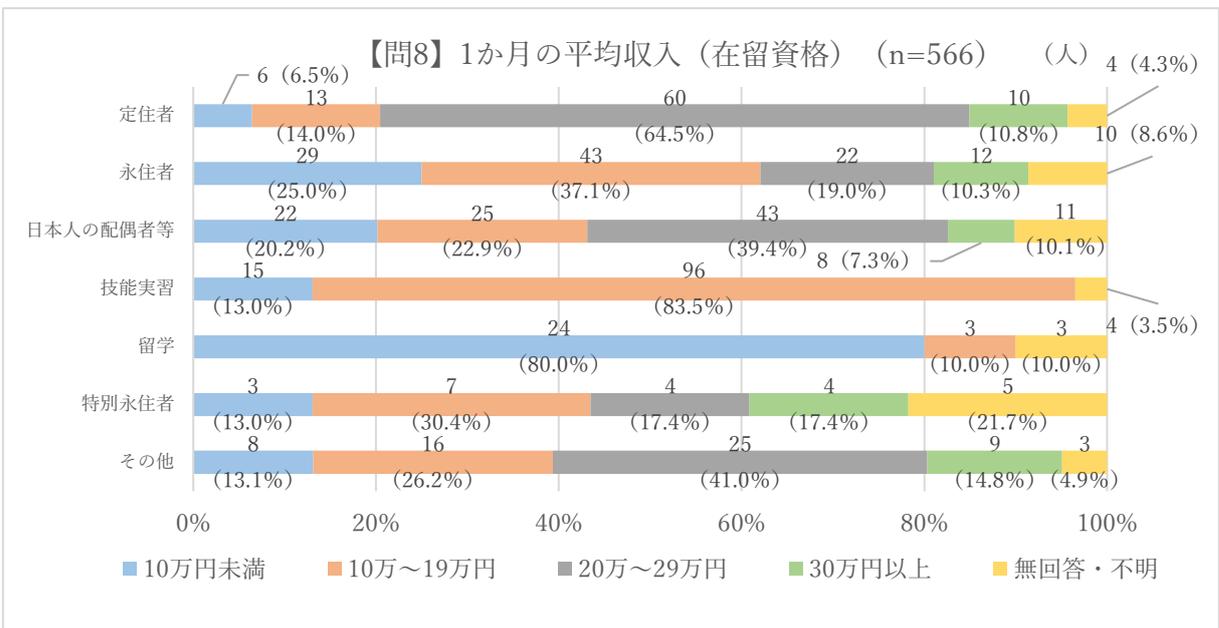
1か月あたりの平均収入については、「10万～19万円」が36.4%で最も多く、「20万～29万円」が28.8%、「10万円未満」が19.1%、「30万円以上」が7.6%の順となった。



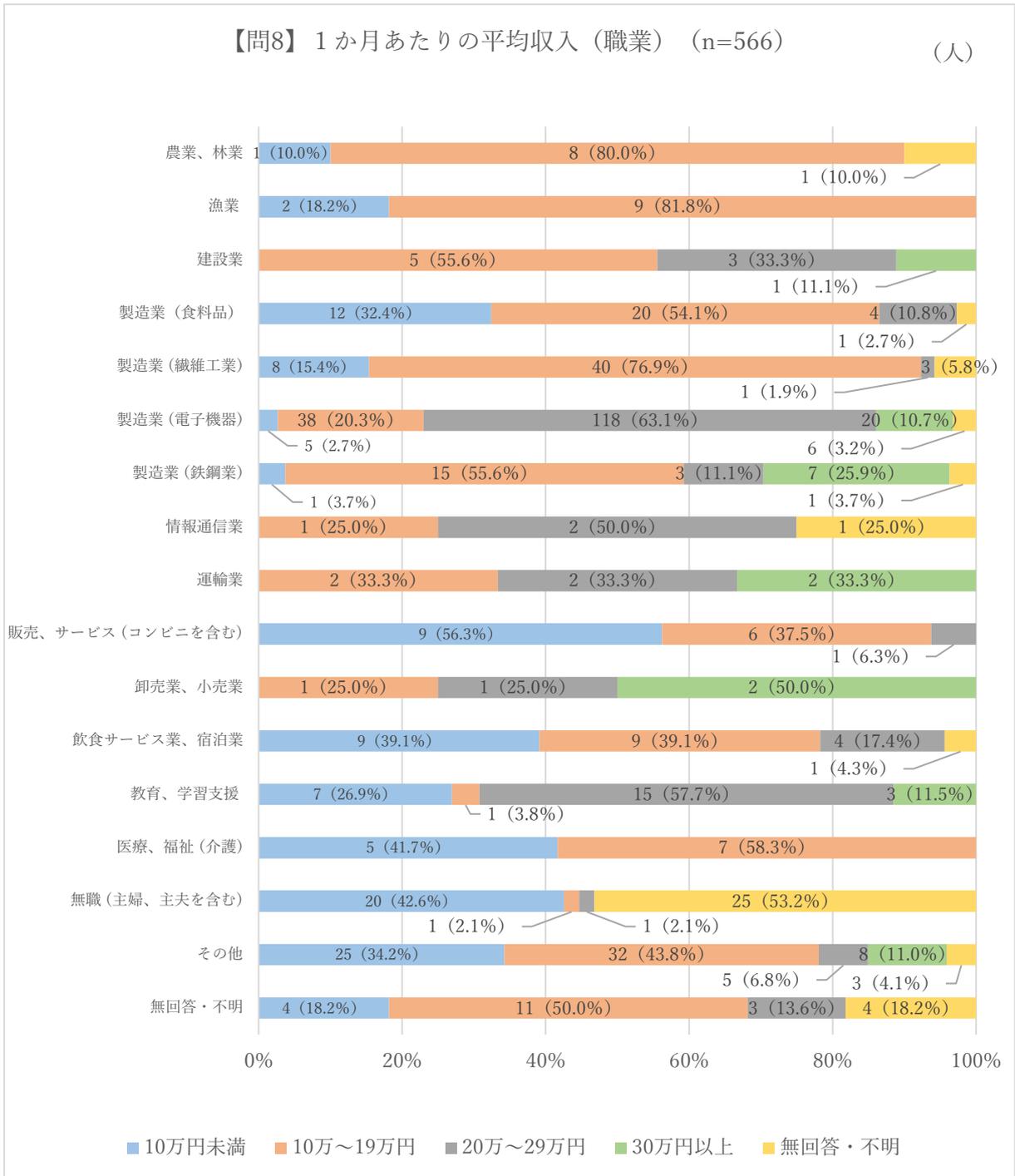
(参考) 【問8】1か月あたりの平均年収と【問3】国籍・地域のクロス集計



(参考) 【問8】1か月の平均収入と【問4】在留資格のクロス集計



(参考) 【問8】 1か月の平均収入と【問7】 職業のクロス表

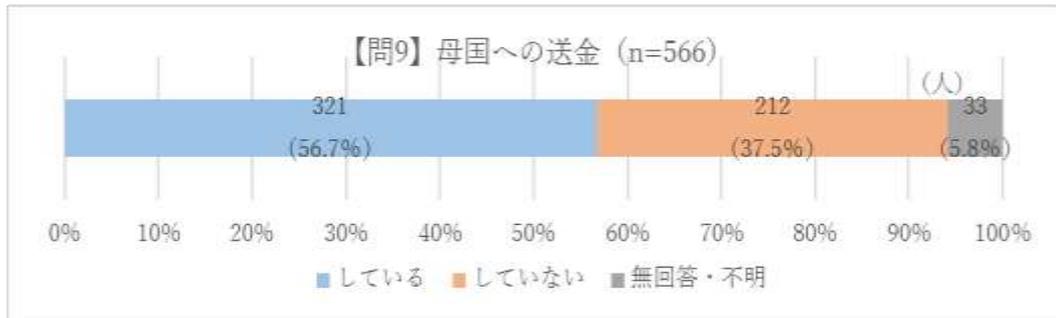


【母国への送金】

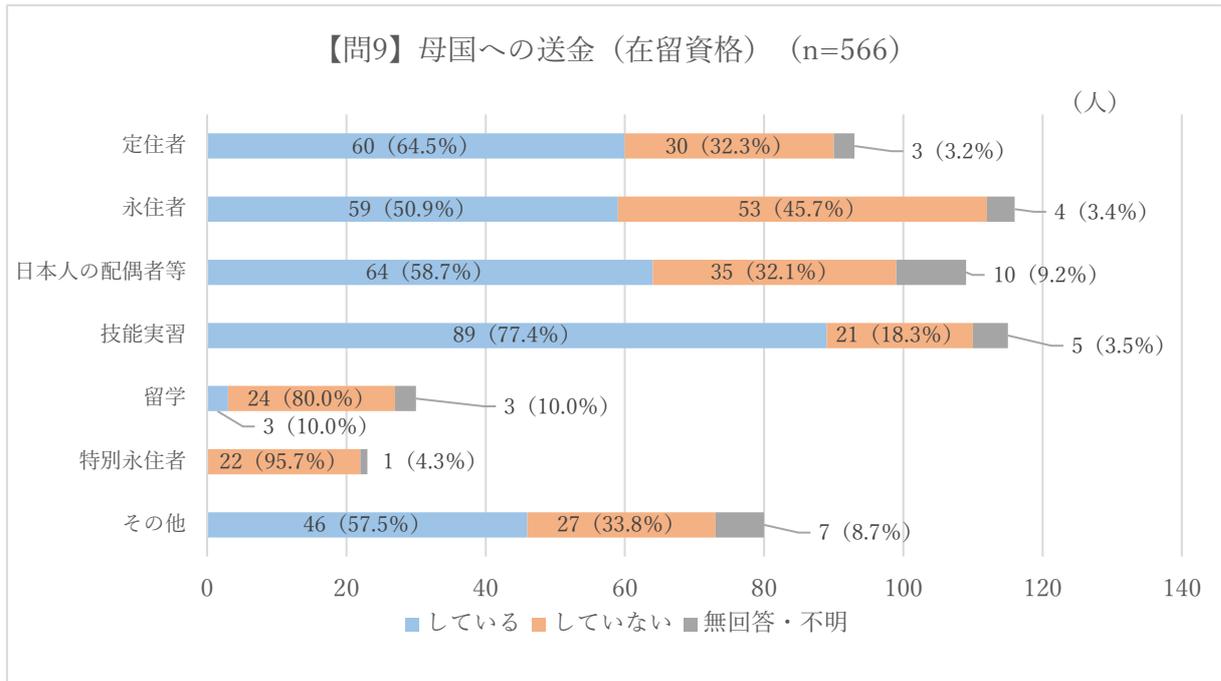
問9 あなたは母国に送金をしていますか。（1つに○）

1. している（1年間で（ ）万円くらい）
2. していない

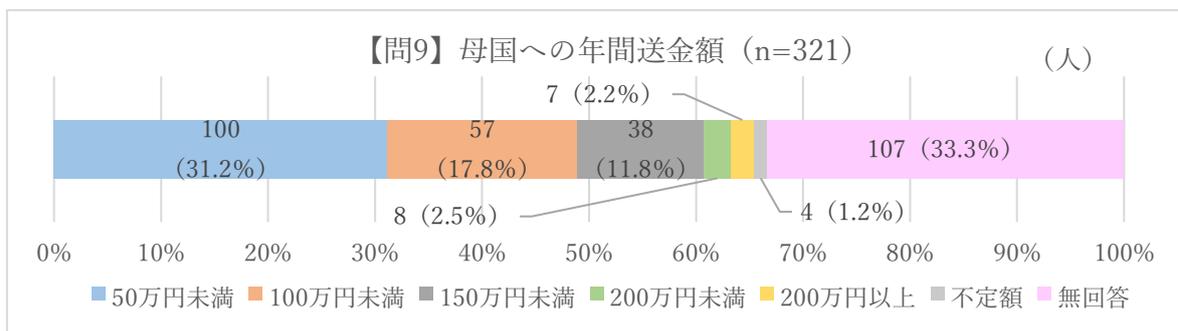
母国への送金については、「している」が56.7%、「していない」が37.5%と、送金している者が多かった。



(参考) 【問9】 母国への送金と【問4】 在留資格のクロス集計



母国への年間送金額は、年額 50 万円未満が 31.2%で最も多く、100 万円未満が 17.8%、150 万円未満が 11.8%と続く。

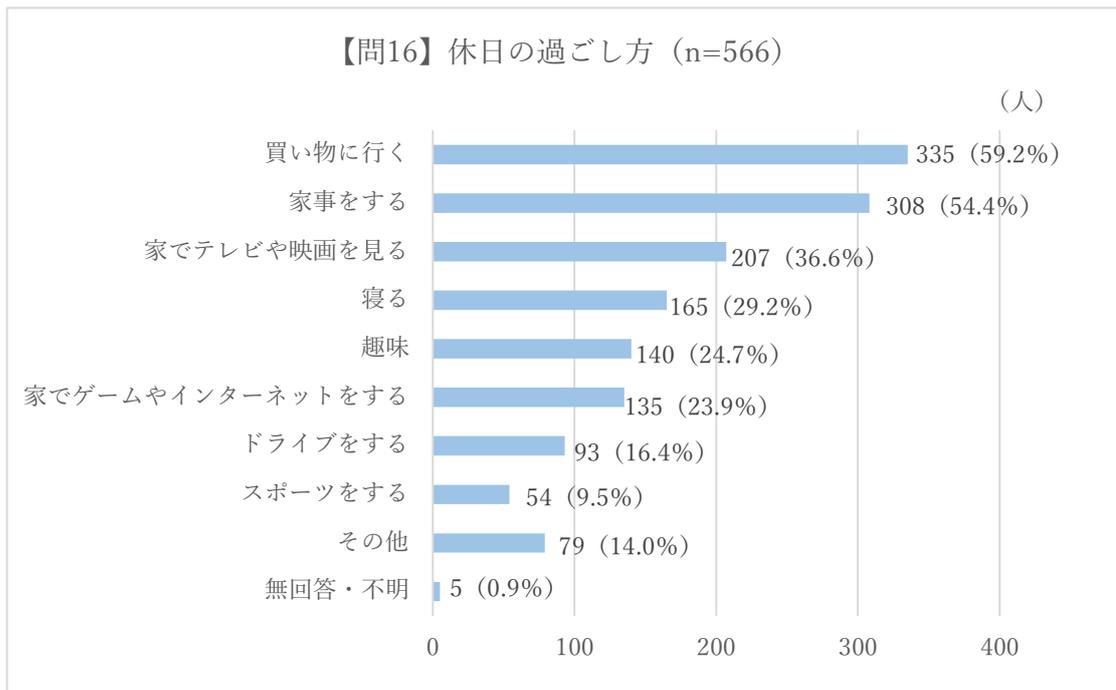


【休日の過ごし方】

問 16 あなたは休みの日は何をして過ごすことが多いですか。(特にあてはまるもの3つに○)

1. 家でテレビや映画を見る
2. 家でゲームやインターネットをする
3. 買い物に行く
4. 寝る
5. 家事をする
6. 趣味
7. ドライブをする
8. スポーツをする
9. その他 ()

休日の過ごし方をみると、「買い物に行く」が59.2%と最も多く、「家事をする」が54.4%、「家でテレビや映画を見る」が36.6%、「寝る」が29.2%、「趣味」が24.7%、「家でゲームやインターネットをする」が23.9%、「ドライブをする」が16.4%、「スポーツをする」が9.5%の順となった。休日は、家事や趣味などをして過ごしている様子がうかがえる。



3. 居住

同居している人については、「結婚相手」が 50.4%、「子ども」が 29.9%と、家族と住んでいる者が多い。一方、「友人・知人」と住んでいる者も 15.4%を占めた。

同居している人数は、「2人」15.4%、「3人」14.1%、「4人」11.1%と家族世帯が多いと見られる一方で、「1人で住んでいる」5.8%といった単身世帯も見られる。

同居している人数を国籍別にみると、在留資格「技能実習」が多いベトナムと中国では、10人以上、あるいは15～20人までの同居が分散して見られる。なお、「技能実習」では15～20人が3.5%あった。

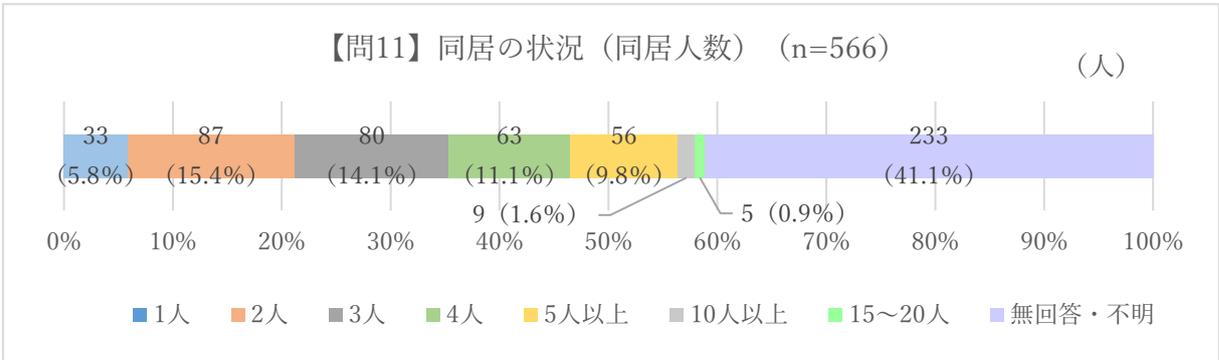
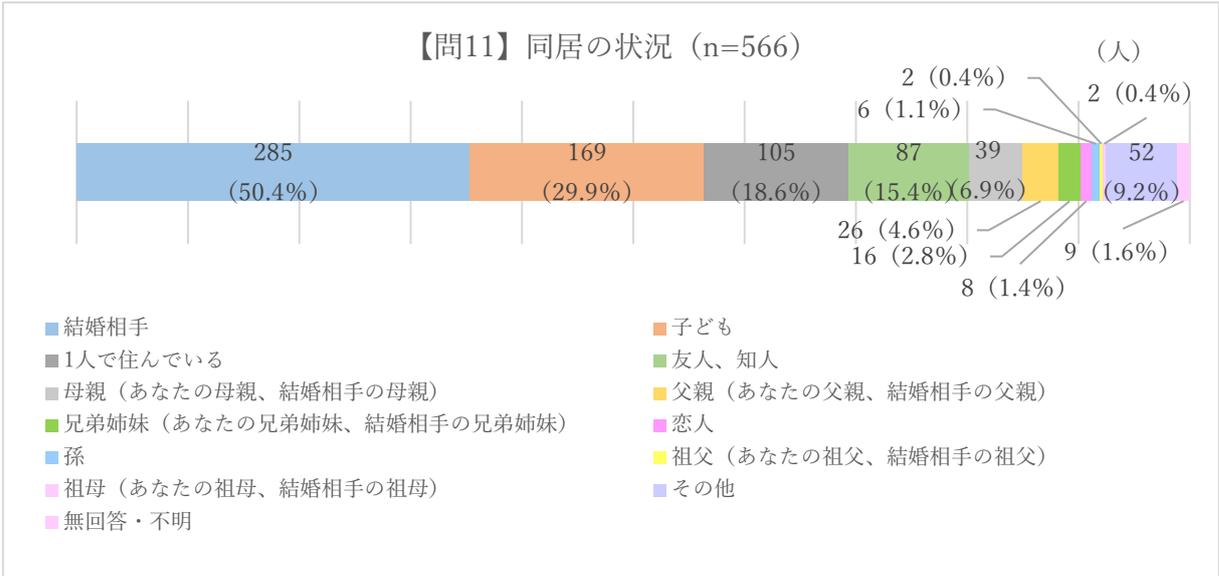
住まいについてみると、「会社の社宅や会社契約のアパート」に住んでいる者50.9%が最も多い。国籍別にみると、「ベトナム」84.3%が最も多く、「ブラジル」が75.4%で続く。在留資格別では「技能実習」89.6%が最も多く、「定住者」が76.3%であった。「自分で借りている民間のアパート」は14.5%、「購入した一戸建て(マンションも含む)」に住む者も15.7%であった。「購入した一戸建て(マンションも含む)」に住む者の国籍は、「韓国、朝鮮」が48.5%が最も多く、「フィリピン」40.0%で続く。

【同居人】

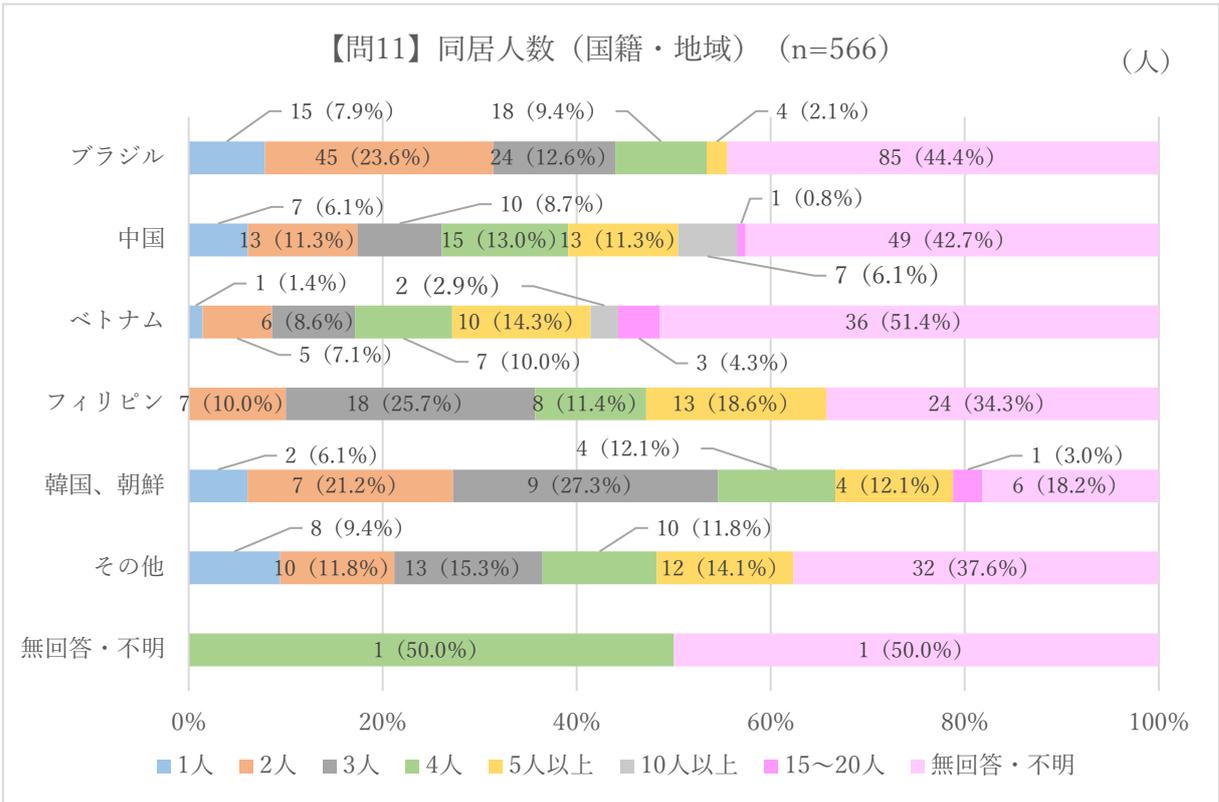
問11 あなたは今、誰と住んでいますか。(あてはまるもの全てに○をし、人数を書いてください)

<ol style="list-style-type: none">1. 1人で住んでいる2. 結婚相手3. 子ども4. 父親(あなたの父親、結婚相手の父親)5. 母親(あなたの母親、結婚相手の母親)6. 祖父(あなたの祖父、結婚相手の祖父)7. 祖母(あなたの祖母、結婚相手の祖母)8. 恋人9. 兄弟姉妹(あなたの兄弟姉妹、結婚相手の兄弟姉妹)10. 孫11. 友人、知人12. その他()	自分をあわせて全員で ()人
---	--------------------

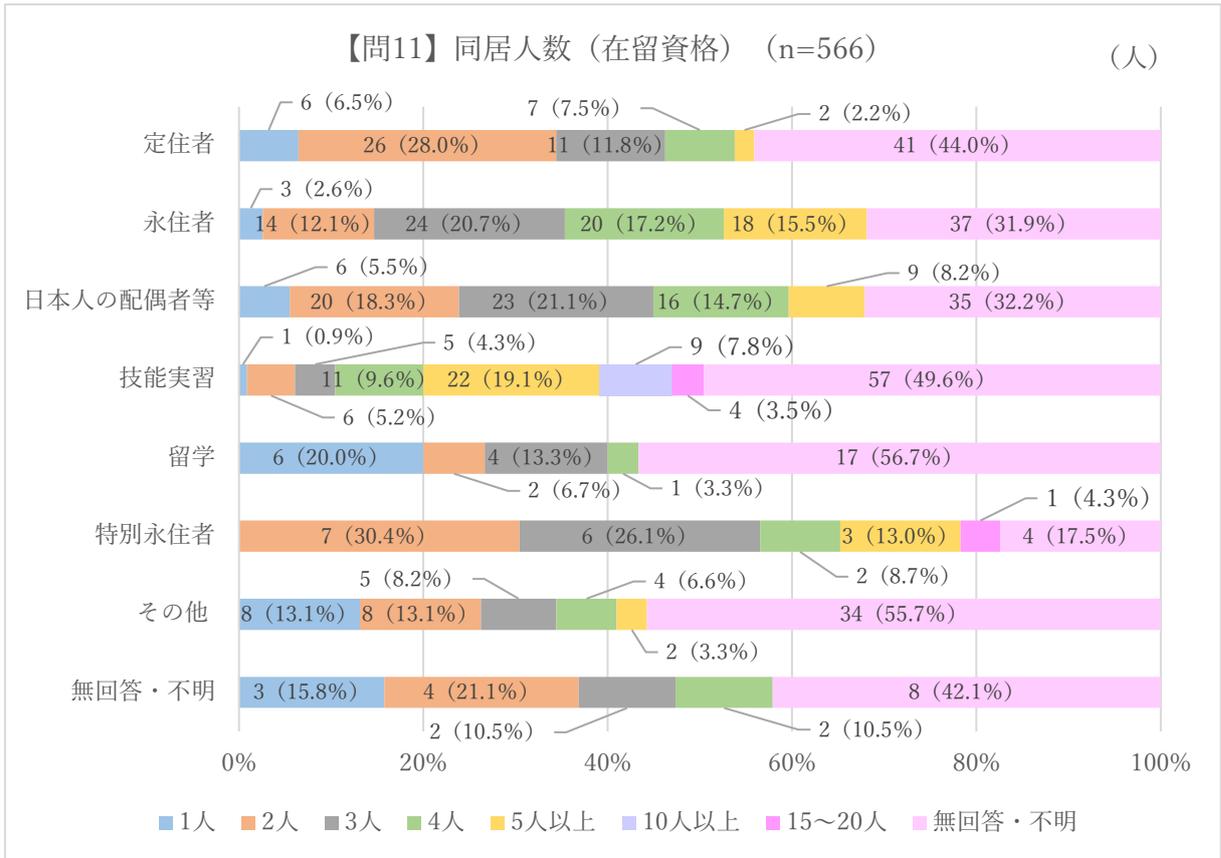
「今、誰と住んでいるか」についてみると、複数回答可で聞いたところ、「結婚相手」が50.4%、「子ども」が29.9%、「友人・知人」が15.4%であった。このうち、「自分をあわせて全員で何人と住んでいるか」について聞いたところ、「2人」は15.4%、「3人」は14.1%、「4人」は11.1%であった。一方、「1人で住んでいる」は5.8%であり、家族世帯が単身世帯より多いことがわかる。



(参考) 【問 11】同居人数と【問 3】国籍・地域のクロス集計



(参考) 【問 11】 同居人数と【問 4】 在留資格のクロス集計

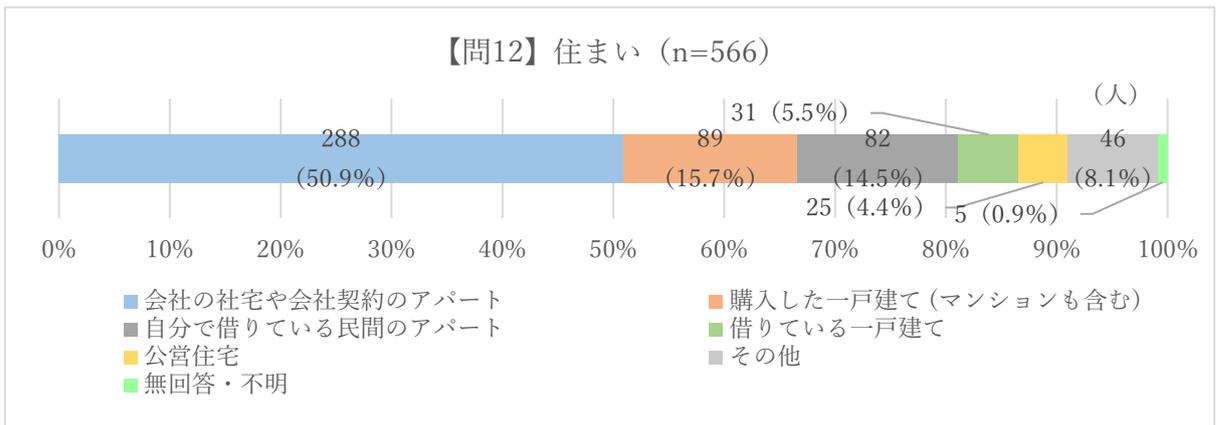


【住まい】

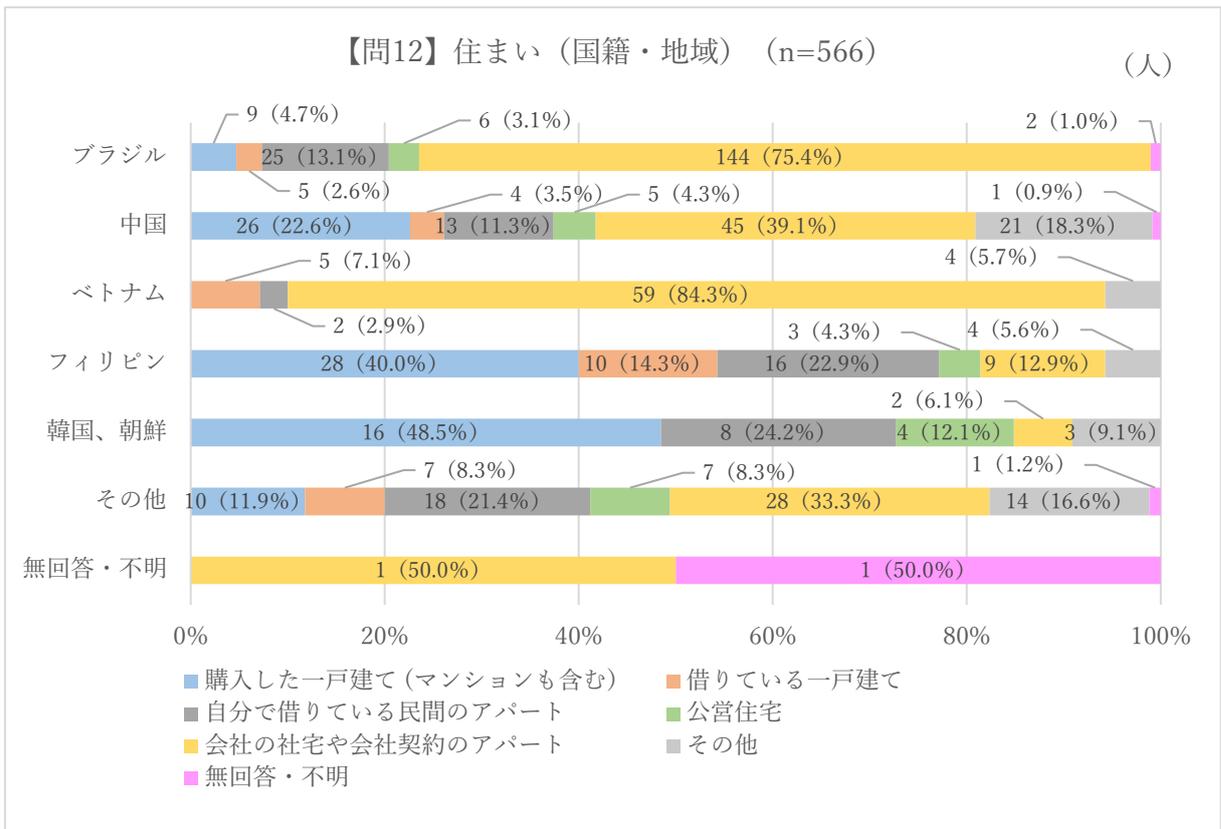
問 12 あなたのお住まいは次のどれですか。（1つに○）

1. 購入した一戸建て（マンションも含む）
2. 借りている一戸建て
3. 自分で借りている民間のアパート
4. 公営住宅
5. 会社の社宅や会社契約のアパート
6. その他（ ）

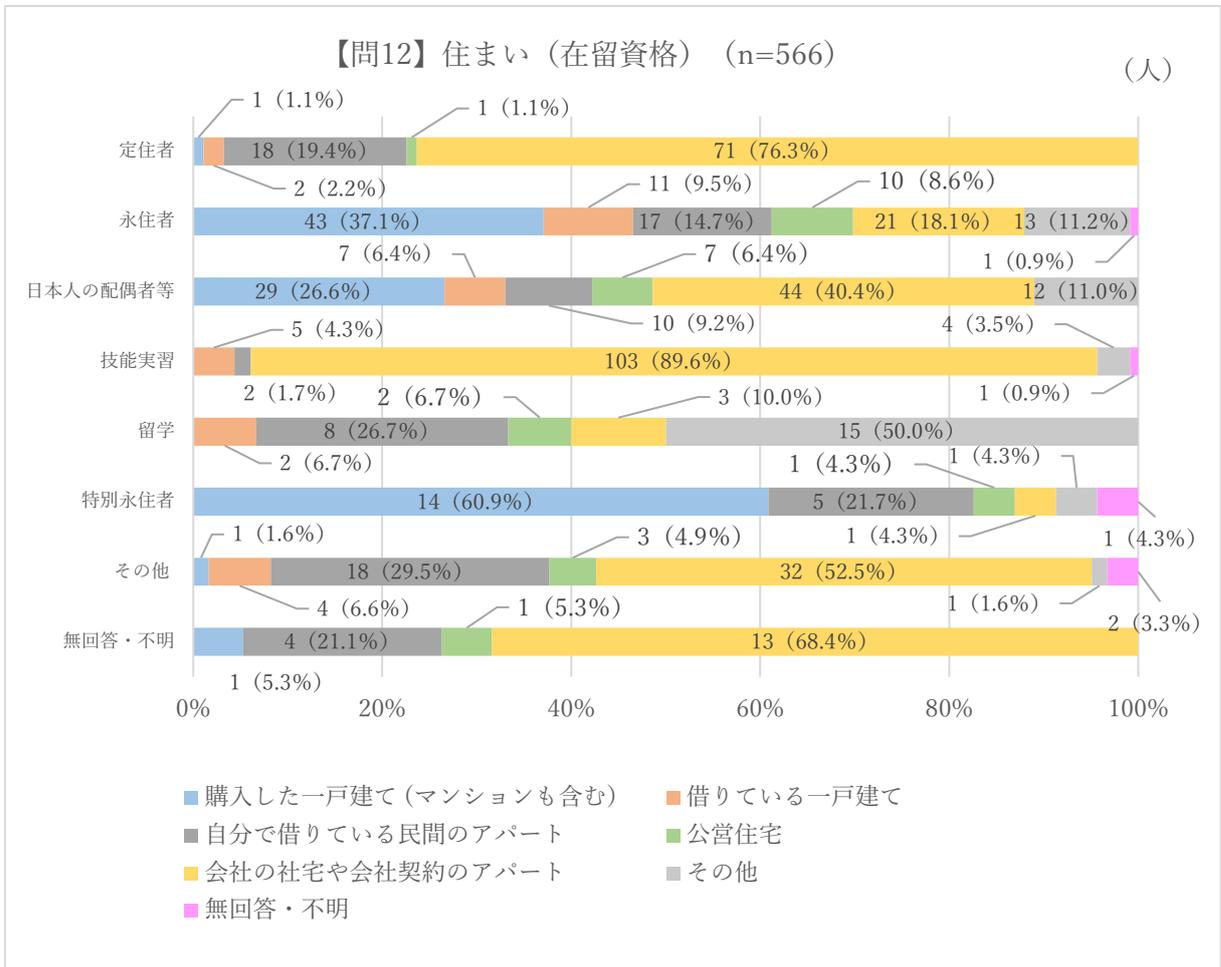
「住まい」についてみると、「会社の社宅や会社契約のアパート」が 50.9%で最も多く、次いで、「購入した一戸建て(マンションも含む)」が 15.7%、「自分で借りている民間のアパート」が 14.5%であった。



(参考) 【問12】住まいと【問3】国籍・地域のクロス集計



(参考) 【問12】住まいと【問4】在留資格のクロス集計



4. 地域での日本人とのつき合い

自治会には「加入している」と回答した者が 21.9%と、「加入していない」と回答した者 57.6%を大きく下回った。また、自治会への加入について、「わからない」と答える者が 17.8%おり、地域社会の制度や仕組みへの理解がまだ十分には浸透していないためと推察される。「わからない」と回答した者を国籍別にみると、「ベトナム」58.6%が最も多く、「中国」が 18.3%で続く。

また、自治会には「加入していない」と回答した者の割合が多いのは、「出雲市」72.9%、「大田市」70.4%の順となっている。また、自治会には「加入していない」と回答した者の国籍は、「ブラジル」85.3%が最も多かった。ブラジル人の割合の高い地域では、自治会の加入が十分に浸透していない様子が見えてくる。

近隣の日本人とのつきあいについて、「あいさつをする程度」45.1%や「あいさつのほかに時々話もする」26.1%、「親しく交流している」12.7%の割合が多くを占め、「特に交流はない」14.3%を多く上回る。2012年度の調査と比較すると、「親しく交流している」（2012年度：15.3%）と「あいさつのほかに時々話もする」（2012年度：36.6%）が減少し、「あいさつをする程度」（2012年度：37.6%）と「特に交流はない」（2012年度：7.8%）が増加している。外国人住民数が増加する一方で、日本人とのつきあいが少ない者が増えている様子が見えてくる。

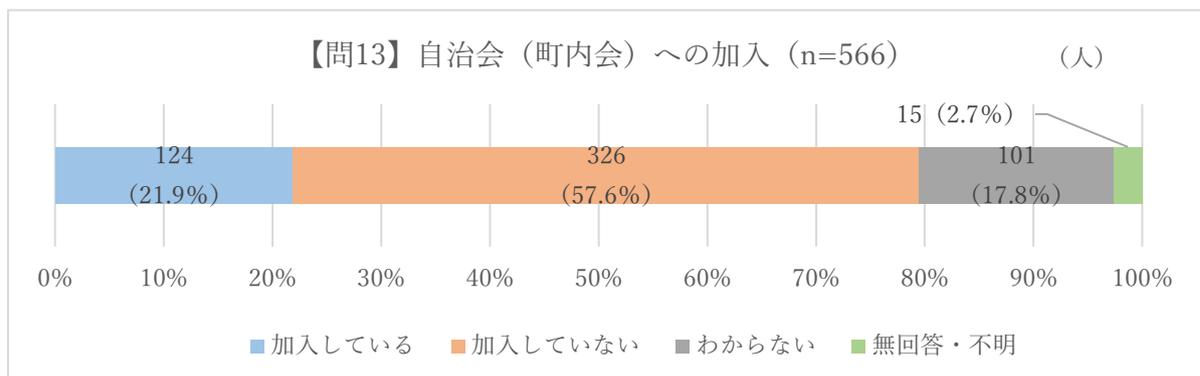
近隣の日本人とどのような交流がしたいかを見ると、「積極的に交流したい」と回答した者が 66.4%と、「特に交流したいと思わない」と回答した者 20.1%を大きく上回っており、多数の人は日本人と積極的にかかわりを持ちたいと思っている様子が見えてくる。日本人とのつきあいが少ない者が増える一方で、日本人と積極的にかかわりを持ちたい者は増えており、つきあいそのものはないがつきあいたいと感じている者は多いことが推察される。

【自治会について】

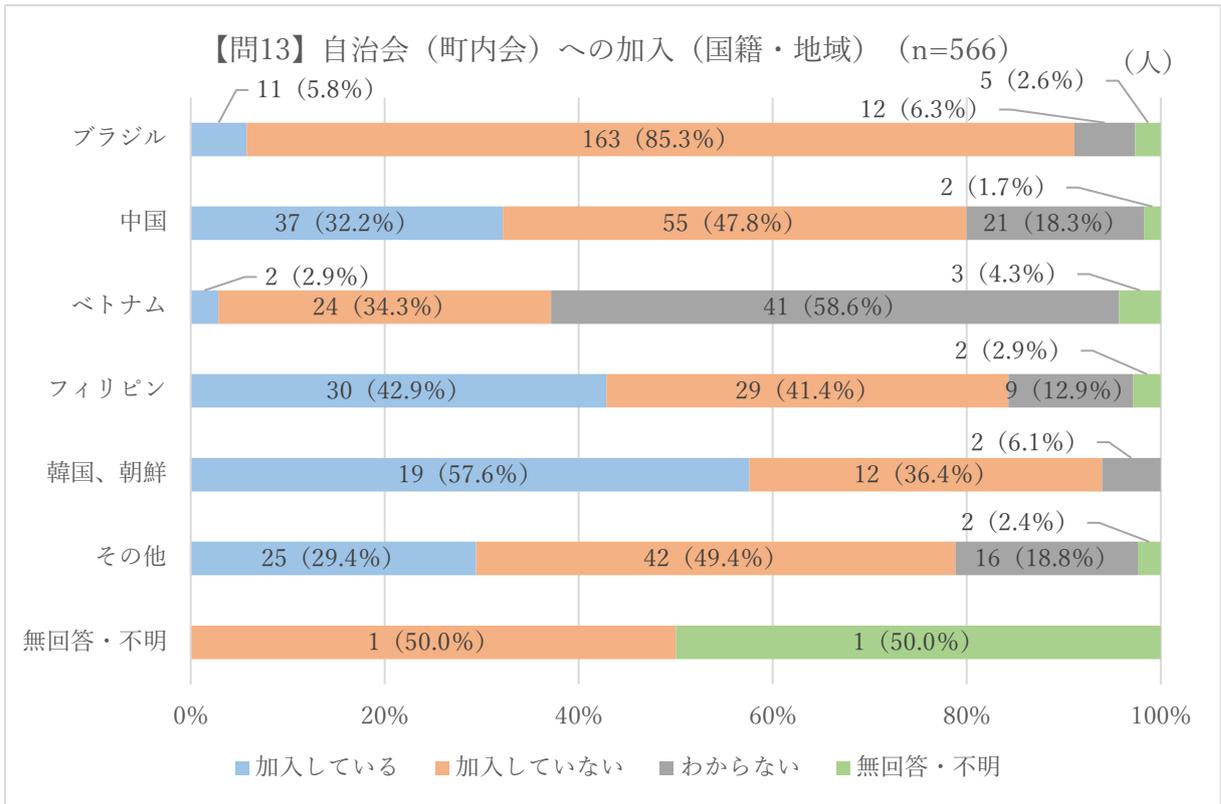
問13 あなたは自治会（町内会）に加入していますか。（1つに○）

1. 加入している
2. 加入していない
3. わからない

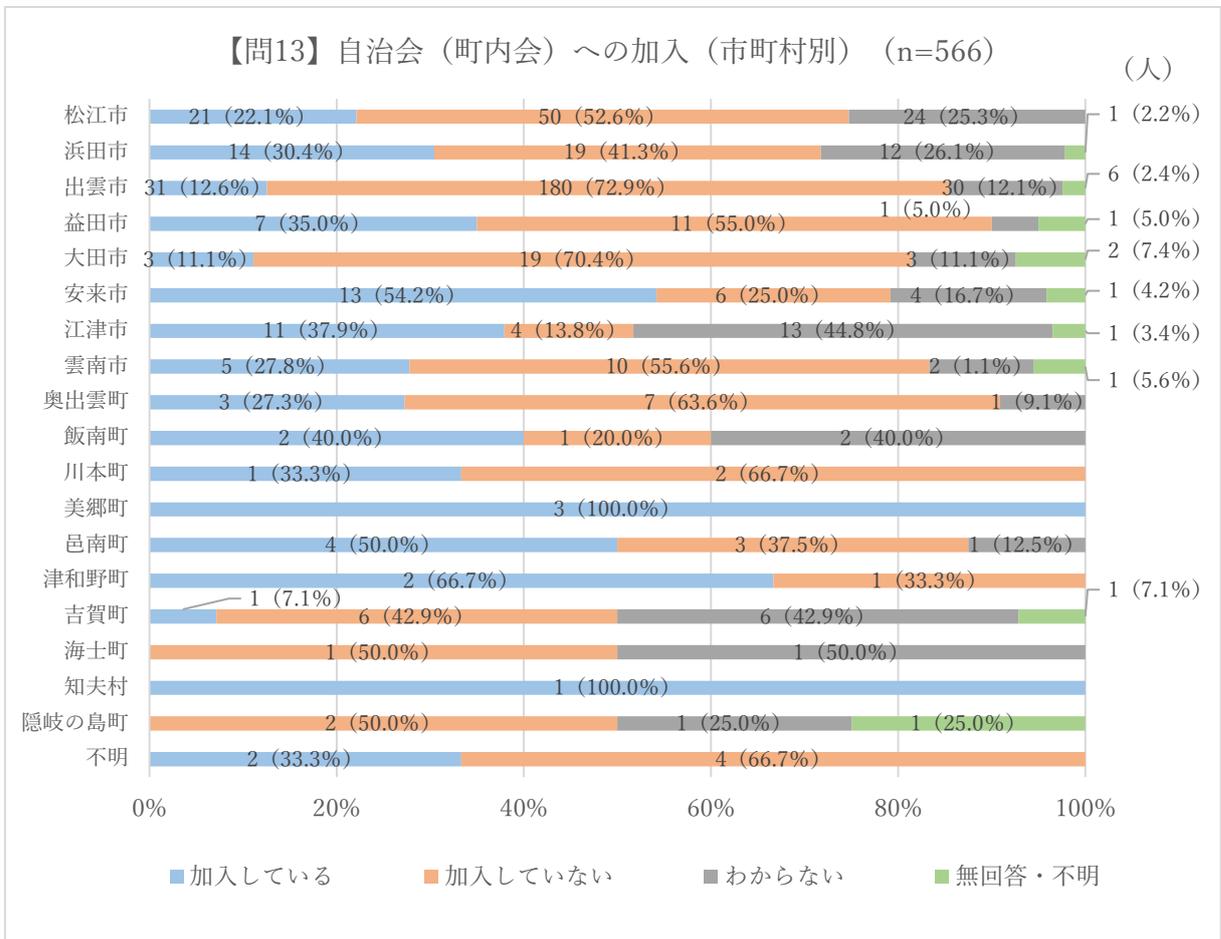
日本には、地域に「町内会」や「自治会」という住民組織があるが、このような「自治会」の加入状況を聞いたところ、「加入していない」が 57.6%で、「加入している」の 21.9%を上回った。なお、「わからない」と回答した者は 17.8%であった。



(参考) 【問 13】 自治会(町内会)への加入と【問 3】 国籍・地域のクロス集計



(参考) 【問 13】 自治会(町内会)への加入と市町村別のクロス集計

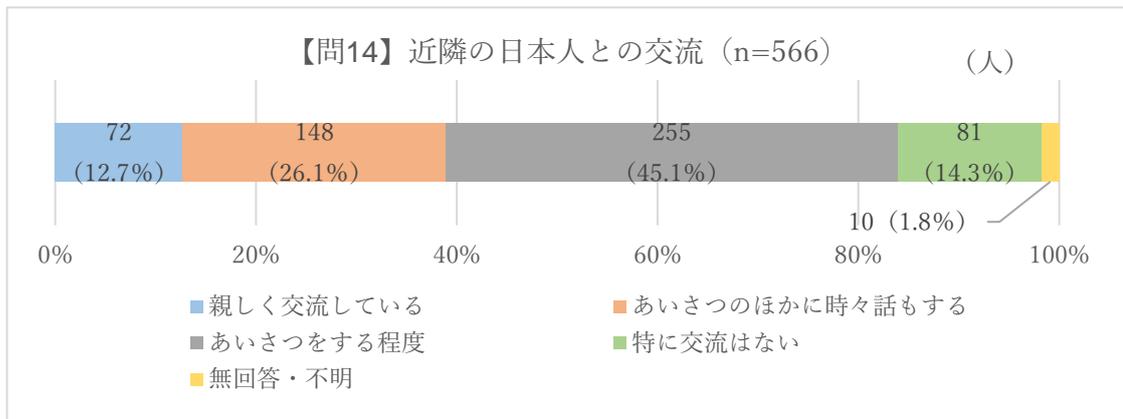


【近隣の日本人との交流】

問 14 あなたの家の近くに住んでいる日本人との交流はありますか。(1つに○)

1. 親しく交流している
2. あいさつのほかに時々話もする
3. あいさつをする程度
4. 特に交流はない

「近隣の日本住民との交流」についてみると、「親しく交流している」が12.7%、「あいさつのほかに時々話もする」は26.1%、「あいさつをする程度」は45.1%となっており、大多数の人は日本人と何らかのかかわりを持っていることがうかがえる。一方、「特に交流はない」は14.3%であった。

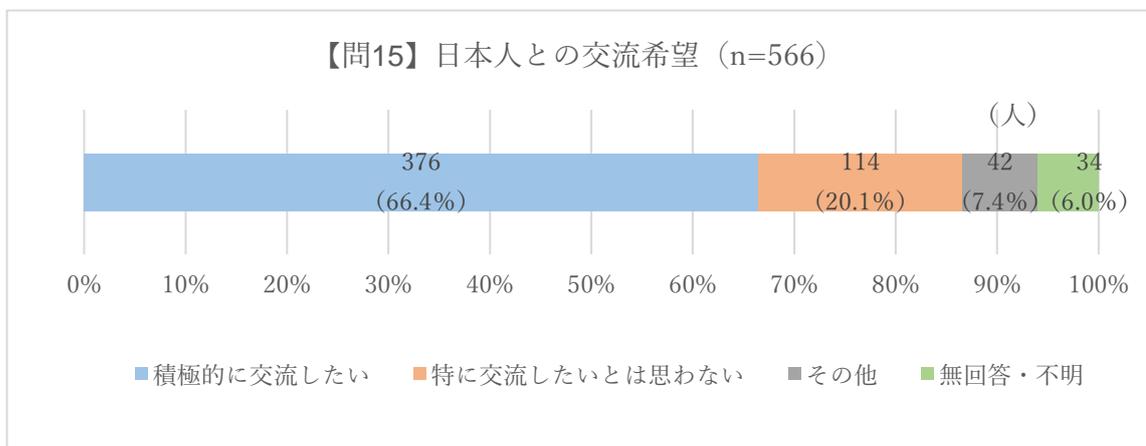


【近隣の日本人とどのような交流がしたいか】

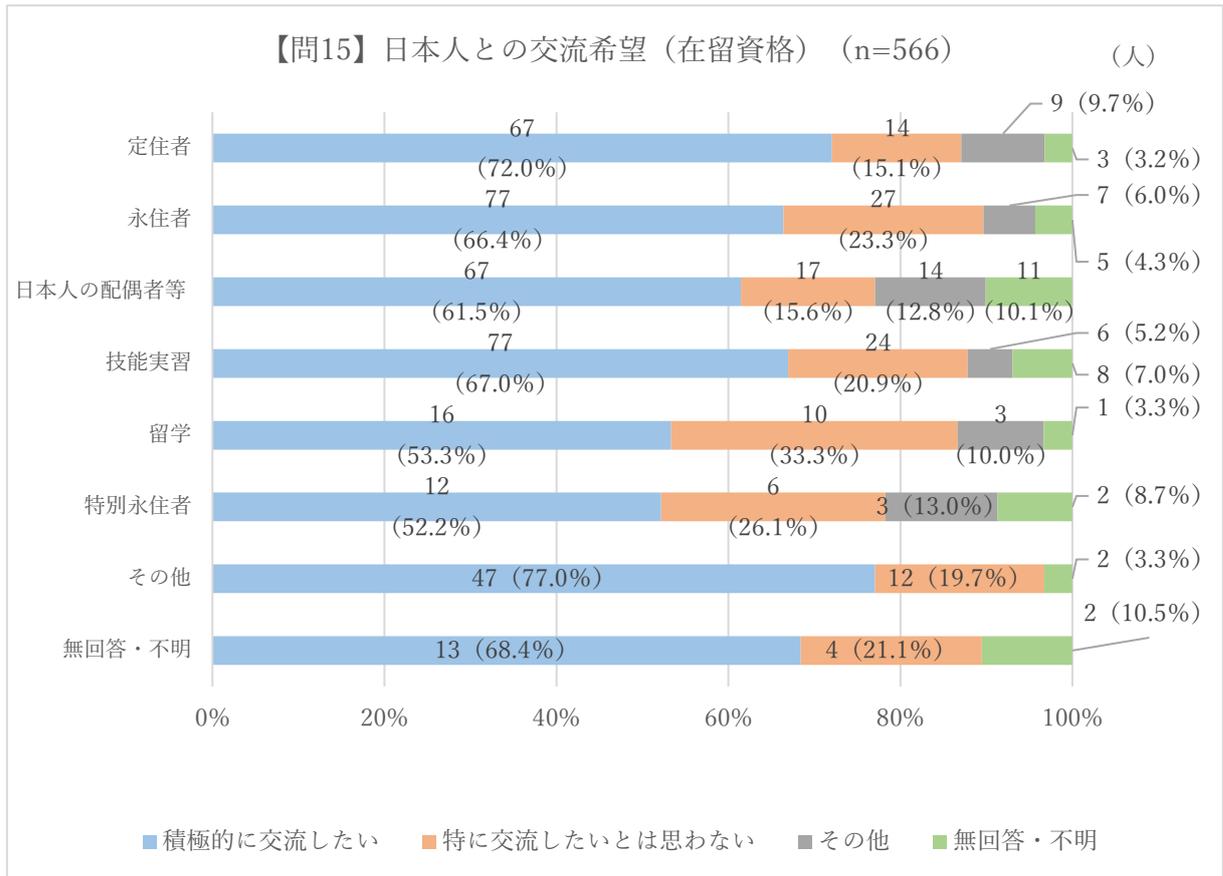
問 15 あなたの家の近くに住んでいる日本人とどのような交流がしたいですか。(1つに○)

1. 積極的に交流したい
2. 特に交流したいとは思わない
3. その他 ()

「近隣の日本人とどのような交流がしたいか」についてみると、「積極的に交流したい」が66.4%、「特に交流したいとは思わない」は20.1%となっており、多数の人は日本人と積極的にかかわりを持ちたいと思っている様子が見られる。



(参考) 【問 15】 日本人との交流希望と 【問 4】 在留資格のクロス集計



5. 日本語について

日本語を聞く能力は、「相手がゆっくり話せば聞き取ることができる」と回答した者は35.2%と、2012年度の調査(27.1%)から増加した。また、「単語だけ聞き取ることができる」と回答した者も26.0%と、2012年度の調査(11.8%)から増加した。「テレビのニュース、ドラマを聞き取ることができる」との回答は28.1%と、2012年度の調査(33.6%)から減少した。一方、「ほとんど聞き取ることができない」と回答した者は9.0%であり、2012年度の調査(2.8%)と比べて増加している。

日本語を話す能力は、「決まったあいさつ、単語は言うことができる」から「自分の意見を問題なく話すことができる」までの会話能力は、9割(91.3%)を超えた。一方で、「ほとんど話すことができない」との回答は7.1%であった。

日本語を読む能力は、「ひらがなまたはカタカナは読むことができる」36.4%と「簡単な漢字まじりの言葉を読むことができる」27.7%は、2012年度の調査とほぼ同じ水準となっている。また、「新聞や雑誌を読むことができる」との回答は16.3%であり、2012年の調査(23.1%)から減少している。一方、「ほとんど読むことができない」との回答は17.0%であり、2012年度の調査(4.8%)から大幅に増加している。

日本語を書く能力は、「ほとんどできない」との回答は21.0%であり、「聞く」、「話す」、「読む」と比べて「ほとんどできない」との回答が増えている。一方、「ひらがなまたはカタカナは書くことができる」が42.9%、「簡単な漢字まじりの文章を書くことができる」が21.4%、「文章を問題なく書くことができる」が12.4%となっている。

日本語を「聞く」16.8%、「話す」15.7%、「読む」33.0%、「書く」36.6%のいずれも「ほとんどできない」と答えた割合が最も多いのは「ブラジル」であった。

日本語を勉強しているかについて「いいえ」と答えた者は57.2%となっており、「はい」40.8%を上回った。2012年度の調査と比べて「いいえ」(45.9%)は増加しており、「はい」(52.6%)は減少している。

現在の日本語の勉強については、全体の5割を超える(57.2%)回答者が日本語を学んでいないものの、日本語学習を希望する者は、全体の約7割(72.8%：「機会があれば勉強したい」43.2%、「勉強したい」29.6%)となった。一方、「不自由はしていないので勉強する必要はない」18.2%、「勉強したくない」は1.2%とわずかであった。

また、日本語学習を希望するものの、日本語を勉強していない理由としては、「忙しくて時間がないから」が33.5%と最も多く、「日本語教室の時間が合わないから」18.2%、「どうやって勉強したらいいかわからない」14.0%、「近くに日本語教室がないから」13.6%となっており、日本語学習環境が十分でないことがうかがえる。

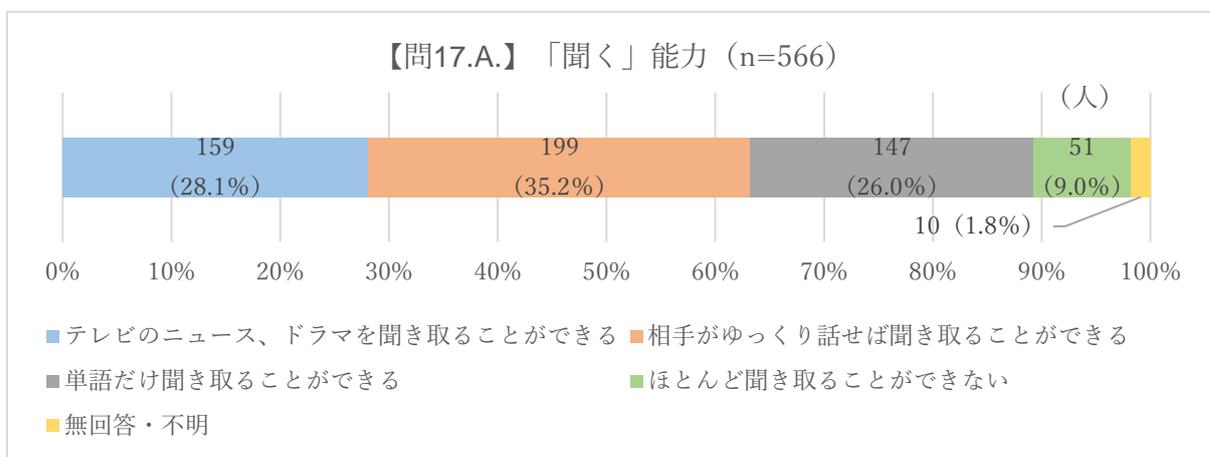
【日本語能力】

問17 あなたは日本語がどのくらいできますか。

A. 日本語を聞く(1つに○)

1. テレビのニュース、ドラマを聞き取ることができる
2. 相手がゆっくり話せば聞き取ることができる
3. 単語だけ聞き取ることができる
4. ほとんど聞き取ることができない

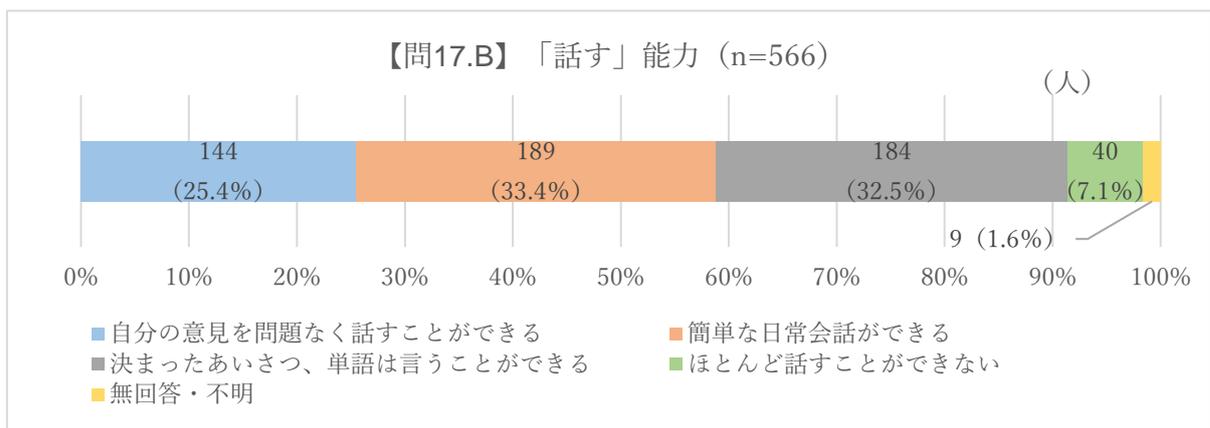
日本語の聞く能力については、「相手がゆっくり話せば聞き取ることができる」が35.2%、「テレビのニュース、ドラマを聞き取ることができる」が28.1%、「単語だけ聞き取ることができる」が26.0%となっており、これらを合わせると89.3%となっている。一方、「ほとんど聞き取ることができない」人は9.0%に留まった。



B. 日本語を話す (1つに○)

1. 自分の意見を問題なく話すことができる
2. 簡単な日常会話ができる
3. 決まったあいさつ、単語は言うことができる
4. ほとんど話すことができない

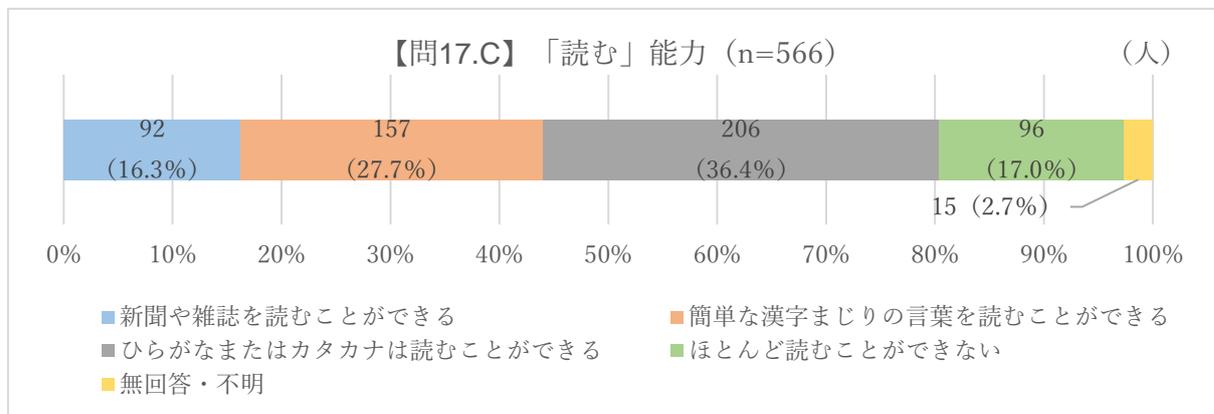
日本語を話す能力については、「簡単な日常会話ができる」が33.4%、「決まったあいさつ、単語は言うことができる」が32.5%、「自分の意見を問題なく話すことができる」が25.4%となっており、「ほとんど話すことができない」人は7.1%に留まった。



C. 日本語を読む (1つに○)

1. 新聞や雑誌を読むことができる
2. 簡単な漢字まじりの言葉を読むことができる
3. ひらがなまたはカタカナは読むことができる
4. ほとんど読むことができない

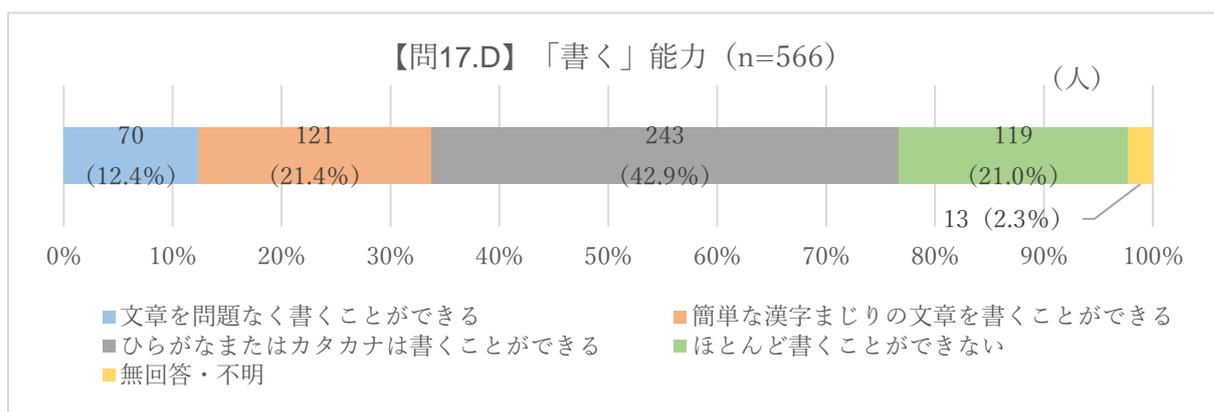
日本語を読む能力については、「ひらがなまたはカタカナは読むことができる」36.4%、「簡単な漢字まじりの言葉を読むことができる」27.7%、「ほとんど読むことができない」17.0%が、「新聞や雑誌を読むことができる」16.3%を上回っている。「日本語を聞く」、「日本語を話す」とくらべ、「ほとんどできない」との回答が増える。



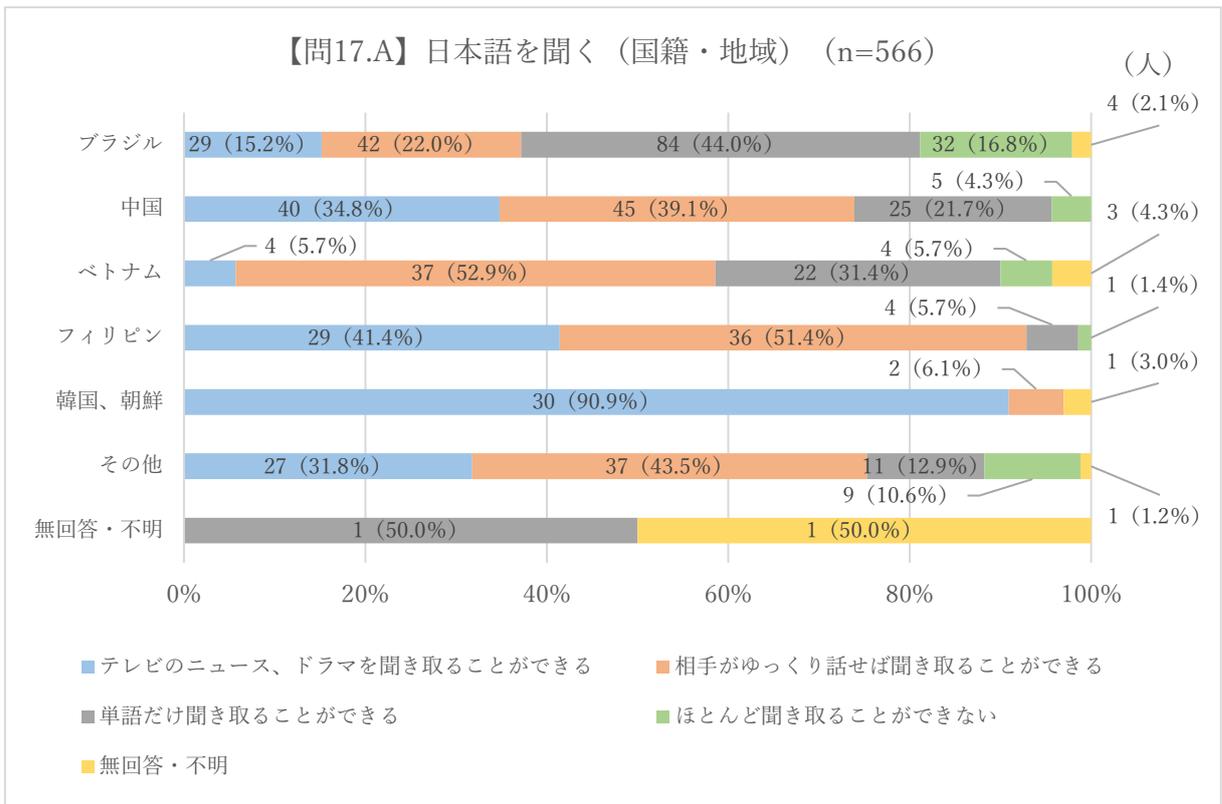
D. 日本語を書く (1つに〇)

1. 文章を問題なく書くことができる
2. 簡単な漢字まじりの文章を書くことができる
3. ひらがなまたはカタカナは書くことができる
4. ほとんど書くことができない

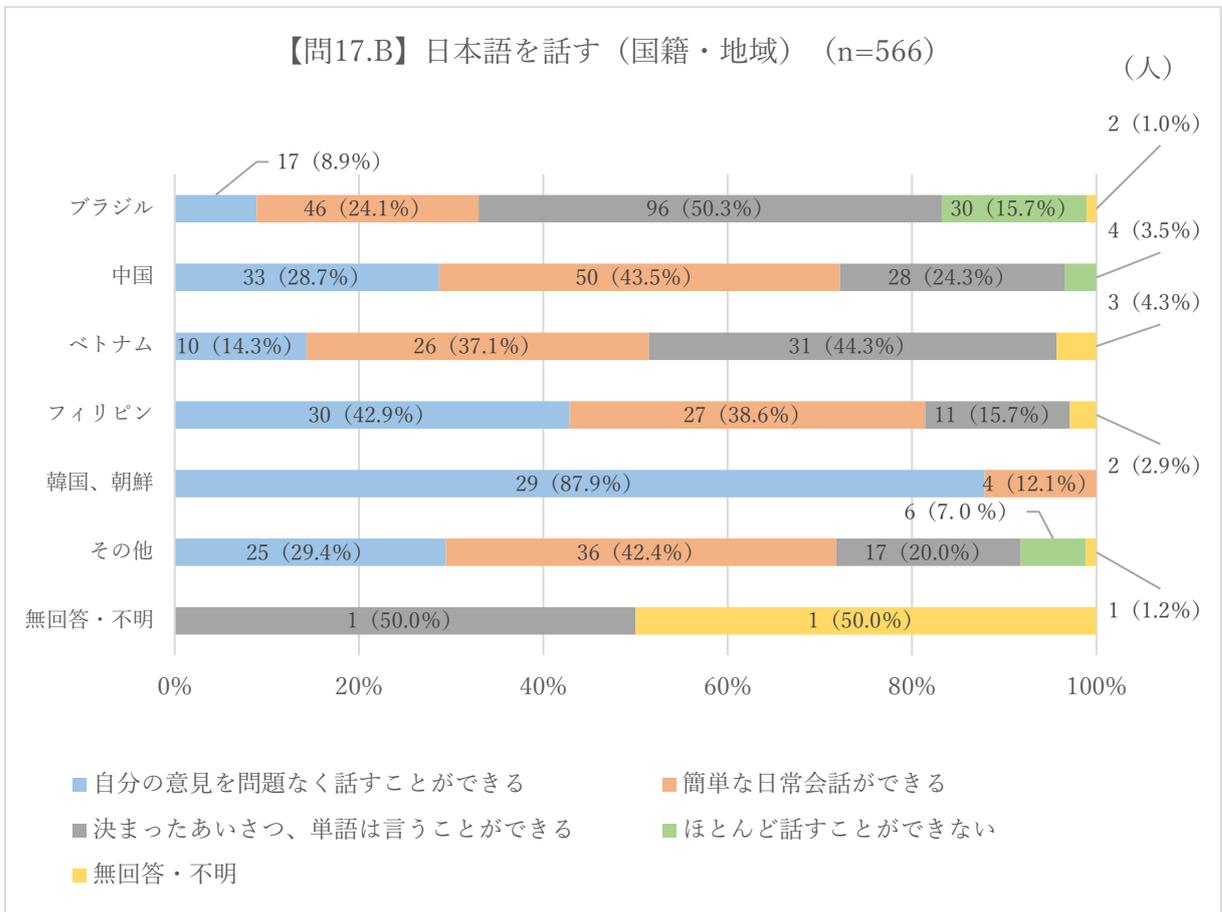
日本語を書く能力については、「ほとんどできない」21.0%との回答が、「聞く」、「話す」、「読む」とくらべ最も多い。一方、「ひらがなまたはカタカナは書くことができる」が42.9%、「簡単な漢字まじりの文章を書くことができる」が21.4%、「文章を問題なく書くことができる」が12.4%となっている。



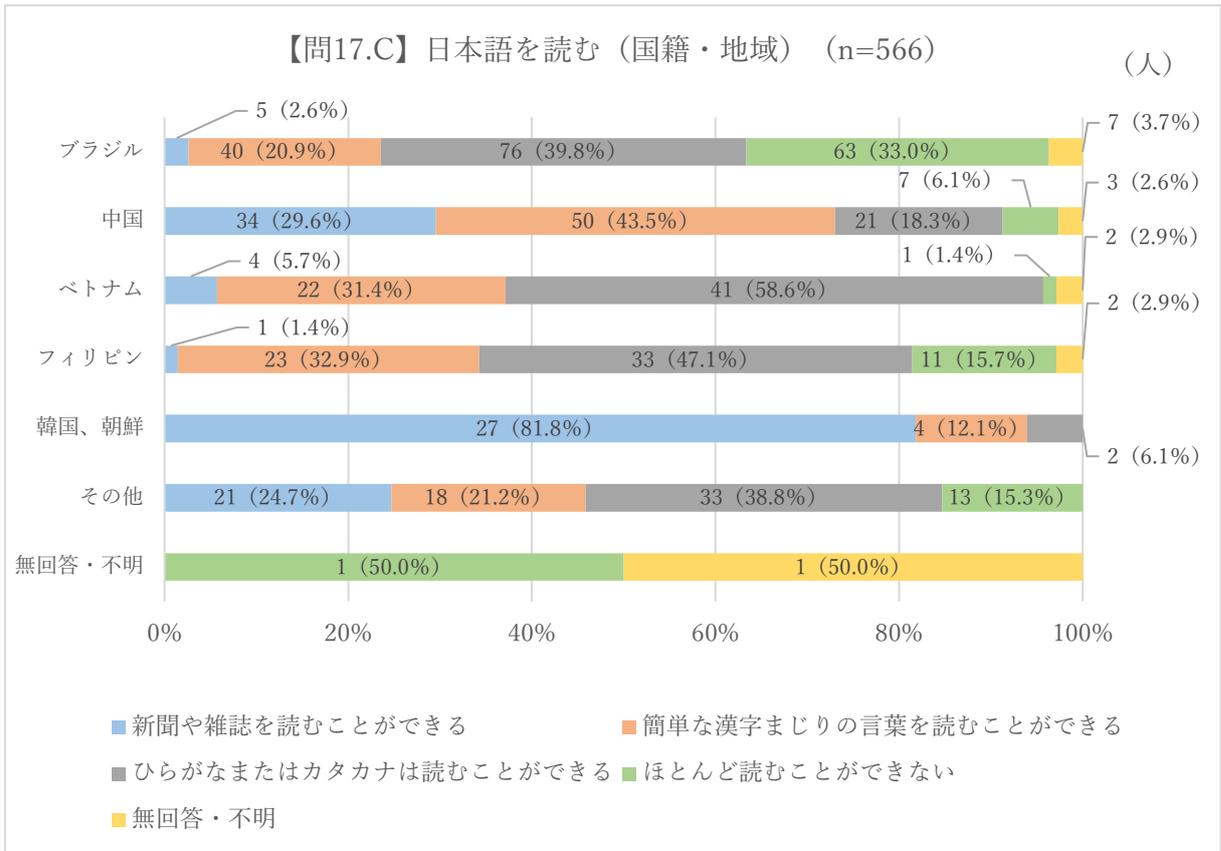
(参考) 【問 17. A】「聞く」能力と【問 3】国籍・地域のクロス集計



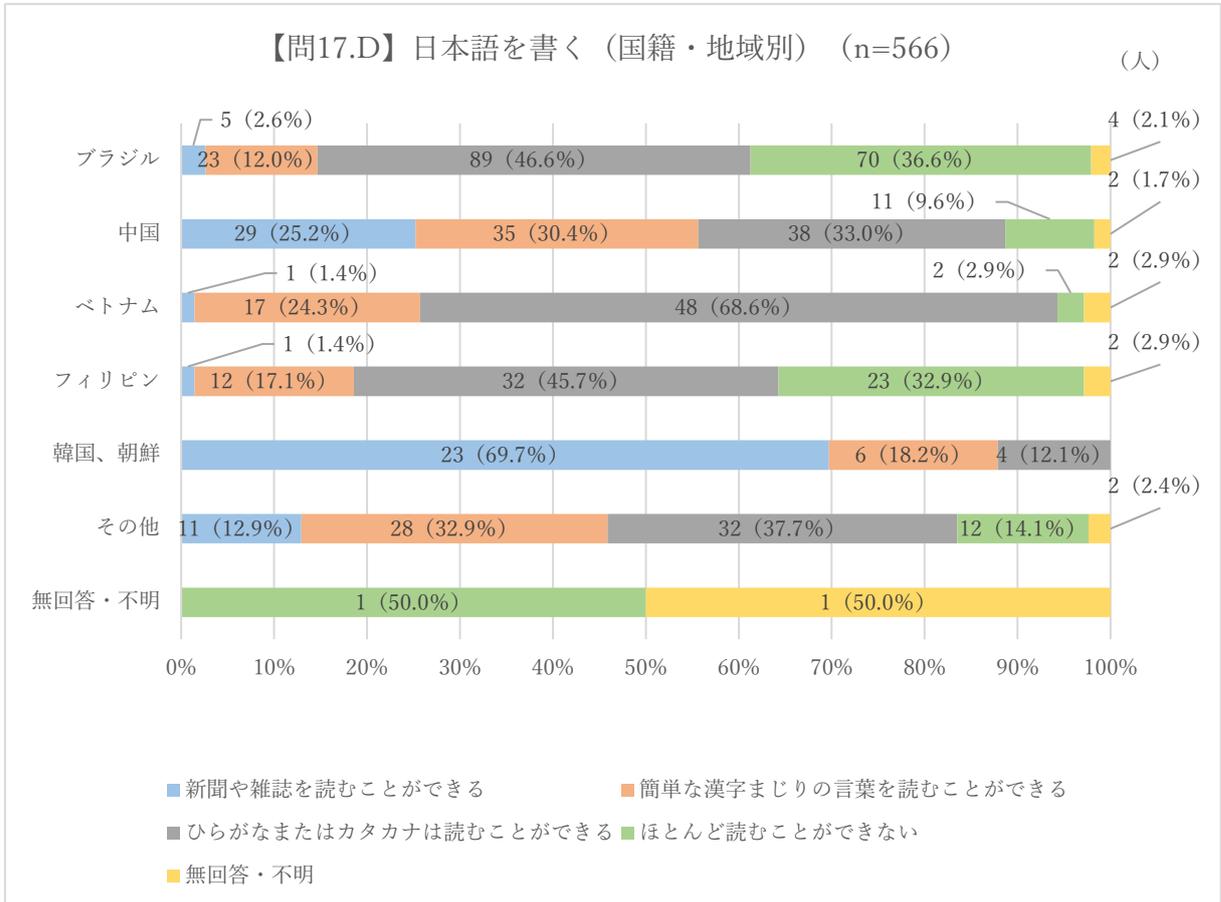
(参考) 【問 17. B】「話す」能力と【問 3】国籍・地域のクロス集計



(参考) 【問 17. C】「読む」能力と【問 3】国籍・地域のクロス集計



(参考) 【問 17. D】「書く」能力と【問 3】国籍・地域のクロス集計

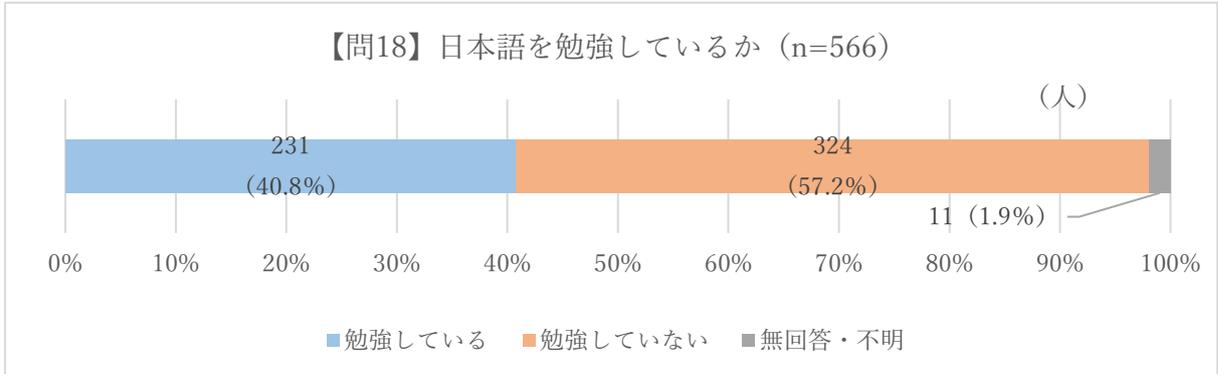


【日本語学習の理由】

問 18 あなたは今、日本語を勉強していますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1. はい (問 19 へ進んでください) | 2. いいえ |
|-----------------------|--------|

日本語を勉強しているかをみると、「いいえ」が 57.2%となっており、「はい」40.8%を上回った。



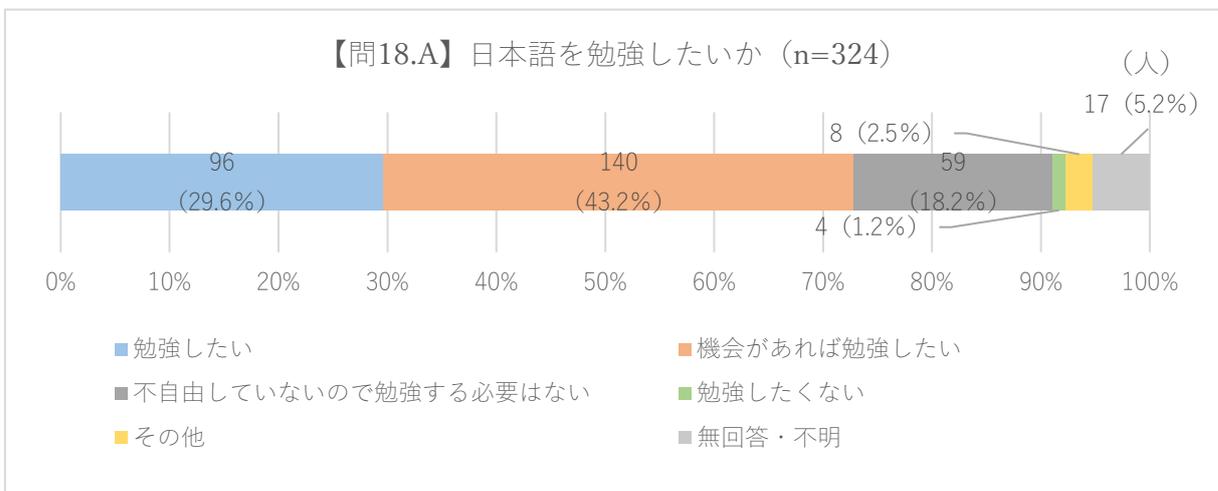
【これから日本語を勉強したいか】

A. 問 18 で「2. いいえ」の方にお聞きします。

これから日本語を勉強したいですか。(1つに○)

- | | |
|--|--|
| 1. 勉強したい | |
| 2. 機会があれば勉強したい | |
| 3. 不自由していないので勉強する必要はない (問 19 へ進んでください) | |
| 4. 勉強したくない (問 19 へ進んでください) | |
| 5. その他 () (問 19 へ進んでください) | |

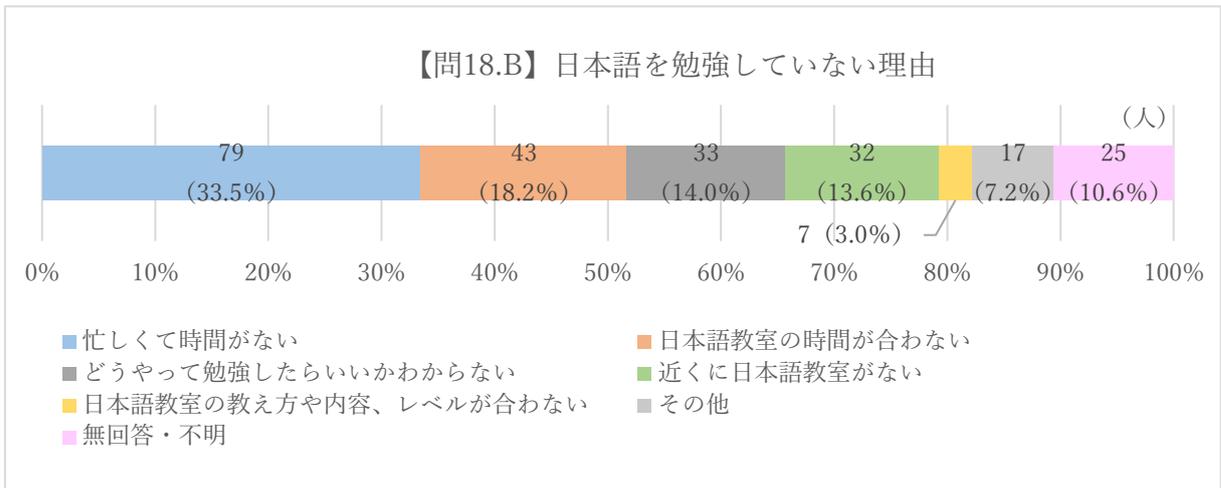
今、日本語を勉強していない人について、「今後、日本語を学習したいか」をみると、「機会があれば勉強したい」43.2%、「勉強したい」29.6%となっており、これらを合わせると 72.8%となっている。一方、「不自由はしていないので勉強する必要はない」18.2%、「勉強したくない」は 1.2%とわずかであった。



B. 問 18 A. で「1. 勉強したい」、「2. 機会があれば勉強したい」の方にお聞きします。
 今、日本語を勉強していない理由はなんですか。(1つに○)

1. 忙しくて時間がない
2. どうやって勉強したらいいかわからない
3. 近くに日本語教室がない
4. 日本語教室の時間が合わない
5. 日本語教室の教え方や内容、レベルが合わない
6. その他 ()

今後、日本語を「機会があれば勉強したい」、「勉強したい」と回答した人について、「今、日本語を勉強していない理由」をみると、「忙しくて時間がない」が 33.5%で最も多い。次いで、「日本語教室の時間が合わない」18.2%、「どうやって勉強したらいいかわからない」14.0%、「近くに日本語教室がない」13.6%、「日本語教室の教え方や内容、レベルが合わない」3.0%の順となっている。



6. 子どもの教育

子どもの有無については、「いる」57.1%が、「いない」40.8%を上回った。

子どもの人数は、「1人」45.2%か「2人」40.6%、あるいは「3人」9.9%と答えた者が多い。

第1子と第2子、第3子に関する年齢、同居率や進学・通園など基本的な情報についての質問をした。年齢構成については、第1子の子どもは、「19才以上」が27.9%と最も多く、続いて「6～12才」が25.1%である。第2子の子どもは、「6～12才」が31.1%で最も多く、「19才以上」が26.0%と続く。第3子の子どもは、「19才以上」が39.1%で最も多く、「6～12才」が28.3%である。

生まれた場所については、日本で生まれた子どもは、第1子のうち35.0%、第2子のうち41.2%、第3子のうち50.0%であった。一方、母国で生まれた子どもは、第1子のうち53.3%、第2子のうち44.6%、第3子のうち34.8%であった。第3子のみ日本で生まれた子どもの割合が母国で生まれた子どもの割合を超える結果となった。

同居・別居については、第1子、第2子、第3子の同居している割合は、第1子が41.2%、第2子が44.6%、第3子が41.3%となっている。

別居に関しては、第1子、第2子、第3子ともに、母国に残している割合(第1子61.0%、第2子60.0%、第3子57.9%)の方が、日本国内で別居している割合(第1子26.5%、第2子21.5%、第3子31.6%)より高い。

通学・通園についての質問に関しては、第1子、第2子、第3子ともに、「学校などに通っている」との回答(第1子56.3%、第2子61.0%、第3子56.5%)が、「通っていない」との回答(第1子20.7%、第2子23.7%、第3子23.9%)を大きく上回った。

日本語の授業の理解についての質問の答えとしては、「日本語の授業を理解できない」と「日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない」を合わせた「日本語の授業を理解できない」は、第1子34.6%、第2子37.8%、第3子39.1%となっており、第2子、第3子では「日本語の授業を理解できる」割合(第2子35.0%、第3子30.4%)を上回った。

子どもの教育で心配なことについては、「子どもの進学のこと」が13.9%で一番多く、続いて「子どもがいじめられている」が13.6%、「日本語が十分にできず、授業についていけない」が5.6%、「子どもが日本の文化・習慣になじめない」が3.1%、「子どもの不登校のこと」が1.5%、「子どもの不就学のこと」が1.5%であった。「特にない」と回答した者は48.3%であり、2012年度の調査(22.0%)を大きく上回る結果となった。

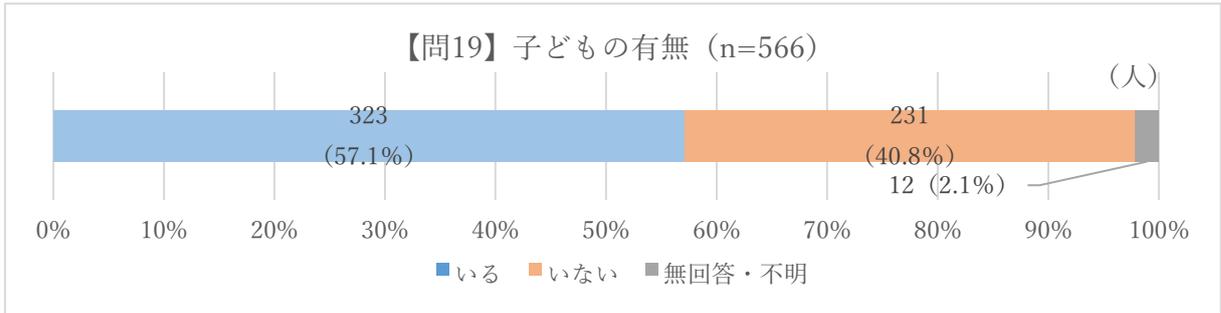
【子どもの有無】

問19 あなたにはお子さんがいますか。(1つに○)

1. いる

2. いない(問20へ進んでください)

子どもの有無については、「いる」57.1%が、「いない」40.8%を上回った。



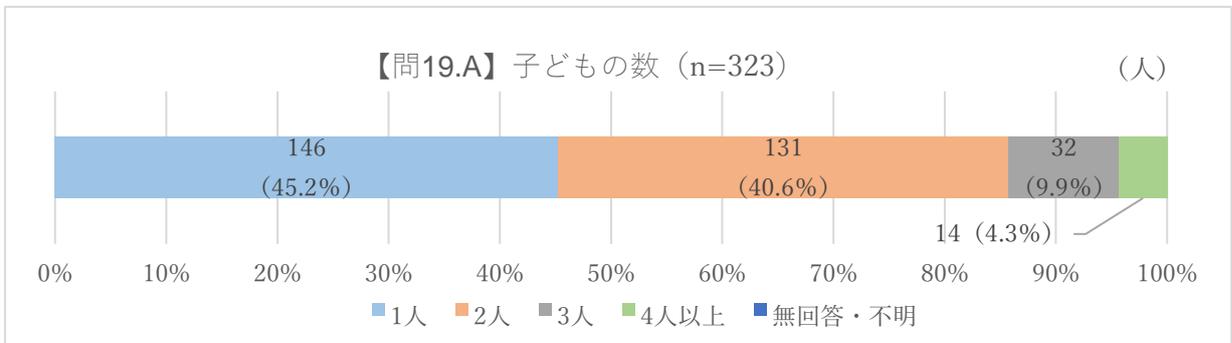
【子どもの人数】

A. 問19で「1. いる」の方にお聞きします。

お子さんの人数を教えてください。(1つに○)

1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人以上
-------	-------	-------	---------

子どもがいる人について、人数をみると、「1人」45.2%が最も多く、次いで「2人」40.6%、「3人」9.9%、「4人以上」4.3%であった。



【子どもの基本的な情報】

B. 問19で「1. いる」の方にお聞きします。

お子さんの a. 年齢、 b. 生まれた場所、 c. 住んでいる場所、

d. 学校・幼稚園・保育所に通っているかどうか、 e. お子さんの日本語力を教えてください。

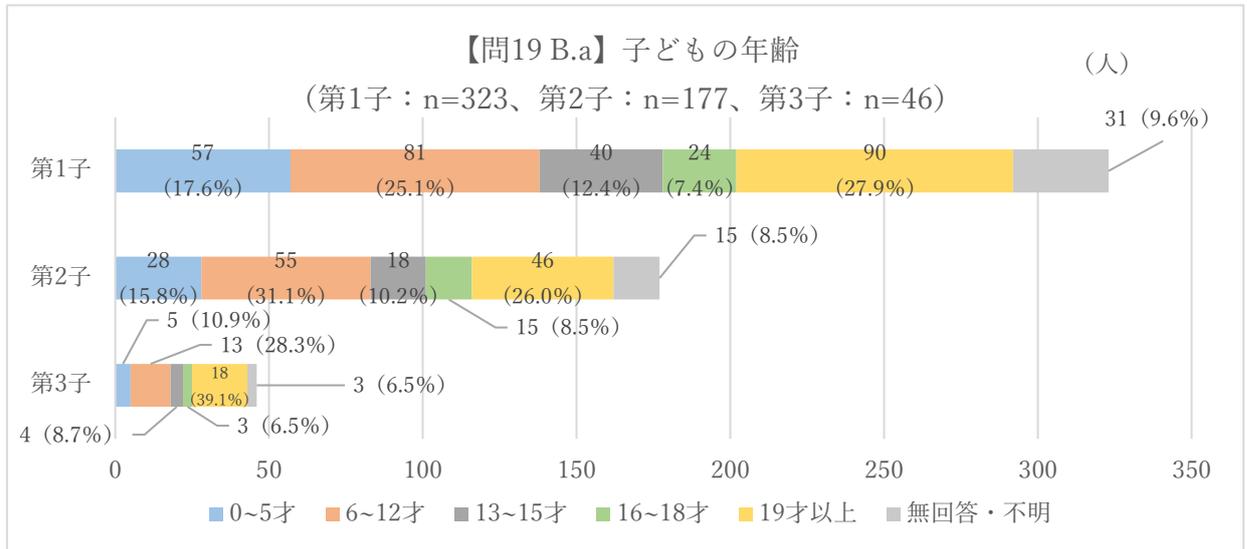
(お子さんが4人以上おられる場合は、上の3人についてお答えください)

1人目	<p>a. 1. 0～5才 2. 6～12才 3. 13～15才 4. 16～18才 5. 19才以上</p> <p>b. 1. 日本 2. 母国 3. その他の国</p> <p>c. 1. 一緒に住んでいる 2. 別の場所にいる (日本・母国・その他の国)</p> <p>d. 1. 学校などに通っている 2. 通っていない</p> <p>e. 1. 日本語の授業を理解できる 2. 日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない 3. できない</p>
2人目	<p>a. 1. 0～5才 2. 6～12才 3. 13～15才 4. 16～18才 5. 19才以上</p> <p>b. 1. 日本 2. 母国 3. その他の国</p> <p>c. 1. 一緒に住んでいる 2. 別の場所にいる (日本・母国・その他の国)</p> <p>d. 1. 学校などに通っている 2. 通っていない</p> <p>e. 1. 日本語の授業を理解できる 2. 日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない 3. できない</p>

3 人 目	a. 1. 0～5才 2. 6～12才 3. 13～15才 4. 16～18才 5. 19才以上
	b. 1. 日本 2. 母国 3. その他の国
	c. 1. 一緒に住んでいる 2. 別の場所にいる (日本 ・ 母国 ・ その他の国)
	d. 1. 学校などに通っている 2. 通っていない
	e. 1. 日本語の授業を理解できる 2. 日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない 3. できない

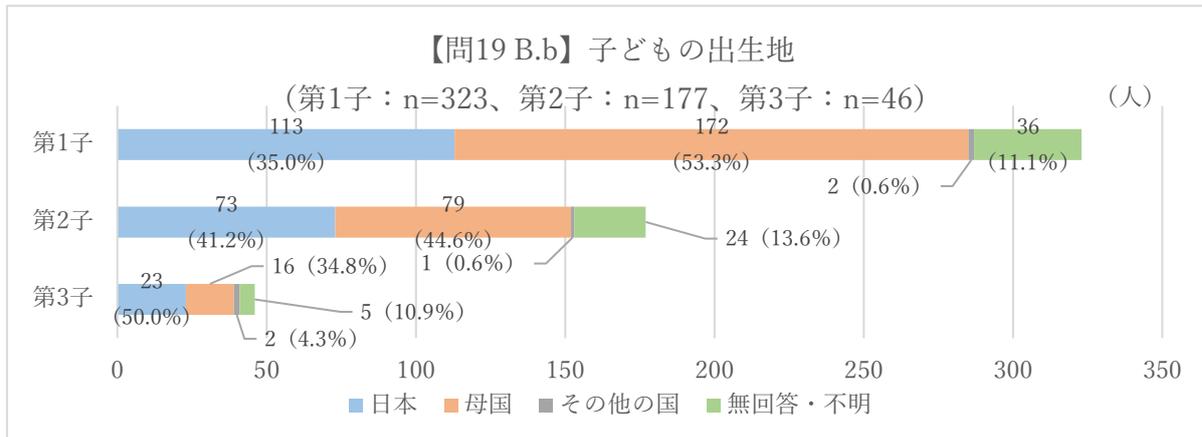
a. 年齢

- ・第1子では、「19才以上」27.9%が最も多く、次いで、「6～12才」25.1%、「0～5才」17.6%、「13～15才」12.4%、「16～18才」7.4%と続く。
- ・第2子では、「6～12才」31.1%が最も多く、「19才以上」26.0%、「0～5才」15.8%、「13～15才」10.2%、「16～18才」8.5%と続く。
- ・第3子では、「19才以上」39.1%が最も多く、「6～12才」28.3%、「0～5才」10.9%、「13～15才」8.7%、「16～18才」6.5%と続く。



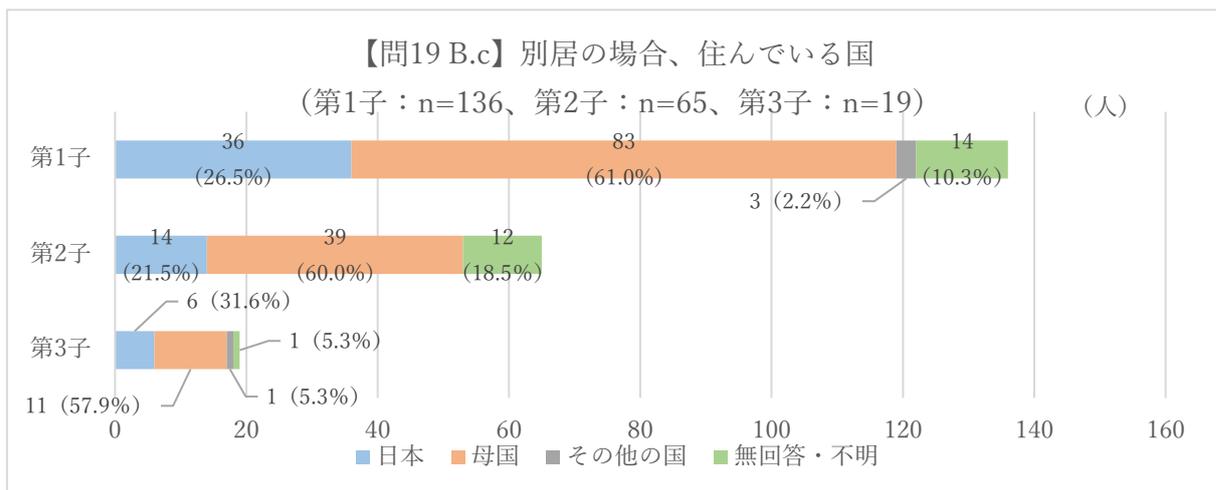
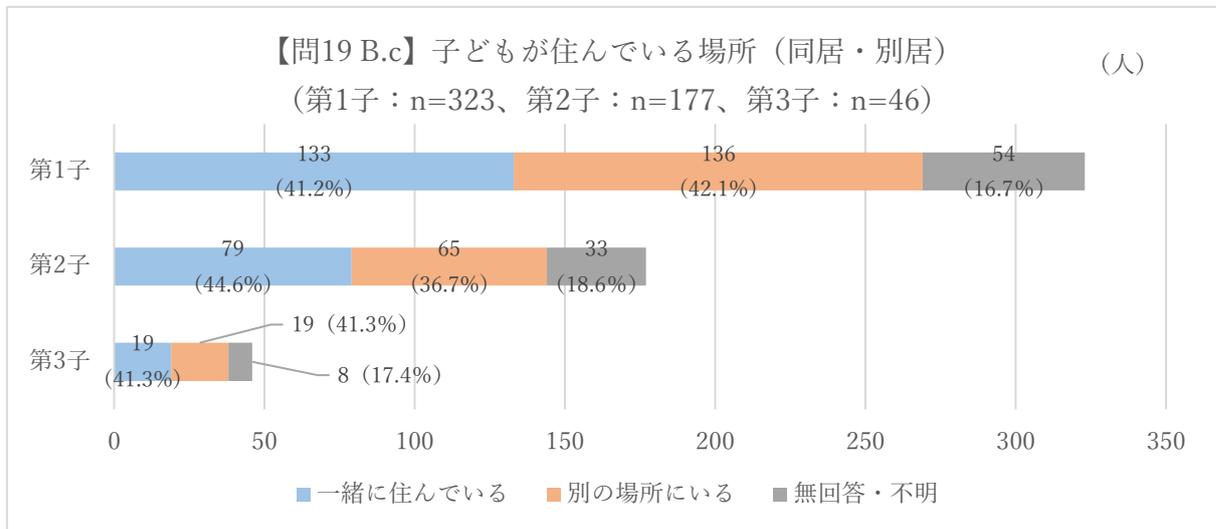
b. 生まれた場所

- ・第1子の生まれた場所は、「母国」が53.3%、「日本」が35.0%であった。
- ・第2子の生まれた場所は、「母国」が44.6%、「日本」が41.2%であった。
- ・第3子の生まれた場所は、「日本」が50.0%、「母国」が34.8%であり、「日本」で生まれた子供が多くなっている。



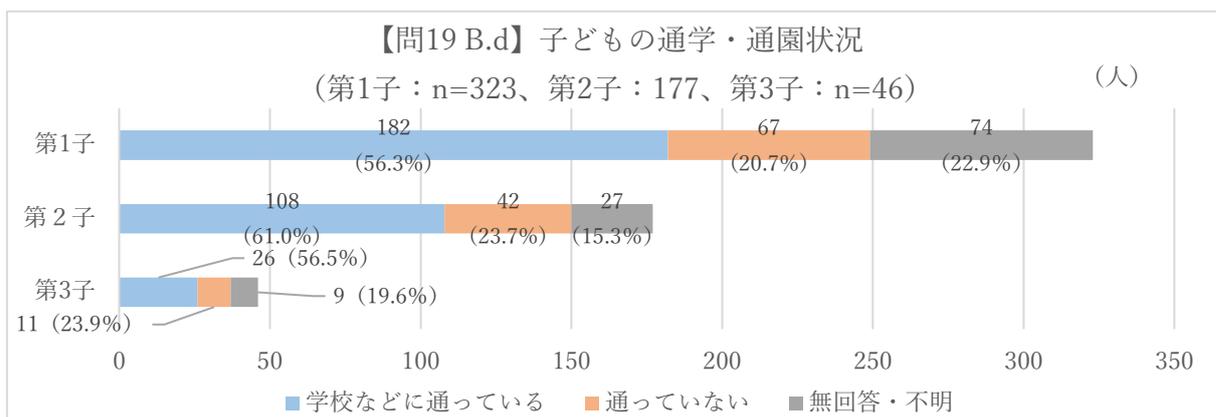
c. 住んでいる場所

- ・第1子については、「別居」が42.1%、「同居」が41.2%であった。
- ・第2子については、「同居」が44.6%、「別居」が36.7%であった。
- ・第3子については、「同居」、「別居」とともに41.3%であった。



d. 通学・通園

- ・第1子については、「学校などに通っている」が56.3%、「通っていない」が20.7%、
- ・第2子については、「学校などに通っている」が61.0%、「通っていない」が23.7%、
- ・第3子については、「学校などに通っている」が56.5%、「通っていない」が23.9%であった。

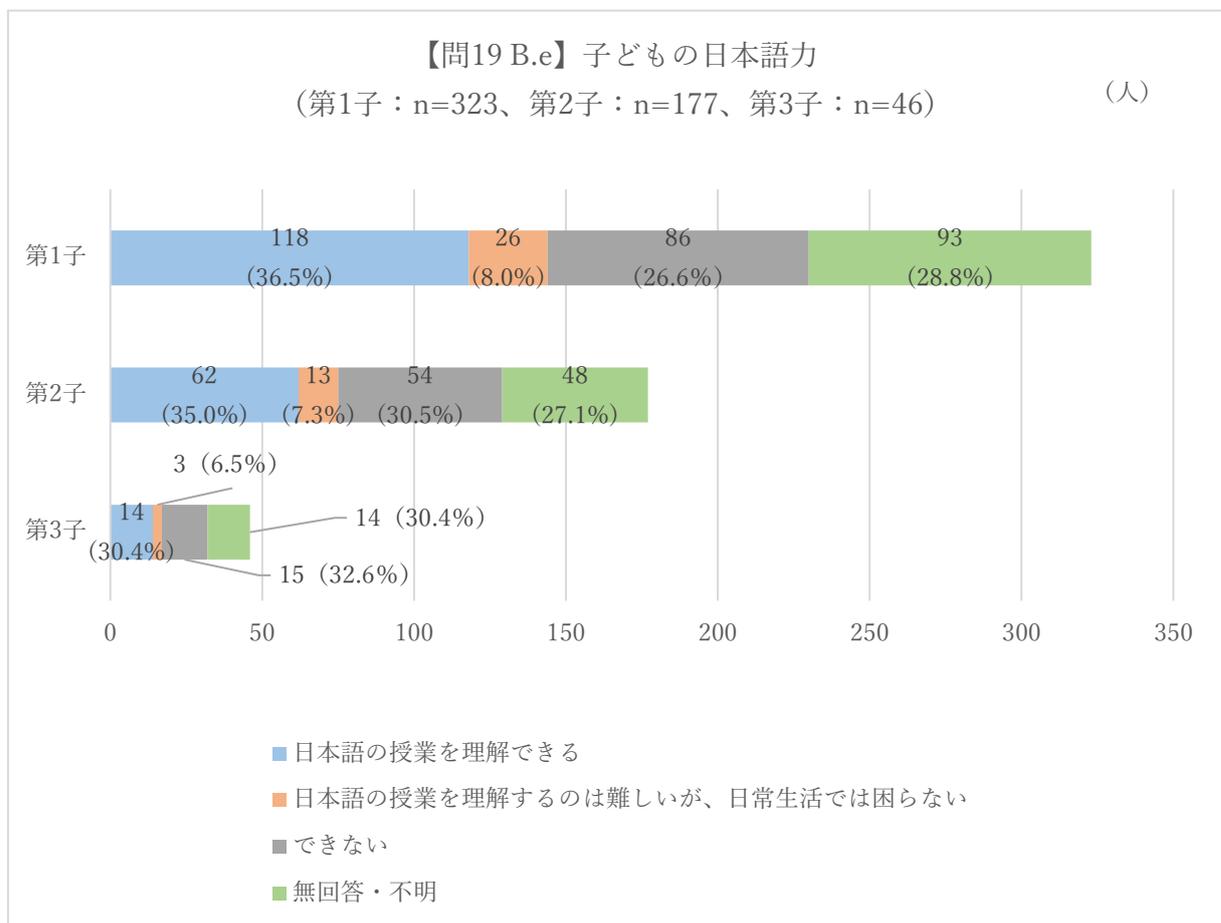


e. 日本語能力

・第1子については、「日本語の授業を理解できない」26.6%、「日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない」は8.0%となっており、これらを合わせると「日本語の授業を理解できない」は34.6%となっている。一方、「日本語の授業を理解できる」は36.5%であった。

・第2子については、日本語の授業を理解できない」30.5%、「日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない」は7.3%となっており、これらを合わせると「日本語の授業を理解できない」は37.8%となっており、「日本語の授業を理解できる」35.0%を上回った。

・第3子については、日本語の授業を理解できない」32.6%、「日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない」は6.5%となっており、これらを合わせると「日本語の授業を理解できない」は39.1%となっており、「日本語の授業を理解できる」30.4%を8.7ポイント上回った。



【子どもの教育で心配なこと】

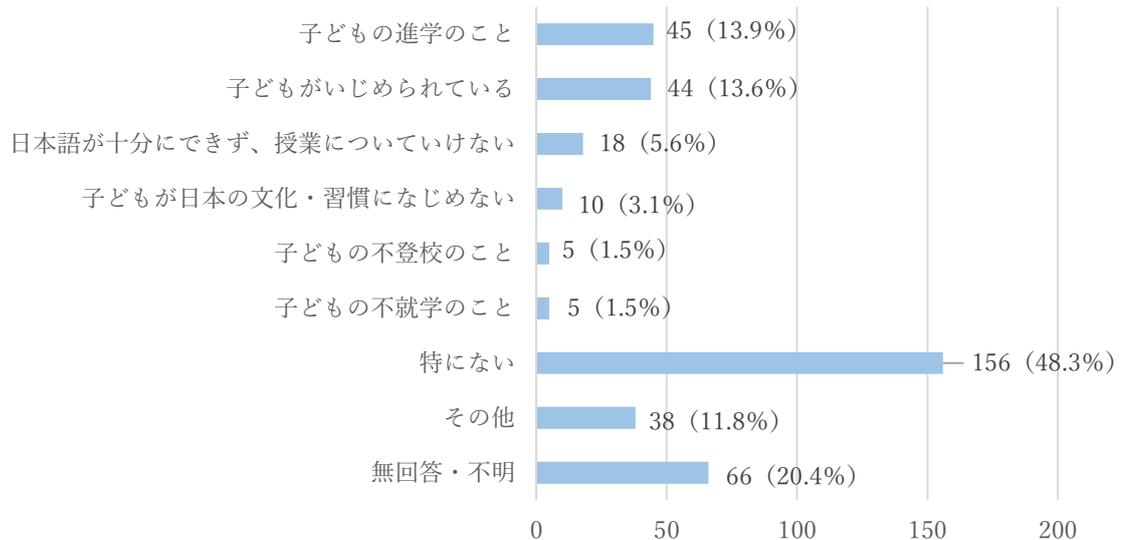
C. お子さんの教育で心配なことはありますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 日本語が十分にできず、授業についていけない
2. 子どもの不就学のこと
3. 子どもの不登校のこと
4. 子どもの進学のこと
5. 子どもが日本の文化・習慣になじめない
6. 子どもがいじめられている
7. 特にない
8. その他 ()

子どもの教育で心配なことについて、複数回答可で聞いたところ、「特にない」が48.3%であった。他方、「子どもの進学のこと」が13.9%を占めた。また、「子どもがいじめられている」が13.6%、「日本語が十分にできず、授業についていけない」が5.6%、「子どもが日本の文化・習慣になじめない」が3.1%、「子どもの不登校のこと」が1.5%、「子どもの不就学のこと」が1.5%であった。

【問19】子どもの教育での心配 (n=323)

(人)



7. 生活上の困りごと

困った時の相談相手については、「家族、親戚」を挙げた者が 64.3%と最も多く、2012 年度の調査(57.6%)から増加している。性別で見ると「女性」が 71.1%、「無職」が 83.0%と、「女性」と「無職」にその傾向が強くみられた。続いて「会社の人」が 48.9%となっている。「日本人以外の友人、知人」36.4%は、「日本人の友人、知人」30.2%を上回った。公的な機関・団体では、「公の機関(役所の窓口、ハローワーク、領事館など)が 11.1%、「(公財)しまね国際センターの相談窓口や外国人地域サポーター」が 4.8%、「日本語教室やボランティア団体」が 3.9%という状況であった。また、「相談する人がいない、または誰に相談したらいいかわからない」と回答した者も 6.4%いた。

今、困っていることは、「特にない」と回答した人が 43.6%で最も多かった。一方、「病気やけがをしたときのこと」18.0%、「会社や仕事のこと」16.6%、「失業、または収入が少ない」14.0%、「子どものこと(学校や進学、出産・育児など)や、家族のこと」12.2%という状況であった。

病気やけがで困っている者の年齢は、「70 歳以上」37.5%が一番多く、「20～29 才」は 18.3%、「30～39 才」は 16.1%と、年齢が高くなるほど多いことがわかる。

健康保険加入者は 92.9%になり、2012 年度の調査(87.8%)と比べて増加している。

国民健康保険の加入は 37.8%であり、2012 年度の調査(45.4%)より 7.6 ポイント減少している。会社の健康保険の加入は 53.7%で 2012 年度の調査(41.9%)より 11.8 ポイント増加した。また、健康保険の加入について、「わからない」と答える者が 1.6%おり、2012 年度の調査(1.0%)から増加しており、社会保障の制度や仕組みへの手続きが十分に周知できていないためと推察される。これらの者は「製造業(電子機器)」、「販売、サービス」、「建設業」、「無職」の職業にみられた。

病気になったときの対応については、「すぐに病院に行く」との回答が 64.7%と一番多い。一方、「薬を買って飲む」26.0%や「がまんする」1.8%などにより対応している者もいることがわかる。「20～29 才」の者は「薬を買って飲む」45.8%が、「すぐに病院に行く」43.8%を上回る。また、「がまんする」3.9%も他の年代より多い。

病院での言葉の問題については、「日本語ができるので問題ない」36.2%と回答した者が最も多かったが、「日本語のできる家族や友人を連れて行く」33.7%、「通訳を雇って行く」12.0%、「(公財)しまね国際センターのコミュニティ通訳ボランティアを頼む」も 2.3%である。病院受診に通訳が必要な者は 48.0%であり、通訳が必要でない者(36.2%)を上回った。

外国人差別や人権侵害を受けたと感じたことがある人は 30.9%、ない人は 65.5%であった。2012 年度の調査(ある 30.8%、ない 62.2%)とほぼ同じ水準となった。

差別を受けたと感じた場面は、「会社の人言葉や態度」52.6%、「通りすがりの知らない人の言葉や態度」40.6%、「近所の人言葉や態度」17.7%、「福祉、年金、税金などの行政のしくみ自体」12.6%、「公の機関(役所の窓口、ハローワークなど)の職員の対応や言葉」12.0%、「テレビや新聞などの報道」11.4%となっており、職場や日常生活、制度面などあらゆる場面で差別や人権侵害を受けたと感じている者がいることがわかる。

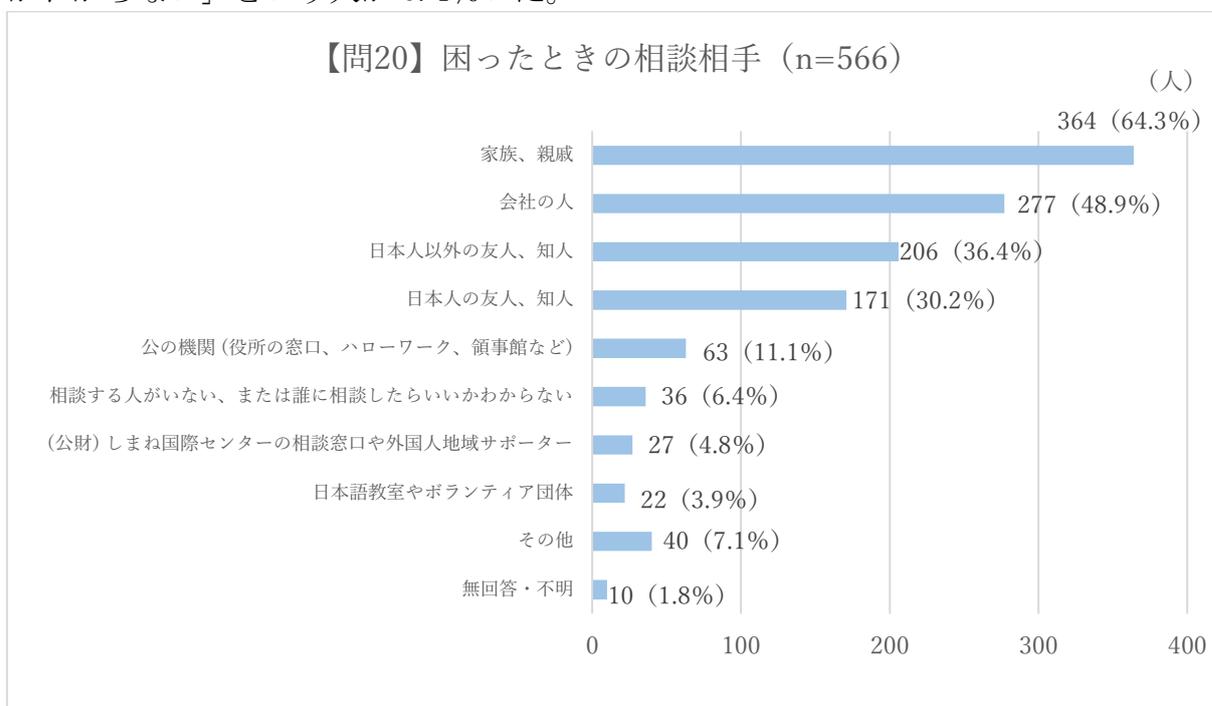
【困った時の相談相手】

問20 日常生活や仕事で困ったことがある場合、どこに（または誰に）相談しますか。
（特にあてはまるもの3つに○）

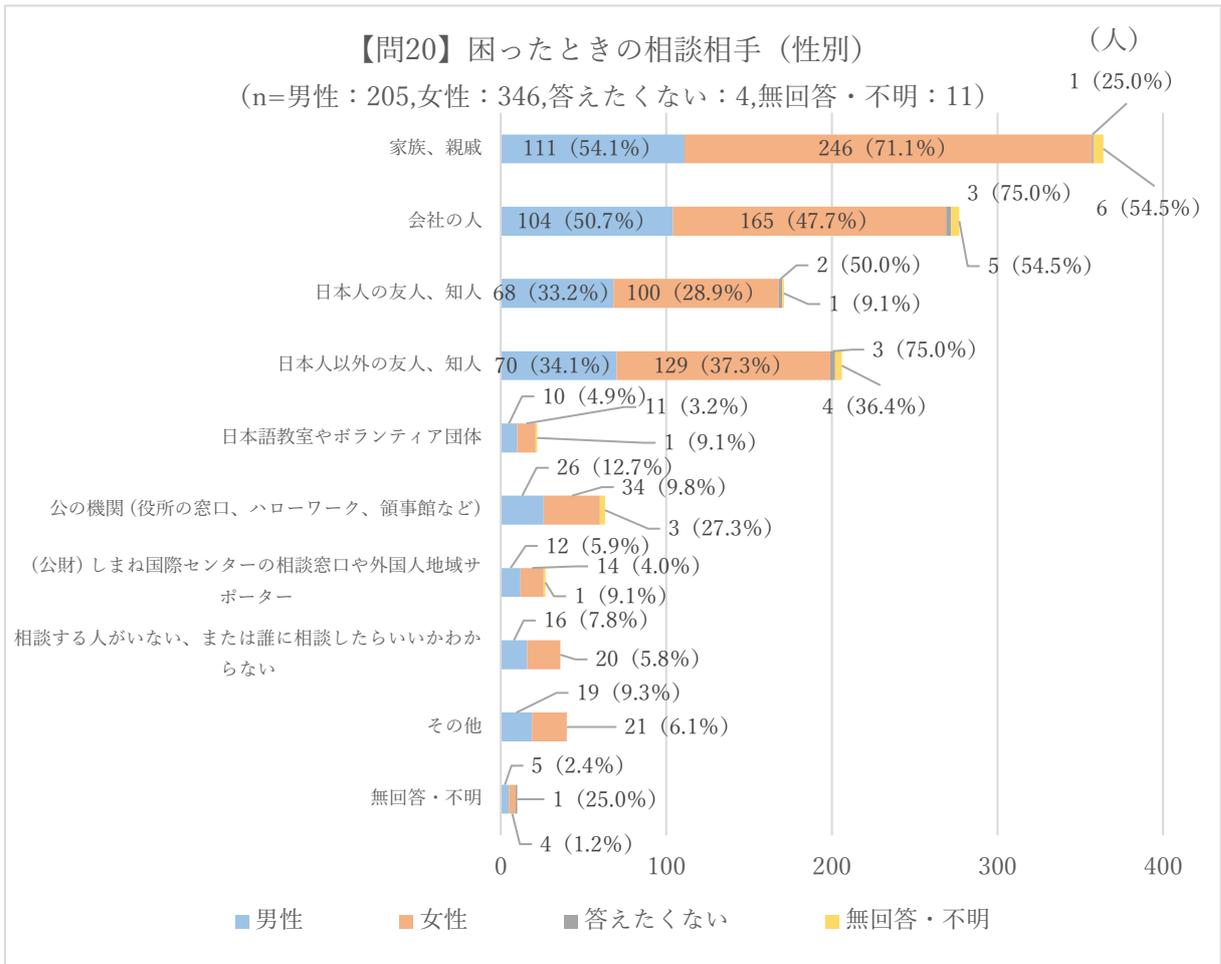
1. 家族、親戚
2. 会社の人
3. 日本人の友人、知人
4. 日本人以外の友人、知人
5. 日本語教室やボランティア団体
6. 公の機関（役所の窓口、ハローワーク、領事館など）
7. （公財）しまね国際センターの相談窓口や外国人地域サポーター
8. 相談する人がいない、または誰に相談したらいいかわからない
9. その他（）

日常生活や仕事で困った時の相談相手について、特にあてはまるもの3つを聞いたところ、「家族、親戚」を挙げた人が64.3%と最も多く、「女性」71.1%、「無職」83.0%で、「女性」、「無職」に特にその傾向がみられた。

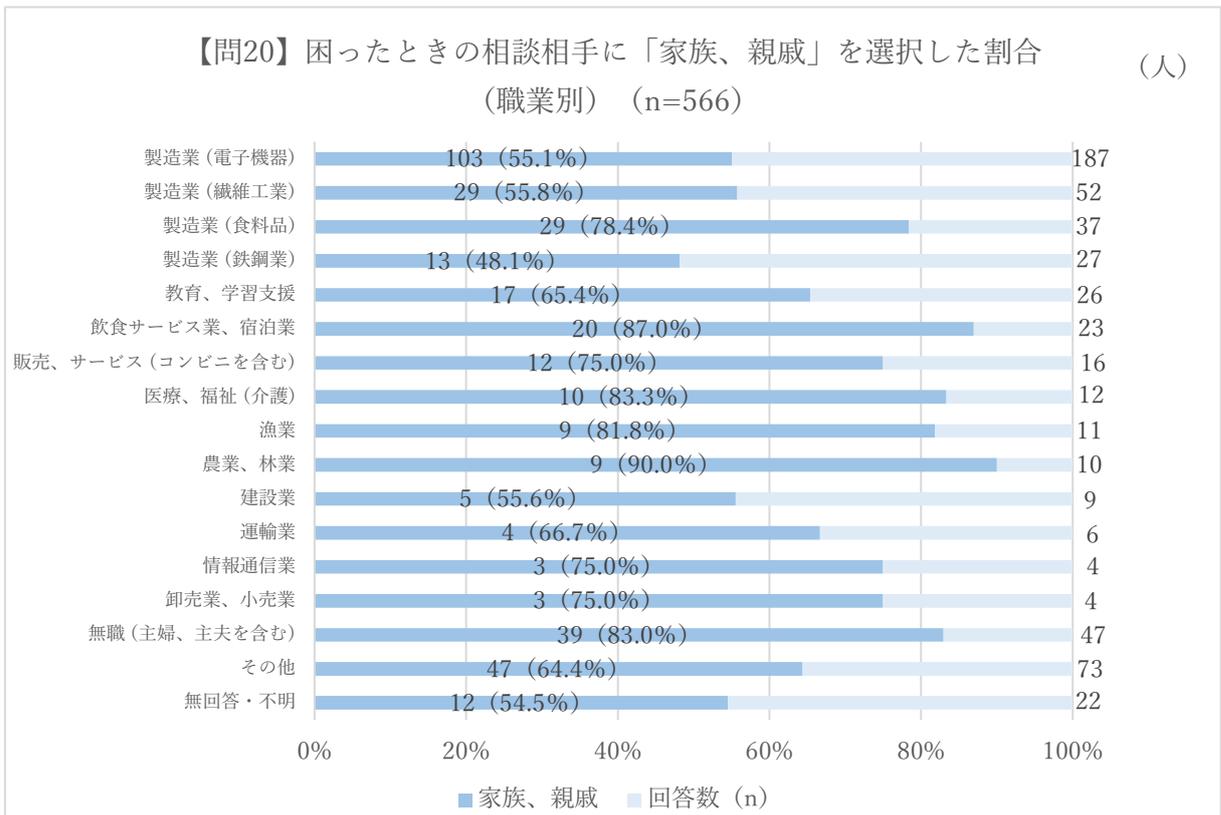
次いで、「会社の人」48.9%となっている。「日本人以外の友人、知人」36.4%は、「日本人の友人、知人」30.2%を上回った。また、公的な機関・団体では、「公の機関（役所の窓口、ハローワーク、領事館など）」が11.1%、「（公財）しまね国際センターの相談窓口や外国人地域サポーター」が4.8%、「日本語教室やボランティア団体」が3.9%という状況であった。なお、「相談する人がいない、または誰に相談したらいいかわからない」という人が6.4%いた。



(参考) 【問 20】 困ったときの相談相手と【問 1】 性別のクロス集計



(参考) 【問 20】 困ったときの相談相手に「家族、親戚」を選択した割合 (職業別)

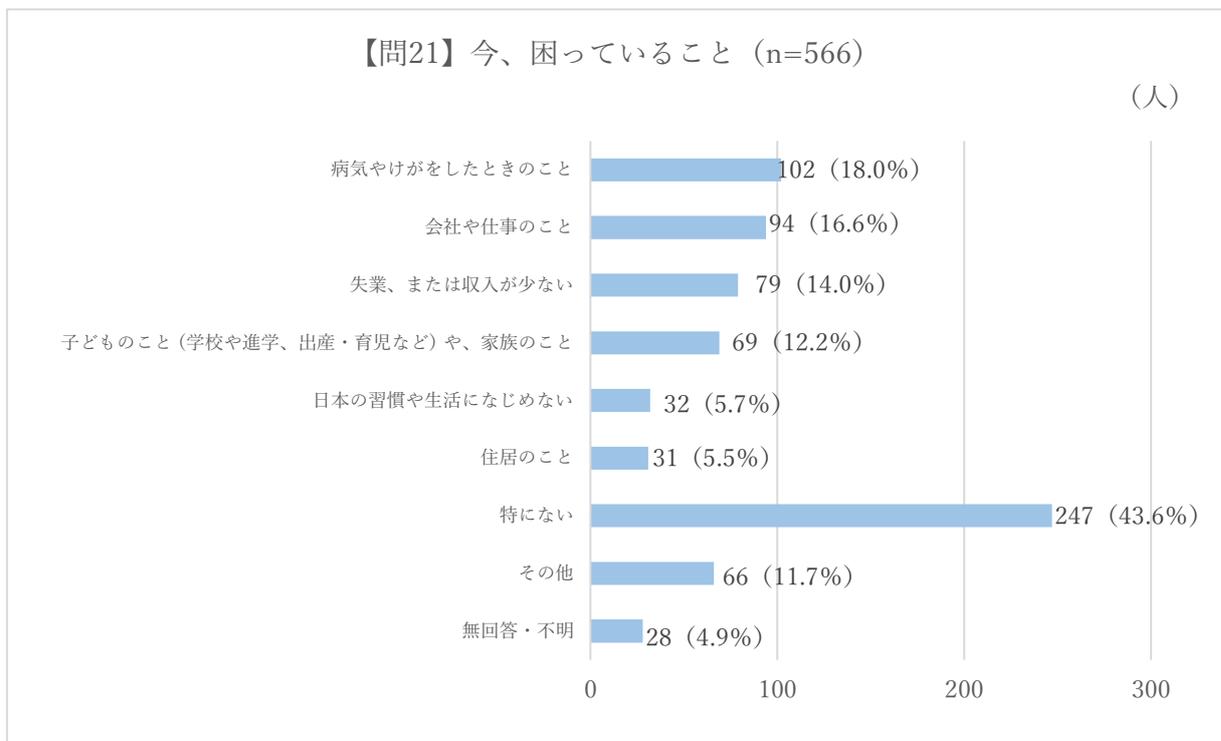


【今、困っていること】

問21 あなたが今、困っていることはなんですか。(特にあてはまるもの2つに○)

1. 会社や仕事のこと
2. 子どものこと(学校や進学、出産・育児など)や、家族のこと
3. 住居のこと
4. 病気やけがをしたときのこと
5. 日本の習慣や生活になじめない
6. 失業、または収入が少ない
7. 特にない
8. その他()

今、困っていることについて、特にあてはまるもの2つを聞いたところ、「特にない」と回答した人が43.6%で最も多かった。一方、「病気やけがをしたときのこと」18.0%、「会社や仕事のこと」16.6%、「失業、または収入が少ない」14.0%、「子どものこと(学校や進学、出産・育児など)や、家族のこと」12.2%という状況であった。



(参考) 【問 21】 今、困っていることと 【問 2】 年齢のクロス集計

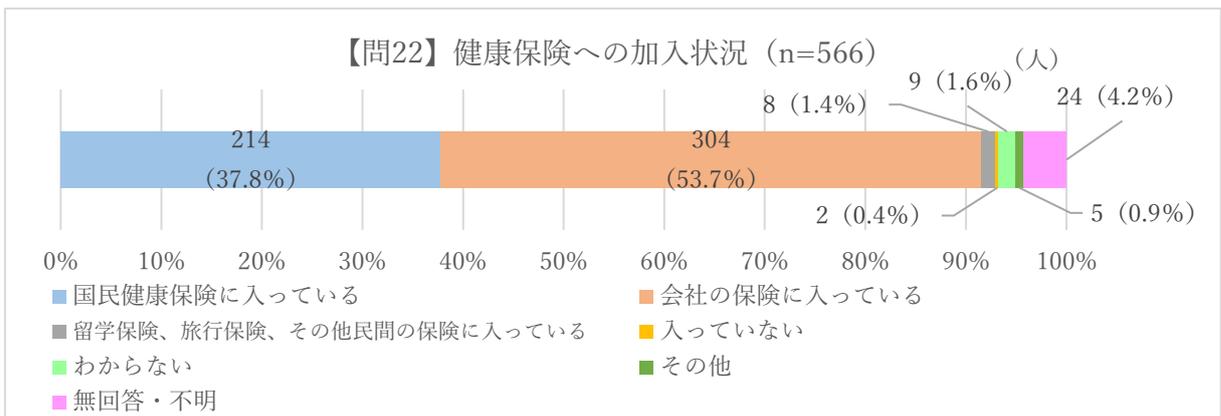


【健康保険への加入状況】

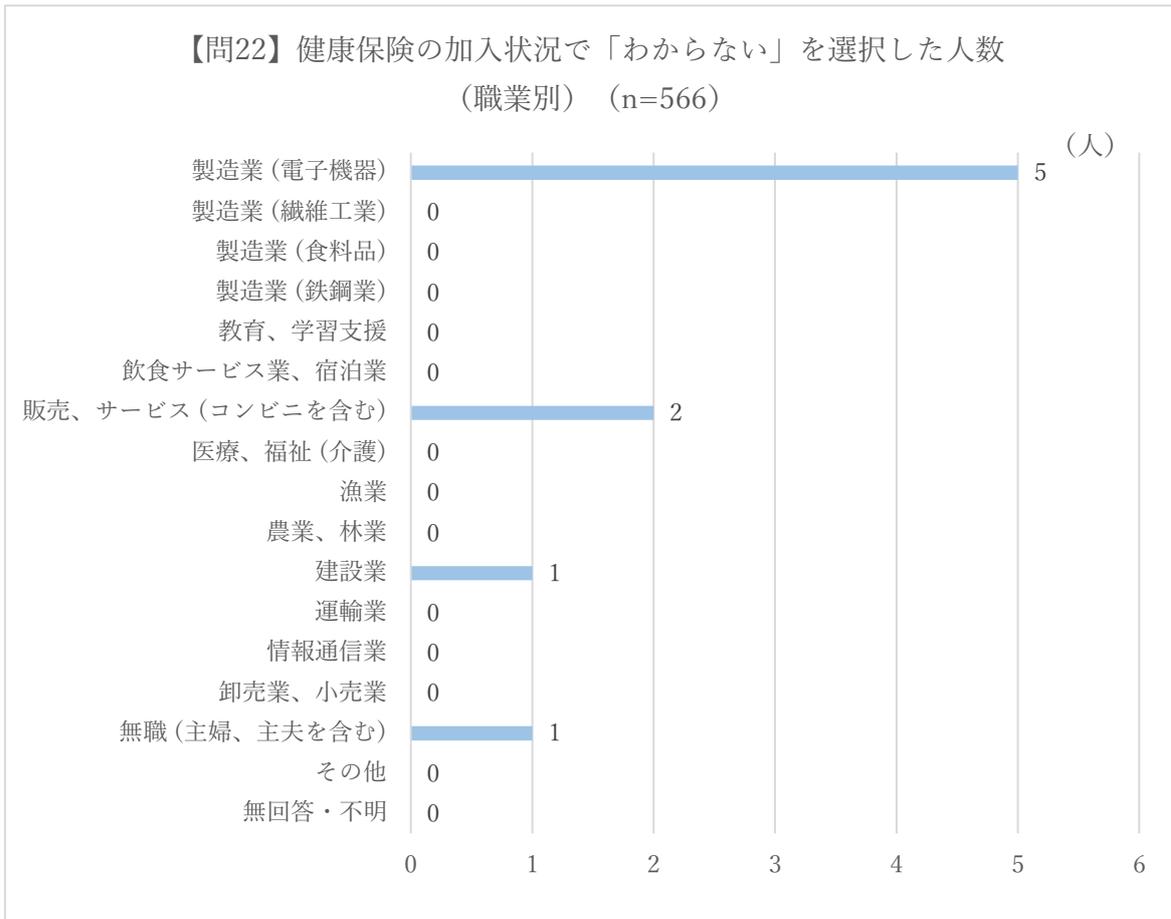
問 22 健康保険に入っていますか。(1つに○)

1. 国民健康保険に入っている
2. 会社の保険に入っている
3. 留学保険、旅行保険、その他民間の保険に入っている
4. 入っていない
5. わからない
6. その他 ()

「会社の健康保険」の加入者が 53.7%を占め、次いで「国民健康保険」の加入者が 37.8%あった。一方、健康保険に「入っていない」は 0.4%とわずかであった。「わからない」は 1.6%であった。



(参考) 【問 22】健康保険の加入状況で「わからない」を選択した人数 (職業別)

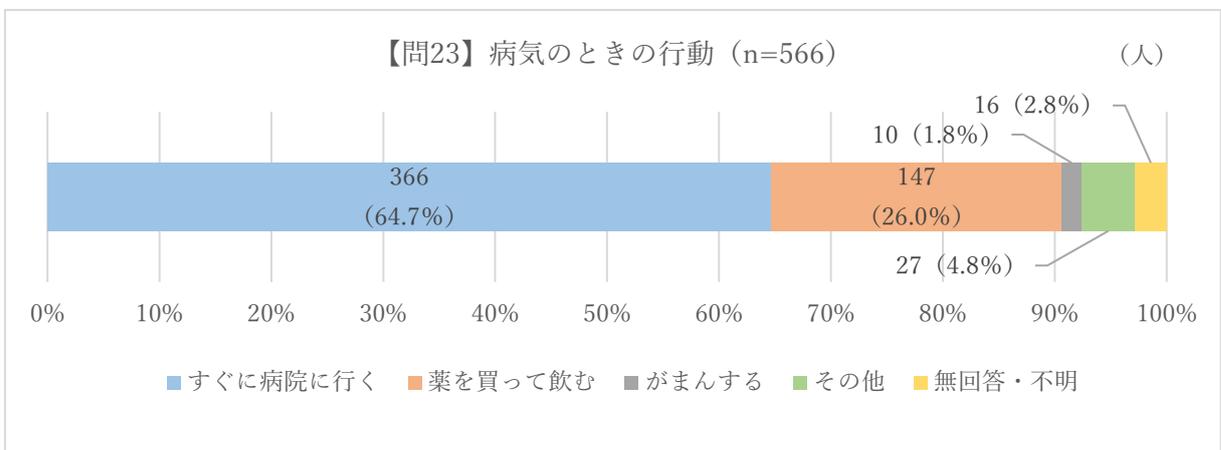


【自分や家族が病気の際の行動】

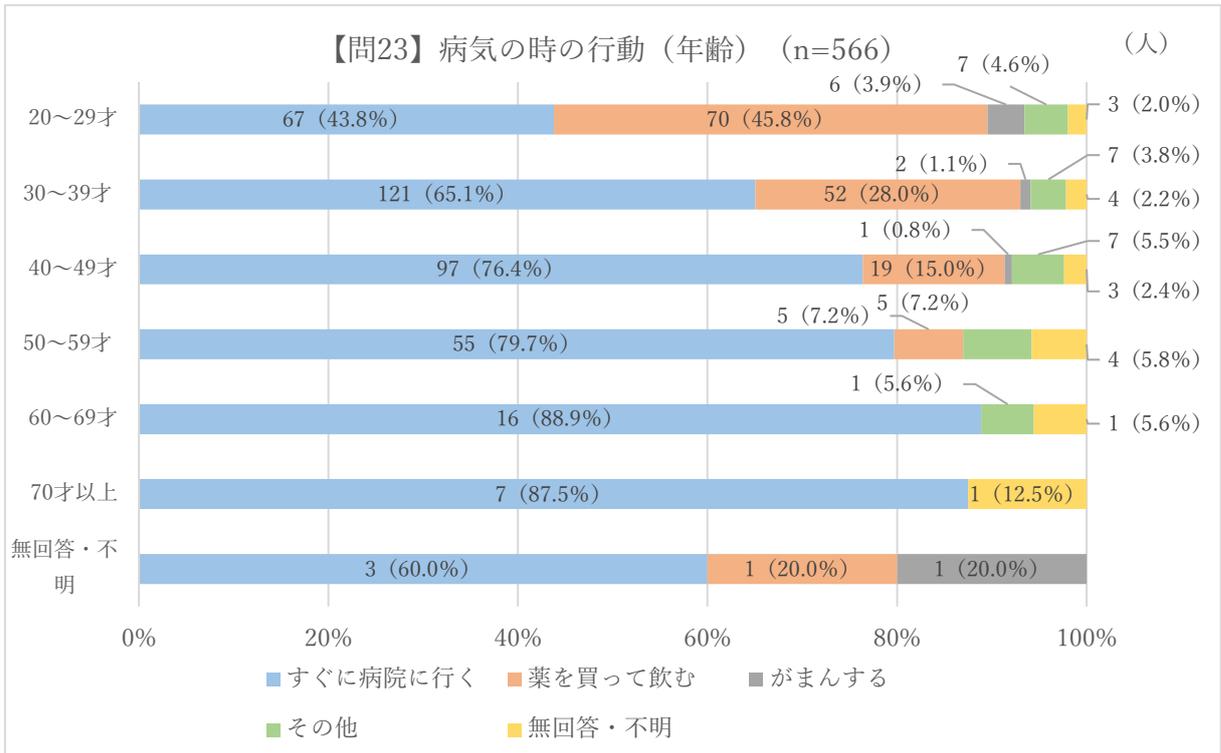
問 23 あなたや家族が病気になったとき、どうしますか。(1つに○)

1. すぐに病院に行く
2. 薬を買って飲む
3. がまんする (理由 :)
4. その他 ()

7割近く(64.7%)が「すぐに病院に行く」と回答している。一方、「薬を買って飲む」が26.0%や「がまんする」が1.8%などにより対応している者もいることがわかる。



(参考) 【問 23】 病気の時の行動と 【問 2】 年齢のクロス集計

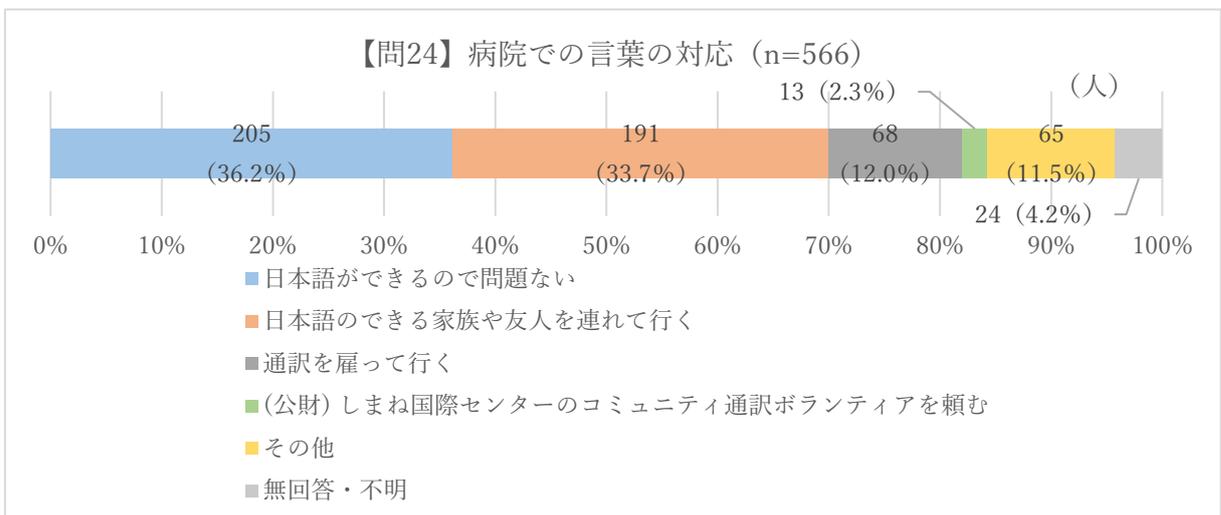


【病院での言葉の問題】

問 24 病院での言葉の問題について、どのようにしていますか。(1つに○)

1. 日本語ができるので問題ない
2. 日本語のできる家族や友人を連れて行く
3. 通訳を雇って行く
4. (公財) しまね国際センターのコミュニティ通訳ボランティアを頼む
5. その他 ()

病院での言葉の問題については「日本語ができるので問題ない」36.2%と回答した者が最も多かったが、「日本語のできる家族や友人を連れて行く」33.7%、「通訳を雇って行く」12.0%、「(公財) しまね国際センターのコミュニティ通訳ボランティアを頼む」2.3%となっており、これらを合わせると 48.0%となっている。通院に日本語の支援が必要な者が「日本語ができるので問題ない」を上回った。

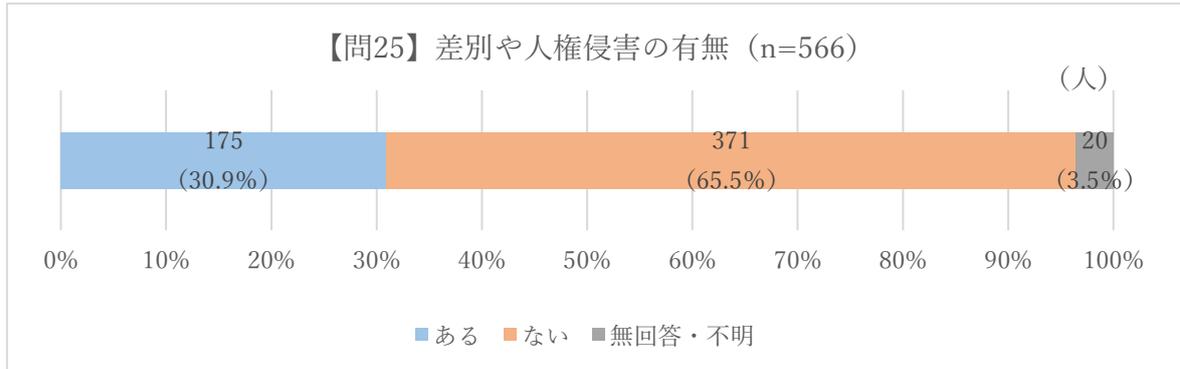


【外国人差別や人権侵害を受けたことがあるか】

問 25 日常生活の中で、外国人であることを理由に、差別や人権侵害を受けたと感じたことがありますか。(1つに○)

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1. ある | 2. ない (問 26 へ進んでください) |
|-------|-----------------------|

外国人差別や人権侵害を受けたと感じたことがある人は 30.9%、ない人は 65.5%であった。



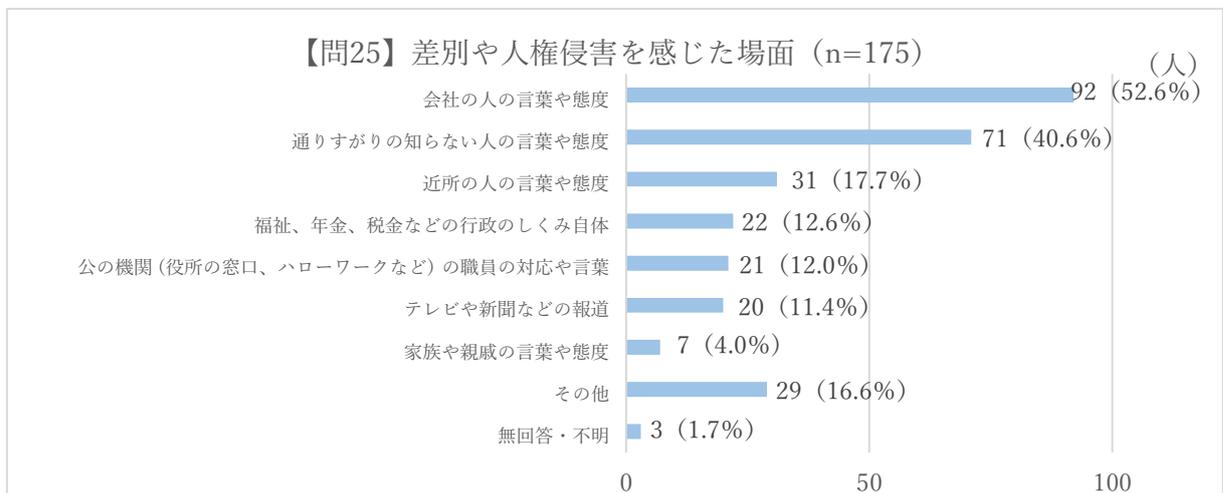
【差別や人権侵害を受けたと感じた場面】

A. 問 25 で「1. ある」の方にお聞きします。

それはどのような場面で感じましたか。(あてはまるもの全てに○)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 会社の人の言葉や態度 |
| 2. 公の機関(役所の窓口、ハローワークなど)の職員の対応や言葉 |
| 3. テレビや新聞などの報道 |
| 4. 近所の人の言葉や態度 |
| 5. 家族や親戚の言葉や態度 |
| 6. 通りすがりの知らない人の言葉や態度 |
| 7. 福祉、年金、税金などの行政のしくみ自体 |
| 8. その他 () |

外国人差別や人権侵害を受けたと感じた場面について、複数回答可で聞いたところ、「会社の人の言葉や態度」52.6%、「通りすがりの知らない人の言葉や態度」40.6%、「近所の人の言葉や態度」17.7%、「福祉、年金、税金などの行政のしくみ自体」12.6%、「公の機関(役所の窓口、ハローワークなど)の職員の対応や言葉」12.0%、「テレビや新聞などの報道」11.4%であった。



8. 自然災害

避難場所の認知状況や災害への備え、災害時に備えが必要なもの、災害の際の情報源についての質問である。

被災経験の有無については、「地震」と回答した者が 58.5%で、最も多かった。続いて「台風」38.2%、「大雨、洪水」19.4%の順となった、「特にない」は 32.9%であった。2012 年度の調査と比較すると、「地震」が増加(2012 年度：45.1%)し、「特にない」が減少(2012 年度：42.8%)している。なお、「地震」の経験者が最も多かったのは大田市で、81.5%が経験していた。

避難場所を「知っている」と回答した者 52.8%は、「知らない」との回答者 45.1%を上回った。

災害の備えについての質問については、「家の近く、職場、学校などで防災訓練に参加したことがある」が 32.2%と最も多く、「災害が起きた時の避難方法の手順などを確認している」21.0%、「非常持ち出し品や水、食料などを準備している」20.0%、「家族などとの連絡方法を決めている」14.3%、「県や市町村の「防災メール」に登録している」7.8%との回答が続く。一方、「特に何もしていない」との回答も 46.5%に及んだ。

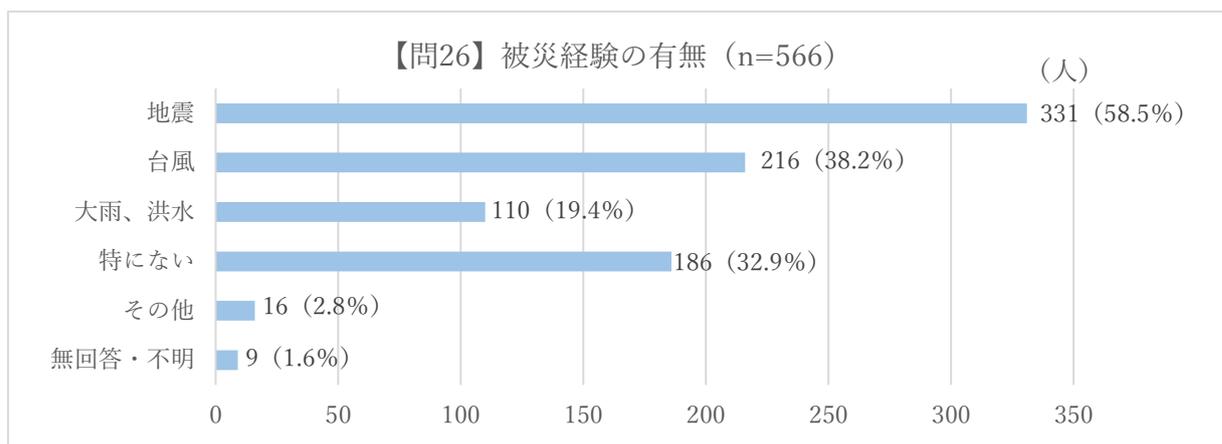
災害時の情報源では、「インターネット」と回答した者が 64.8%と最も多く、「テレビやラジオ」が 45.9%、「SNS(Facebook、Twitter)」が 39.2%、「友人や知人の口コミ」が 39.2%、「学校や勤務先」が 34.1%と続いて多かった。その他では、「県や市町村の「防災メール」」11.5%、「(公財)しまね国際センターの「多言語メールマガジン」」3.2%であった。

【被災経験の有無】

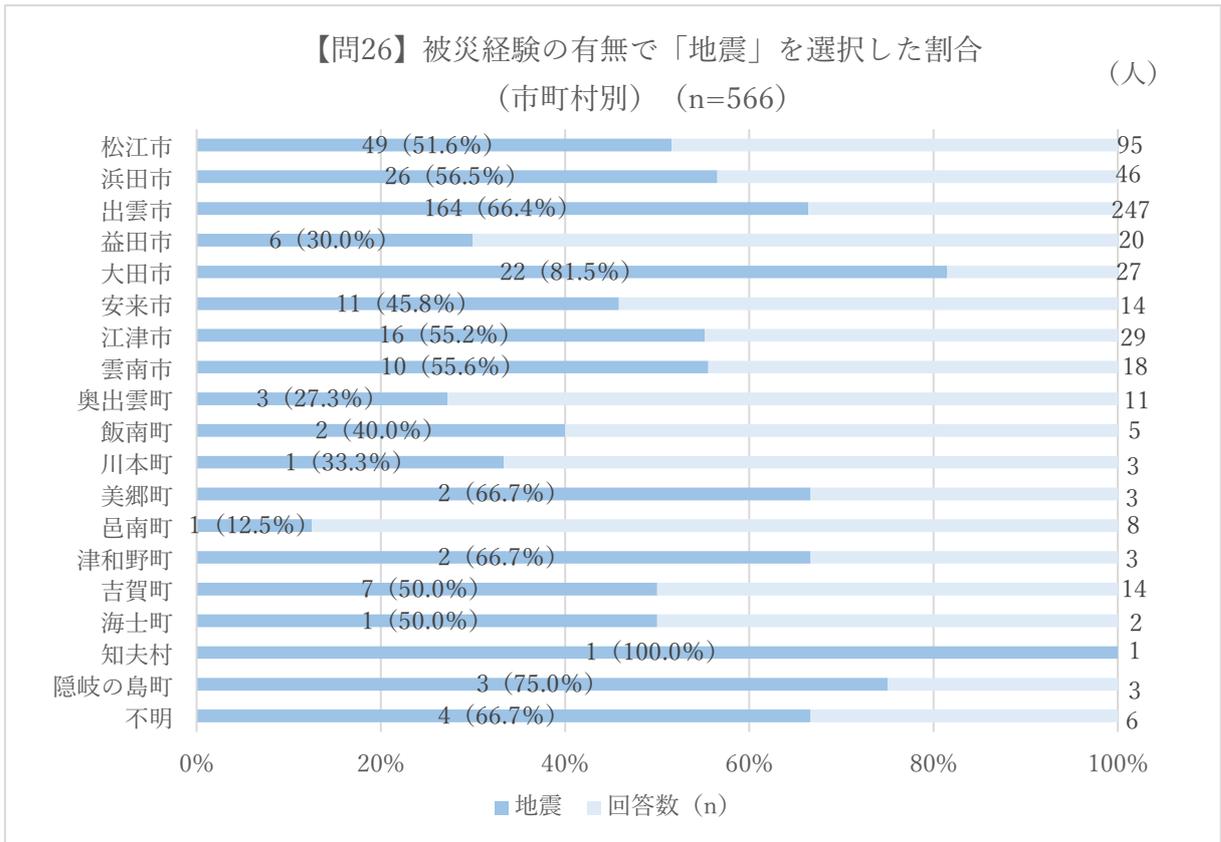
問 26 あなたは日本で災害を経験したことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 地震
2. 台風
3. 大雨、洪水
4. 特にない
5. その他 ()

被災経験の有無について、複数回答可で聞いたところ、「地震」と回答した者が 58.5%で、最も多かった。次いで「台風」38.2%、「大雨、洪水」19.4%と続く。一方、「特にない」は 32.9%であった。



(参考) 【問26】被災経験の有無で「地震」を選択した割合 (市町村別)

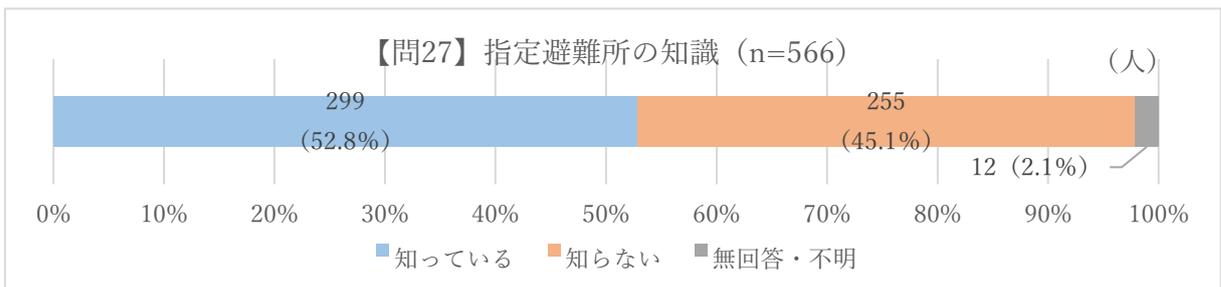


【指定避難場所を知っているか】

問27 災害の時に避難する指定避難所を知っていますか。(1つに○)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

「知っている」と回答した者が52.8%となり、「知らない」45.1%と回答した者を上回った。

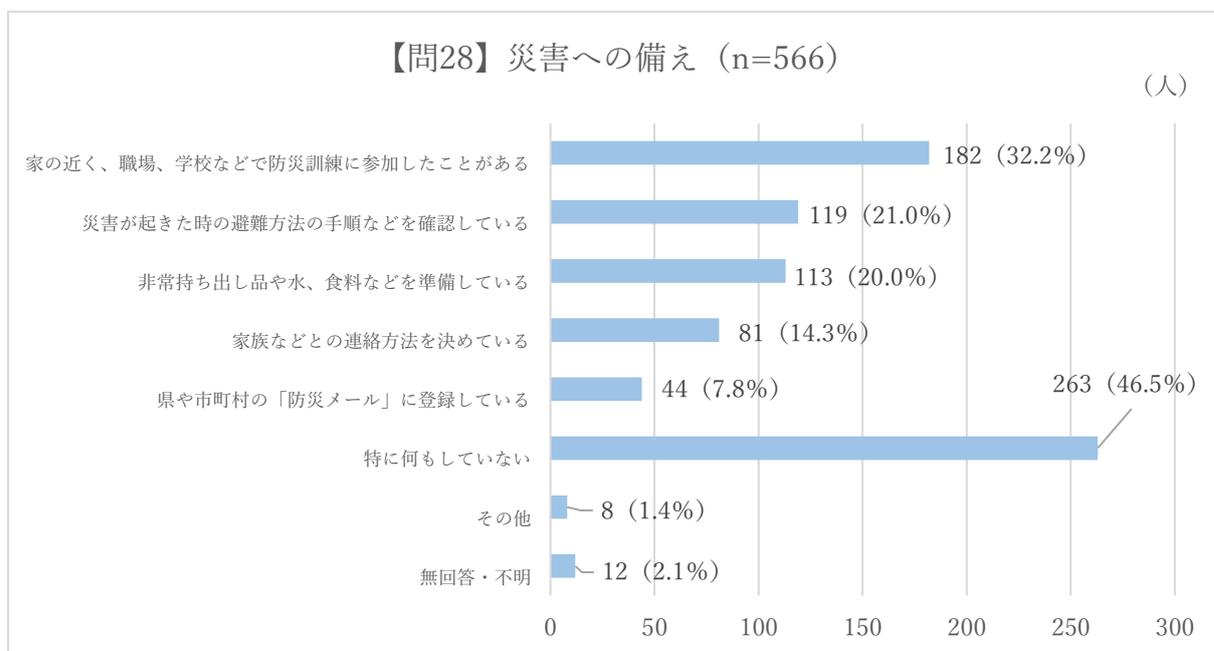


【災害のための備え】

問28 災害のために備えていることはありますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 家の近く、職場、学校などで防災訓練に参加したことがある
2. 災害が起きた時の避難方法の手順などを確認している
3. 県や市町村の「防災メール」に登録している
4. 非常持ち出し品や水、食料などを準備している
5. 家族などとの連絡方法を決めている
6. 特に何もしていない
7. その他 ()

災害のための備えについて、複数回答可で聞いたところ、「家の近く、職場、学校などで防災訓練に参加したことがある」32.2%が最も多く、次いで、「災害が起きた時の避難方法の手順などを確認している」21.0%、「非常持ち出し品や水、食料などを準備している」20.0%、「家族などとの連絡方法を決めている」14.3%、「県や市町村の「防災メール」に登録している」7.8%が続く。一方、「特に何もしていない」との回答が46.5%で最も多かった。



【災害関連情報の入手方法】

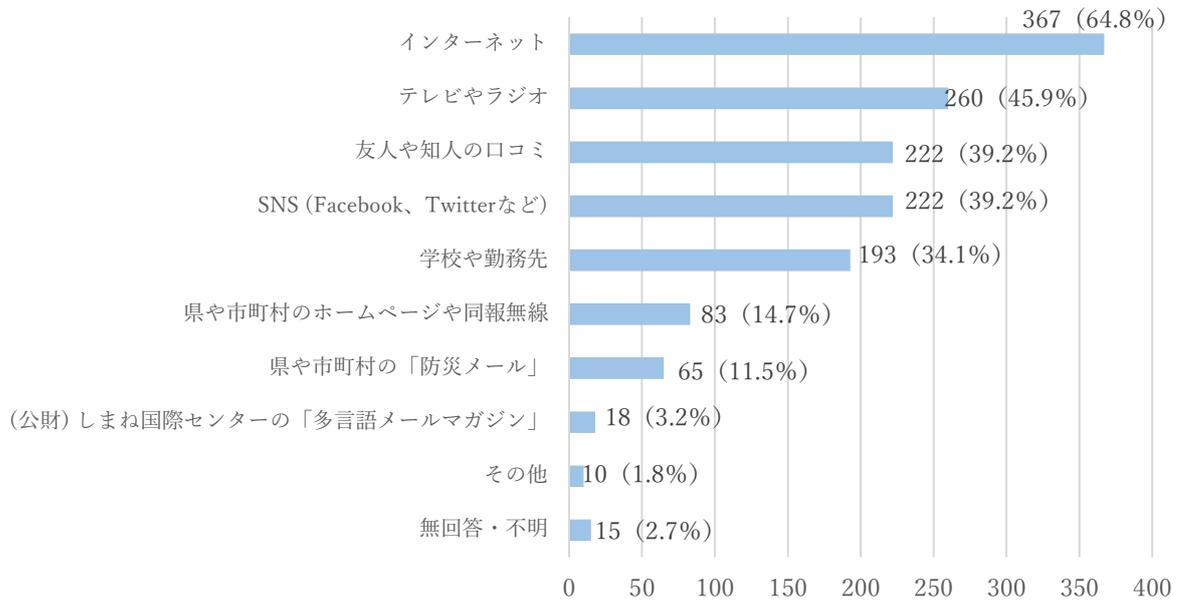
問 29 災害に関する情報はどこから得ていますか。(あてはまるもの全てに○)

1. テレビやラジオ
2. インターネット
3. 学校や勤務先
4. SNS (Facebook、Twitter など)
5. 友人や知人の口コミ
6. 県や市町村のホームページや同報無線
7. 県や市町村の「防災メール」
8. (公財)しまね国際センターの「多言語メールマガジン」
9. その他 ()

災害に関する情報の入手方法について、複数回答可で聞いたところ、「インターネット」が64.8%で最も多い、次いで、「テレビやラジオ」45.9%、「友人や知人の口コミ」39.2%、「SNS (Facebook、Twitter)」39.2%、「学校や勤務先」が34.1%と続いて多かった。その他では、「県や市町村の「防災メール」」11.5%、「(公財)島根国際センターの「多言語メールマガジン」」3.2%が続く。

【問29】 災害関連情報の入手方法 (n=566)

(人)



8. 行政からの情報のサービスについて

行政サービスを利用するための情報源は、「SNS (Facebook、Twitter など)」が 56.0%と最も多く、「会社からの情報」が 41.9%、「日本のテレビ、ラジオ、新聞」が 38.7%、「母国語のテレビ、ラジオ、雑誌など」 38.3%が続く。

必要とする行政サービスの情報としては、「医療、病院、福祉」が最も多く (39.6%)、続いて「就職、仕事」が多かった (34.5%)。その他、必要とする情報は、「防災」 (27.9%)、「日本語教室」 (25.1%)、「ゴミ出しなどの生活ルール、生活習慣」 (25.1%)、「地域のイベント」 (20.8%) などであった。2012 年度の調査と比較すると、「医療、病院、福祉」、「就職、仕事」、「日本語教室」、「防災」、「ゴミ出しなどの生活ルール、生活習慣」は増加 (2012 年度 : 「医療、病院、福祉」 24.8%、「就職、仕事」 22.3%、「日本語教室」 20.6%、「防災」 22.1%、「ゴミ出しなどの生活ルール、生活習慣」 10.3%) している。

困っている内容についてどのような情報を必要としているかをみると、会社や仕事のこと困っている人は、「就職、仕事」の情報を最も必要としている (53.2%)。病気やけがで困っている人は、「医療、病院、福祉」の情報を最も必要としている (64.7%)。「失業、または収入が少ない」で困っている人は、「就職、仕事」の情報が多い (65.8%)。「子どものこと」で困っている人は、「医療、病院、福祉」の情報が 46.4%と最も多く、続いて「学校、育児」の情報 43.5%である。特に困りごとがない場合でも、「医療、病院、福祉」の情報を必要とする者は 31.6%と多く、続いて「ゴミ出しなどの生活ルール、生活習慣」 30.8%、「防災」 30.8%の順であった。

情報を得やすい方法や場所は、「SNS (Facebook、Twitter など)」が 56.4%と最も多く、2012 年度の調査 (12.8%) から大きく上昇した。続いて「学校や勤務先」が 50.7%、「テレビ、ラジオ、新聞」が 37.6%となる。その他では、「県や市町村のウェブサイトや広報誌」が 17.0%であるが、2012 年度の調査 (57.9%) から大きく減少している。外国人が情報を知る方法は、ウェブサイトからツイッターなどの SNS (交流サイト) へ移りつつあることがわかる。

情報提供を望む言語については、「母国語」 61.0%が「日本語」 23.7%、「英語」 8.0%を大幅に上回った。

外国人の行政サービスの希望としては、「日本文化、生活習慣、日本語などを学ぶ機会の充実」が最も多く (48.9%)、続いて「行政情報の多言語化の充実」が多かった (39.9%)。また、「行政の窓口における通訳の充実」 (32.9%)、「防災対策などの多言語化の充実」 (22.4%)、「外国人の子どもに対する教育支援の充実」 (21.9%)、「外国人が各国の文化や伝統芸能を紹介する機会の充実」 (21.0%) などが多かった。

困っている内容について、どのような行政サービスを希望するかを見ると、会社や仕事のこと困っている人は、「日本文化、生活習慣、日本語などを学ぶ機会の充実」が 47.9%と最も多く、続いて「行政情報の多言語化の充実」 43.6%となる。病気やけがで困っている人も「行政情報の多言語化の充実」の希望が最も多く (50.0%)、「行政の窓口における通訳の充実」 46.1%が続く。「失業、または収入が少ない」で困っている人は、「日本文化、生活習慣、日本語などを学ぶ機会の充実」が 48.1%で最も多く、続いて「仕事の相談窓口の充実」が 41.8%である。「子どものこと」で困っている人は、「行政情報の多言語化の充実」が 50.7%で最も多く、次いで、「外国人の子どもに対する教育支援の充実」が 46.4%と続く。特に困りごとがない者も、「日本文化、生

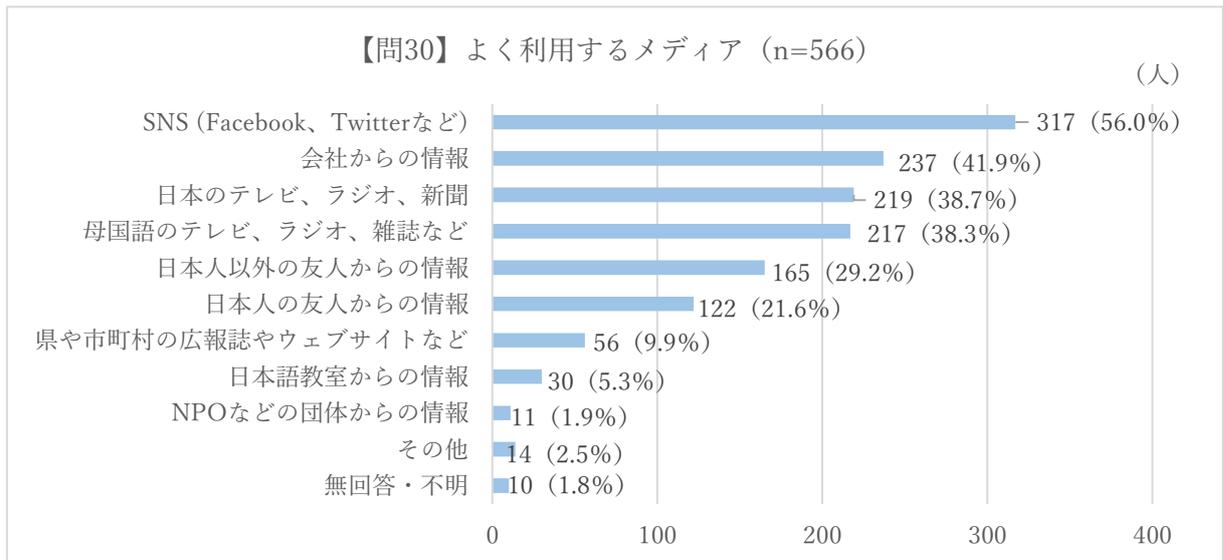
活習慣、日本語などを学ぶ機会の充実」53.4%や「行政情報の多言語化の充実」36.8%は多い結果となった。

【よく利用するメディアや情報】

問 30 よく利用するメディアや情報は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

1. 母国語のテレビ、ラジオ、雑誌など
2. 日本のテレビ、ラジオ、新聞
3. 日本人の友人からの情報
4. 日本人以外の友人からの情報
5. 会社からの情報
6. 県や市町村の広報誌やウェブサイトなど
7. SNS (Facebook、Twitter など)
8. 日本語教室からの情報
9. NPO などの団体からの情報
10. その他 ()

よく利用するメディアや情報について、複数回答可で聞いたところ、「SNS (Facebook、Twitter など)」が 56.0%で最も多い。次いで、「会社からの情報」41.9%、「日本のテレビ、ラジオ、新聞」38.7%、「母国語のテレビ、ラジオ、雑誌など」38.3%と続いて多かった。

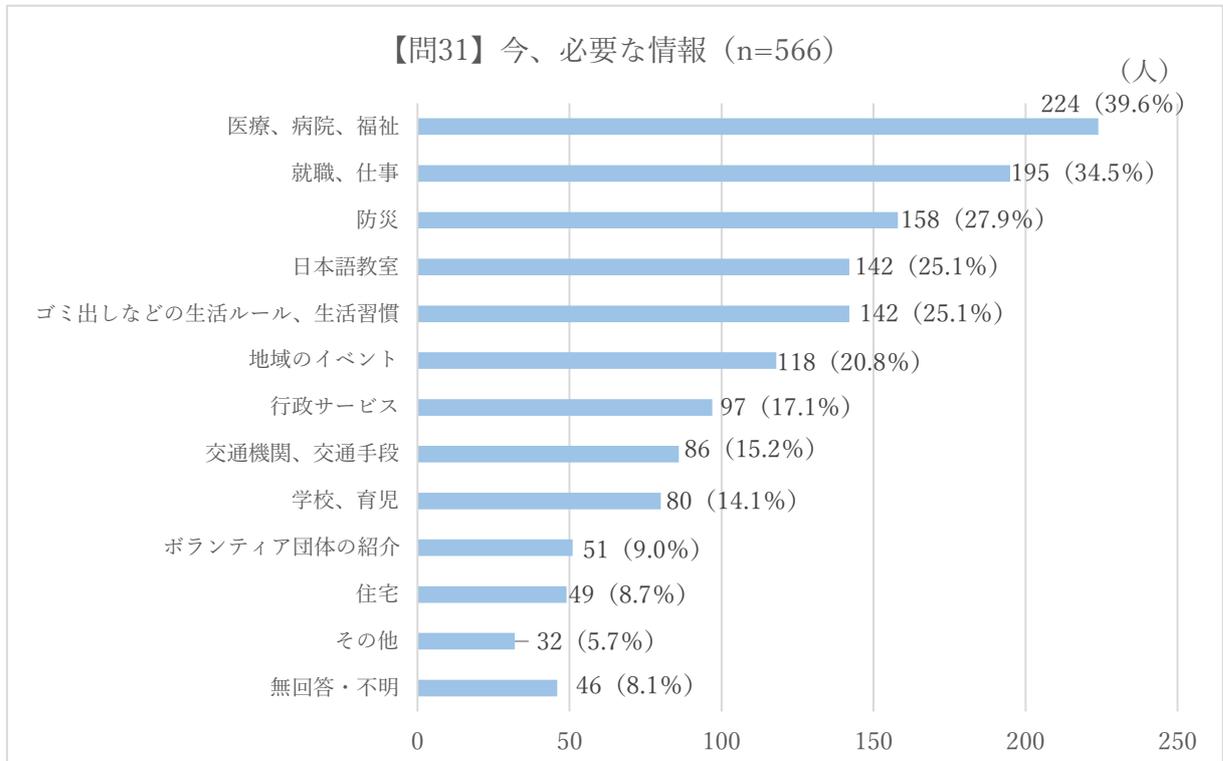


【今必要な情報】

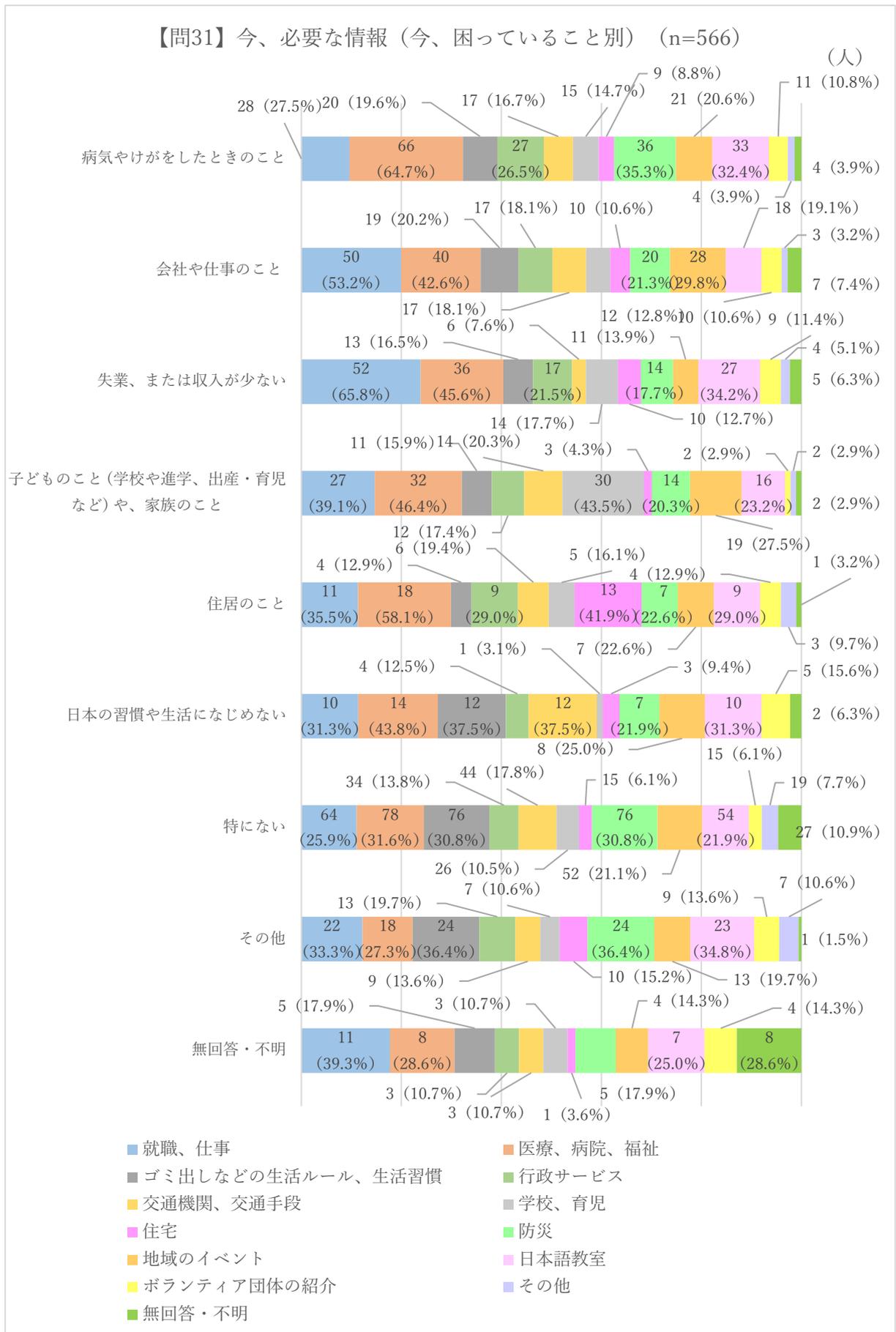
問 31 今どのような情報が必要ですか。(特にあてはまるもの3つに○)

1. 就職、仕事
2. 医療、病院、福祉
3. ゴミ出しなどの生活ルール、生活習慣
4. 行政サービス
5. 交通機関、交通手段
6. 学校、育児
7. 住宅
8. 防災
9. 地域のイベント
10. 日本語教室
11. ボランティア団体の紹介
12. その他 ()

今必要な情報について、特にあてはまるもの3つを挙げてもらったところ、「医療、病院、福祉」が39.6%と最も多い。次いで、「就職、仕事」が34.5%と続く。その他では、「防災」27.9%、「日本語教室」25.1%、「ゴミ出しなどの生活ルール、生活習慣」25.1%、「地域のイベント」20.8%が多かった。



(参考) 【問 31】 今、必要な情報と【問 21】 今、困っていることのクロス集計

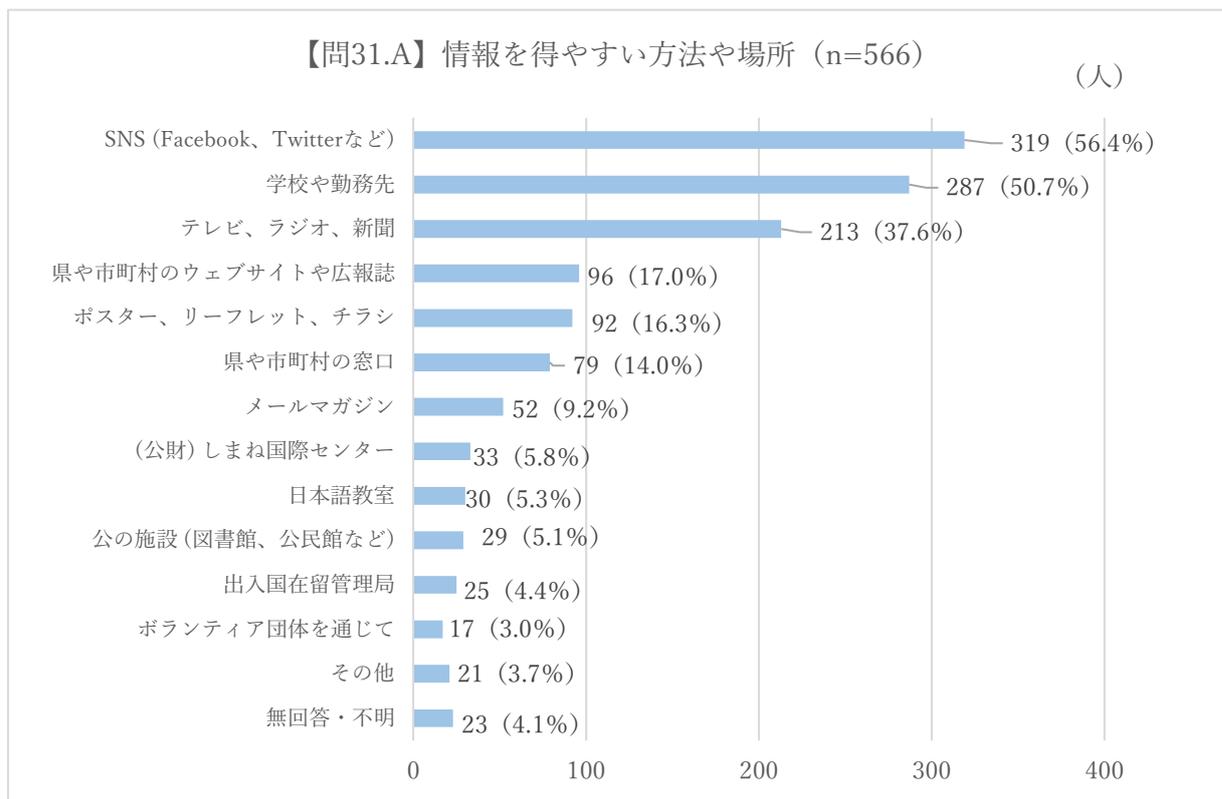


【情報を得やすい方法や場所】

A. どのような方法（場所）だと情報を得やすいですか。（特にあてはまるもの3つに○）

1. 県や市町村の窓口
2. 県や市町村のウェブサイトや広報誌
3. 公の施設（図書館、公民館など）
4. 出入国在留管理局
5. 学校や勤務先
6. テレビ、ラジオ、新聞
7. SNS（Facebook、Twitter など）
8. ポスター、リーフレット、チラシ
9. メールマガジン
10. ボランティア団体を通じて
11. 日本語教室
12. （公財）しまね国際センター
13. その他（)

情報を得やすい方法や場所について、特にあてはまるもの3つを挙げてもらったところ、「SNS (Facebook、Twitter など)」が 56.4% で最も多い。次いで、「学校や勤務先」が 50.7%、「テレビ、ラジオ、新聞」が 37.6% と続く。その他では、「県や市町村のウェブサイトや広報誌」17.0%、「ポスター、リーフレット、チラシ」16.3%、「県や市町村の窓口」14.0% が続く。

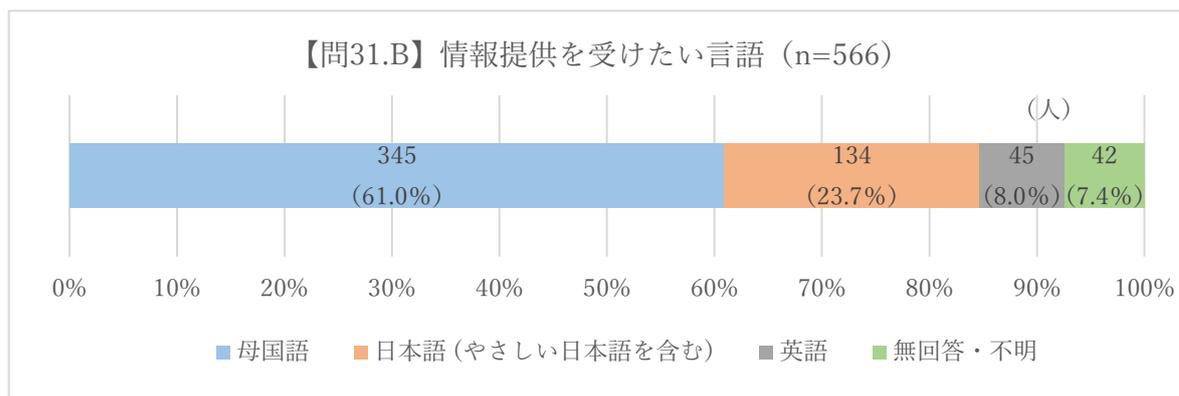


【情報提供を望む言語】

B. どの言語での情報提供を望みますか。（1つに○）

- | | | |
|--------------------|--------|-------|
| 1. 日本語（やさしい日本語を含む） | 2. 母国語 | 3. 英語 |
|--------------------|--------|-------|

情報提供を望む言語については、「母国語」61.0%が「日本語」23.7%、「英語」8.0%を大幅に上回った。

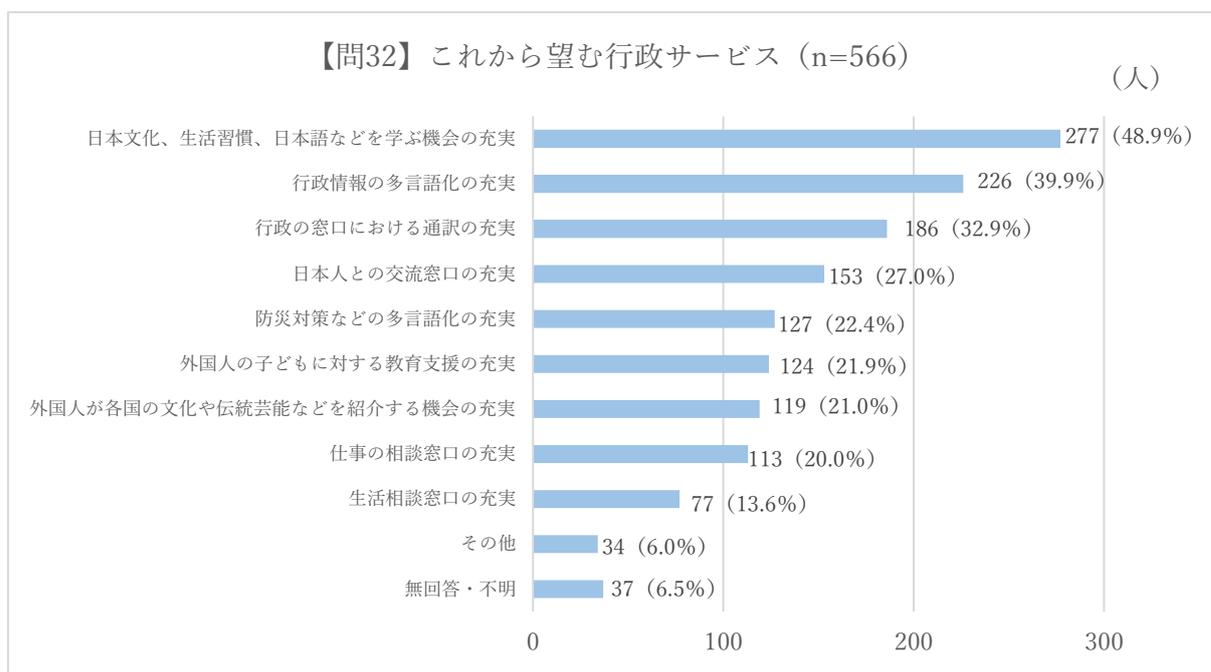


【これから望む行政サービス】

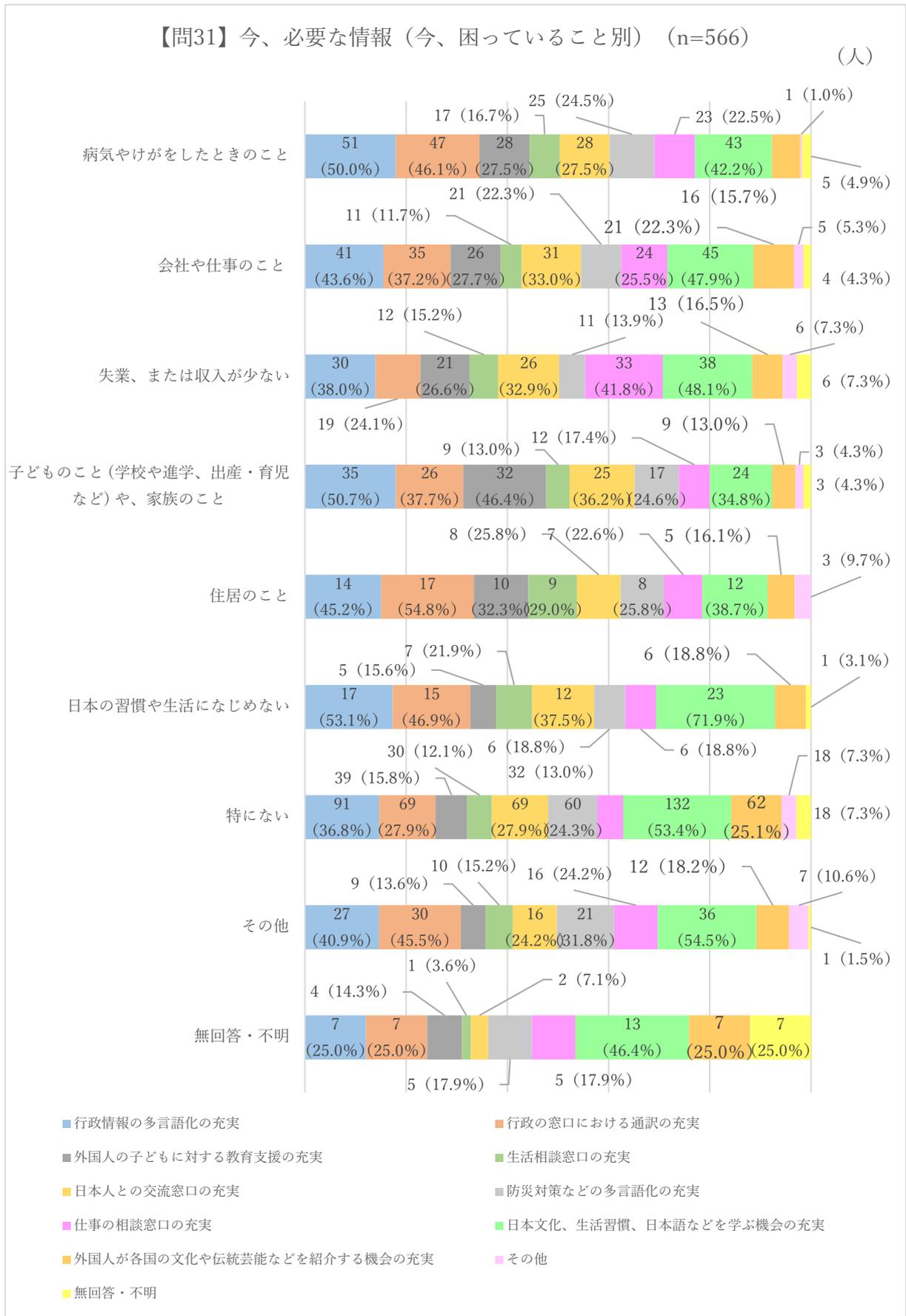
問 32 これからどのような行政サービスを望みますか。(あてはまるもの3つに○)

1. 行政情報の多言語化の充実
2. 行政の窓口における通訳の充実
3. 外国人の子どもに対する教育支援の充実
4. 生活相談窓口の充実
5. 日本人との交流窓口の充実
6. 防災対策などの多言語化の充実
7. 仕事の相談窓口の充実
8. 日本文化、生活習慣、日本語などを学ぶ機会の充実
9. 外国人が各国の文化や伝統芸能を紹介する機会の充実
10. その他 ()

これから望む行政サービスについて、あてはまるもの3つを挙げてもらったところ、「日本文化、生活習慣、日本語などを学ぶ機会の充実」が48.9%と最も多い。次いで、「行政情報の多言語化の充実」が39.9%、「行政の窓口における通訳の充実」が32.9%と続く。その他では、「防災対策などの多言語化の充実」22.4%、「外国人の子どもに対する教育支援の充実」21.9%、「外国人が各国の文化や伝統芸能を紹介する機会の充実」21.0%が多かった。



(参考) 【問 32】これから望む行政サービスと【問 21】今、困っていることのクロス集計



第4部 第5回しまねwebモニター調査の結果及び分析

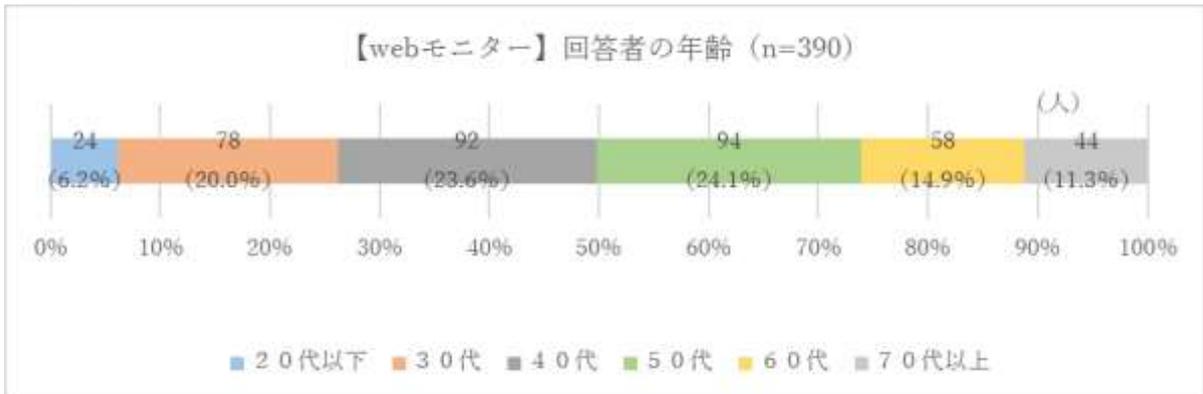
1. 回答者の属性

【年齢】

【問16】年齢

- 1 20代以下、2 30代、3 40代、4 50代、5 60代、6 70代以上、
7 未選択

「50代」が24.1%と最も多く、次いで「40代」が23.6%、「30代」が20.0%となった。



【地域】

【問17】地域

- 1 松江市、2 浜田市、3 出雲市、4 益田市、5 大田市、6 安来市、
7 江津市、8 雲南市
9 奥出雲町、10 飯南町、11 川本町、12 美郷町、13 邑南町、14 津和野町、
15 吉賀町、16 海士町、17 西ノ島町、18 知夫村、19 隠岐の島町

「松江市」44.6%、「出雲市」21.3%が多かった。

市町村名	回答数	回答率	市町村名	回答数	回答率
松江市	174	44.6%	奥出雲町	2	0.5%
浜田市	29	7.4%	飯南町	1	0.3%
出雲市	83	21.3%	川本町	5	1.3%
益田市	19	4.9%	美郷町	2	0.5%
大田市	18	4.6%	邑南町	3	0.8%
安来市	14	3.6%	津和野町	5	1.3%
江津市	13	3.3%	吉賀町	5	1.3%
雲南市	9	2.3%	海士町	0	0.0%
			西ノ島町	3	0.8%
			知夫村	0	0.0%
			隠岐の島町	5	1.3%
			合計	390	100.0%

2. 多文化共生に関する状況

「多文化共生」という言葉は、約6割の回答者が知っていた。

「多文化共生」社会の実現については、「重要だと思う」が39.5%と最も多く、「どちらかといえば重要」36.7%、「どちらかというとも重要だと思わない」11.8%、「どちらともいえない」7.4%、「重要だとは思わない」4.6%の順となっている。

外国人住民との関わりの程度については、「どちらかというとも関わりたい」が39.0%と最も多かったが、「どちらかというとも関わりたくない」も20.5%に及んだ。続いて「どちらともいえない」20.5%、「積極的に関わりたい」16.7%、「関わりたくない」3.3%の順となっており、外国人住民と関わりたい者が多いようである。

また、外国人と関わりたいと回答した者のうちどのように関わりたいかでは、「外国人住民から外国語を学びたい」が64.1%と最も多く、「外国人住民とともに、地域の活動やイベントを行いたい」50.2%、「外国人住民を支援する団体の活動、イベントに参加したい」36.4%、「外国人住民に日本語を教えたい」29.0%、「関わり方がわからない」10.1%と続く。

近くに住む外国人の有無では、「住んでいない」が42.8%と最も多く、「住んでいる」33.6%と回答した者を上回った。また、近所に外国人が住んでいるかどうかについて、「わからない」と答える者が22.8%おり、地域社会で外国人の存在がとらえにくい様子もうかがわれる。

また、近所に外国人が住んでいると回答した者のうち、外国人とどのように付き合っているかでは、「特に付き合いはない」が56.5%と最も多く、「あいさつする程度の付き合いはある」22.1%、「あいさつのほかに時々話もする」12.2%、「親しく付き合っている」9.2%と続く。さらに、近所に外国人が住んでいると回答した者のうち、近所の外国人をどのように感じるかでは、「どちらかといえば親しみを感じる」が30.5%と最も多く、「どちらともいえない」22.1%、「親しみを感じる」16.8%、「親しみを感じない」16.0%、「どちらかというとも親しみを感じない」12.2%と続く。一方、近所以外に住む外国人との付き合いの有無では、「ない」71.5%が「ある」26.7%を大きく上回る結果となった。

付き合いがある場所では、「職場や学校」が41.3%と最も多いが、「趣味の活動」21.2%、「子どもを通じた親同士の交流」13.5%、「ボランティア活動で」11.5%の順となっており、対象者が限られてはいるが、地域活動や地域の文化活動等における交流もあるようである。

次に、外国人との交流においては、「言葉の違い」72.6%や「文化や習慣の違い」71.3%、「生活習慣の違い」67.7%を課題として挙げる者が多くいた。

外国人との相互理解のためには、「異文化を体験する機会(伝統芸能や料理教室など)」64.4%、「地域での交流や活動の機会(自治会活動等)」53.6%、「外国の言葉を学習する場」45.4%、「多文化共生に関するセミナーやイベント」31.0%を挙げる者が多くおり、そのためには、「文化や生活習慣の違いについて知る」(74.4%)ことや、「日常的にあいさつをする」(65.4%)こと、「偏見を持たないようにする」(62.3%)こと、「生活をするうえでのルール等を外国人住民に知ってもらう」(57.7%)こと、「地域の交流や活動に参加を呼び掛ける」(35.1%)ことが地域で必要なことだと回答している。また、外国人に対しては、「日本の法律、生活ルール、習慣を守る」(78.2%)ことや、「日本語や日本の文化を学ぶ」(57.4%)こと、「地域住民との交流や地域活動へ

の参加」(54.6%)、「日本人に外国の言葉や文化を教える」(31.3%)ことを期待すると回答している。

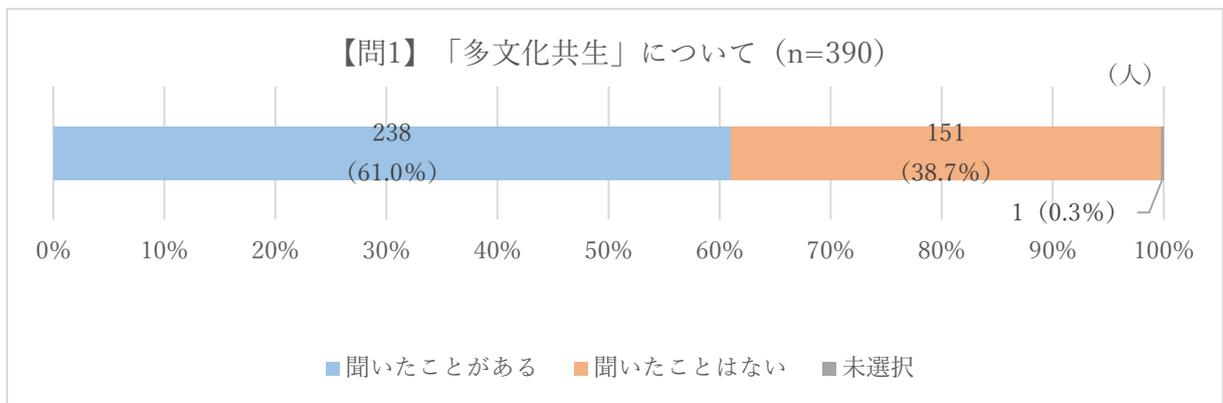
最後に、「多文化共生」社会の実現に向けて特に必要な県の施策について見てみる。

「外国人住民に対する日本の生活のルール、習慣、文化の違いなどを周知」67.9%が最も多く、「外国人住民の子どもに対する教育の充実」41.0%、「外国人住民に対する医療・保健・福祉などの生活支援」36.2%、「外国人住民に対する日本語学習の支援」32.8%の順となっており、外国人と日本人の違いを周知することや、子どもの教育支援、医療・保健・の支援、日本語学習支援が必要だとする声が多かった。

【問1】あなたは「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか。

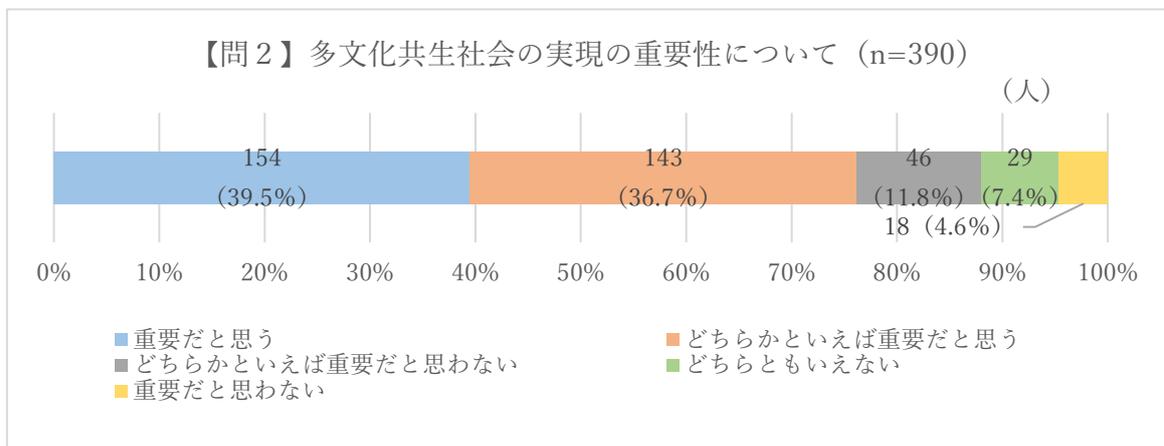
「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化を認め合い、地域社会の一員として、共に暮らしていくことを意味します。

「ある」61.0%、「ない」38.7%で「ある」の割合が高い。



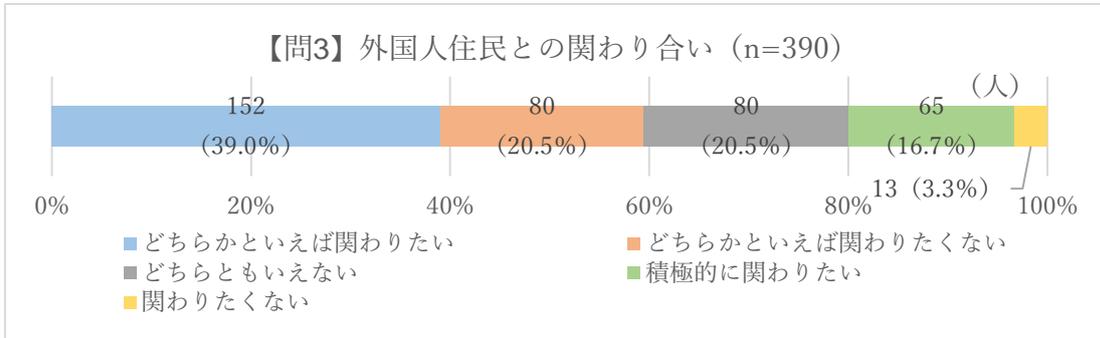
【問2】あなたは、外国人住民と互いに認め合い、共に暮らす「多文化共生」社会を島根県で実現することについてどう思いますか。

「重要だと思う」と回答した者が39.5%と最も多い。次いで「どちらかという重要だと思う」が36.7%、「どちらかという重要だと思わない」が11.8%、「どちらともいえない」が7.4%と続く。「重要だと思わない」は4.6%に留まった。



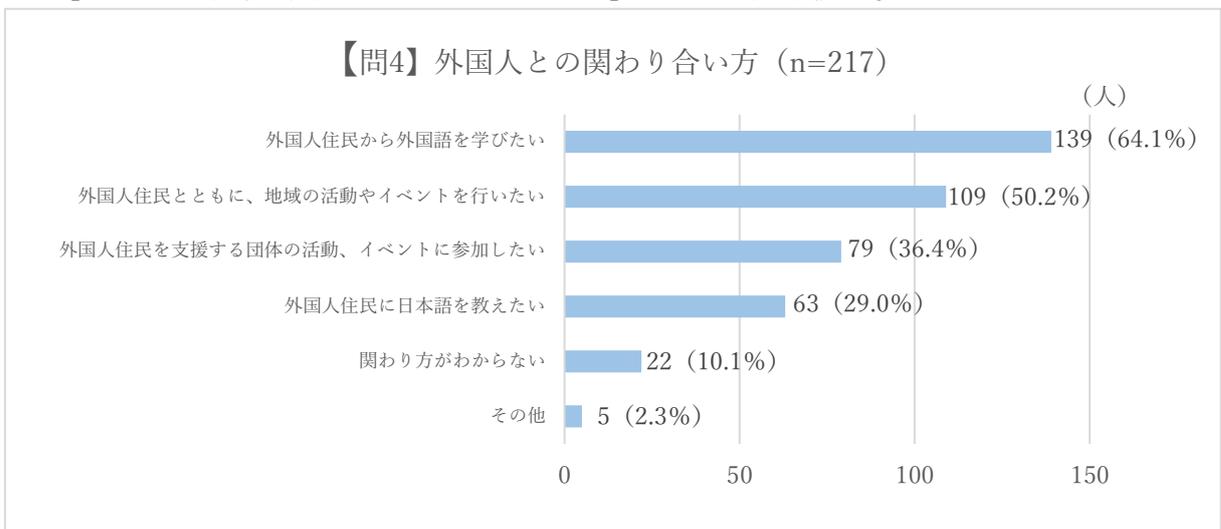
【問3】あなたは外国人住民とどの程度関わりたいですか。

「どちらかといえば関わりたい」と回答した者が 39.0%と最も多かった一方、「どちらかといえば関わりたくない」も 20.5%を占めた。「どちらともいえない」は 20.5%、「積極的に関わりたい」は 16.7%、「関わりたくない」は 3.3%であった。



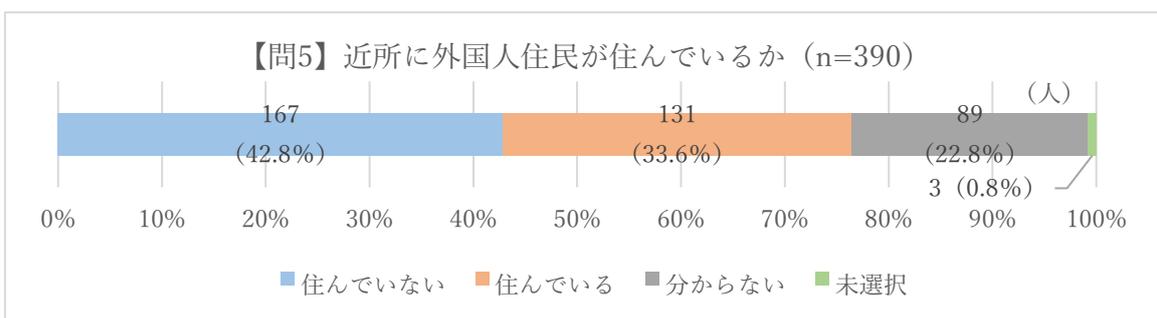
【問4】（【問3】で「1.積極的に関わりたい」、「2.どちらかといえば関わりたい」と答えた方）あなたは外国人住民とどのように関わりたいですか。次の中から3つまで教えてください。

外国人住民とどのように関わりたいかについて、3つまで回答可で聞いたところ、「外国人住民から外国語を学びたい」と回答した者が 64.1%と最も多い。次いで、「外国人住民とともに、地域の活動やイベントを行いたい」が 50.2%、「外国人住民を支援する団体の活動、イベントに参加したい」が 36.4%、「外国人住民に日本語を教えたい」が 29.0%、「関わり方がわからない」が 10.1%と続く。



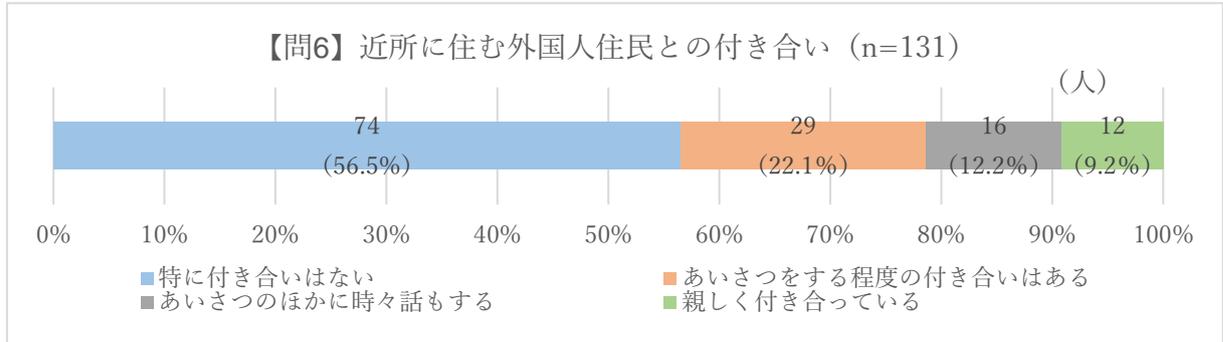
【問5】あなたの近所に外国人は住んでいますか。

「住んでいない」が 42.8%と最も多いが、「住んでいる」と回答した者も 33.6%あった。



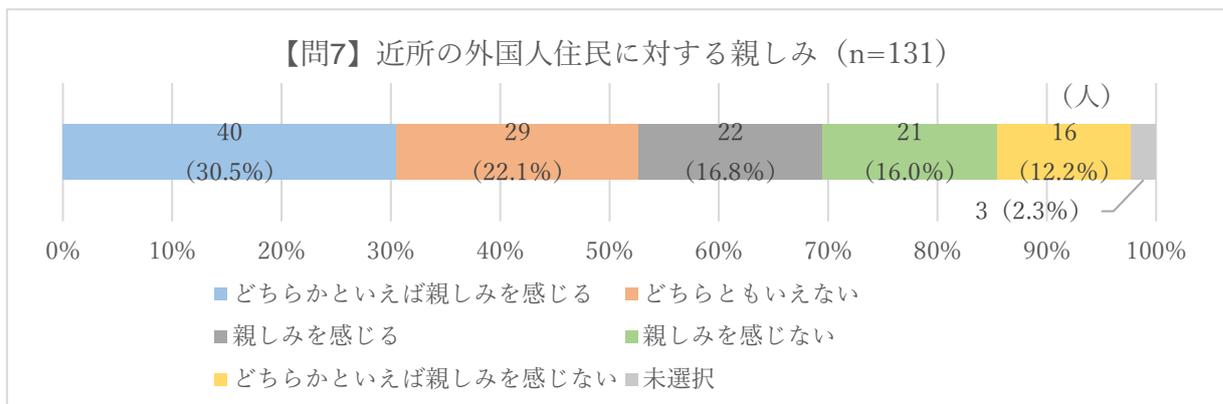
【問6】（問5で「1. 住んでいる」と答えた方）あなたは、近所の外国人住民と付き合いはありますか。

「特に付き合いはない」との回答が56.5%で最も多かった。「あいさつをする程度の付き合いはある」は22.1%、「あいさつのほかに時々話もする」は12.2%であった。「親しく付き合っている」は9.2%に留まった。



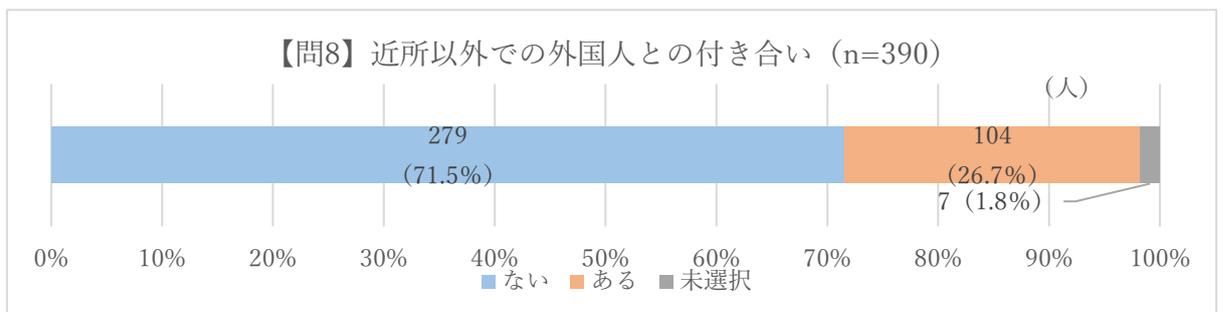
【問7】（問5で「1. 住んでいる」と答えた方）あなたは、近所の外国人住民をどのように感じていますか。

「どちらかといえば親しみを感じる」と回答した者が30.5%と最も多い。次いで、「どちらともいえない」が22.1%、「親しみを感じる」が16.8%、「親しみを感じない」が16.0%、「どちらかといえば親しみを感じない」が12.2%と続く。



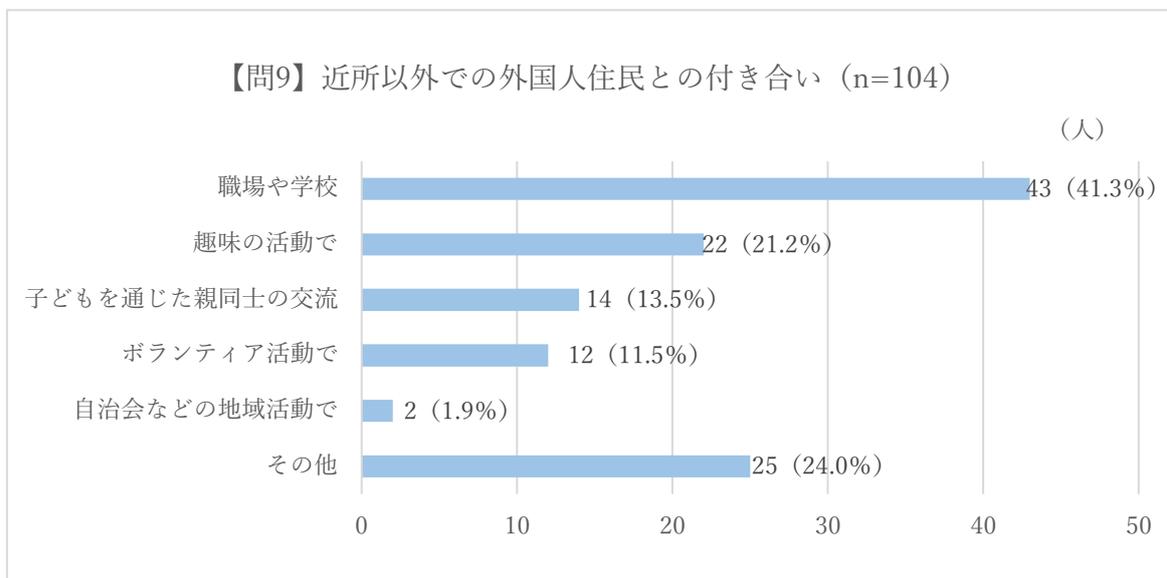
【問8】あなたは、近所以外で外国人住民と付き合いがありますか。

「ない」と回答した者が71.5%であり、「ある」と回答した26.7%を大幅に上回る。



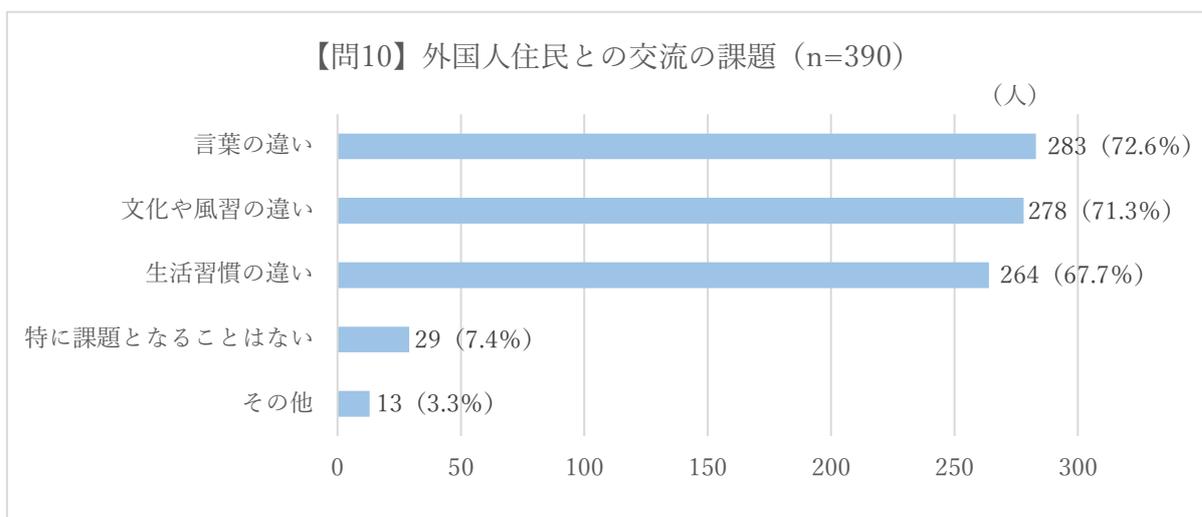
【問9】（問8で「1. ある」と答えた方）どのようなところで付き合いはありますか。あてはまるもの全てを教えてください。

どのようなところで付き合いがあるかについて、あてはまるもの全てで聞いたところ、「職場や学校」を挙げた者が41.3%と最も多い。次いで「趣味の活動」が21.2%、「子どもを通じた親同士の交流」が13.5%、「ボランティア活動で」が11.5%と続いた。



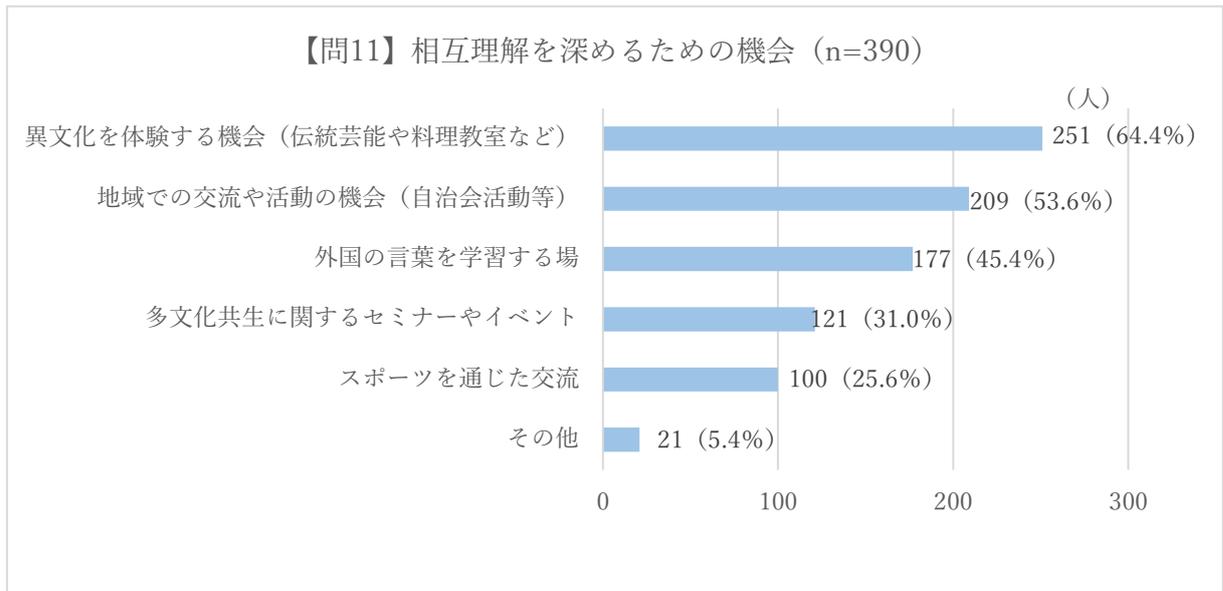
【問10】 外国人住民と交流するにあたり、これまでに課題となったこと、または交流するにあたり課題になると思われることはありますか。あてはまるもの全てを教えてください。

外国人住民と交流するにあたり、これまでに課題となったこと、または交流するにあたり課題になると思われることについて、複数回答可で聞いたところ、「言葉の違い」72.6%や「文化や習慣の違い」71.3%、「生活習慣の違い」67.7%が上位を占めた。一方、「特に課題となることはない」7.4%との回答もあった。



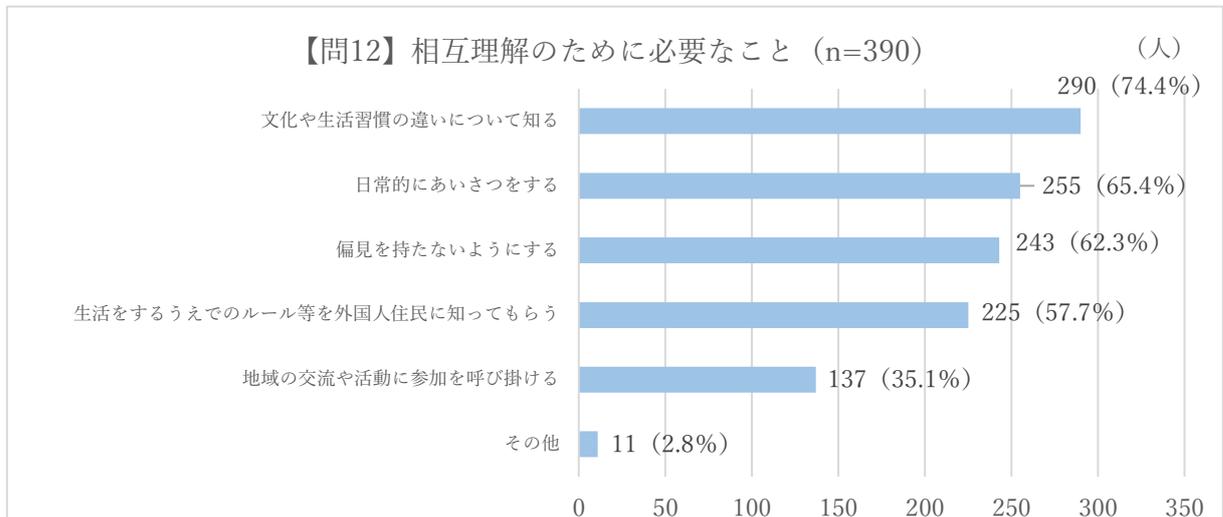
【問11】 外国人住民との相互理解を深めるために、あなたはどのような機会があれば良いと思いますか。あてはまるものを全てを答えてください。

外国人住民との相互理解を深めるために、どのような機会があれば良いと思うかについて、複数回答可で聞いたところ、「異文化を体験する機会(伝統芸能や料理教室など)」が64.4%と最も多い。次いで「地域での交流や活動の機会(自治会活動等)」が53.6%、「外国の言葉を学習する場」が45.4%、「多文化共生に関するセミナーやイベント」が31.0%と続く。



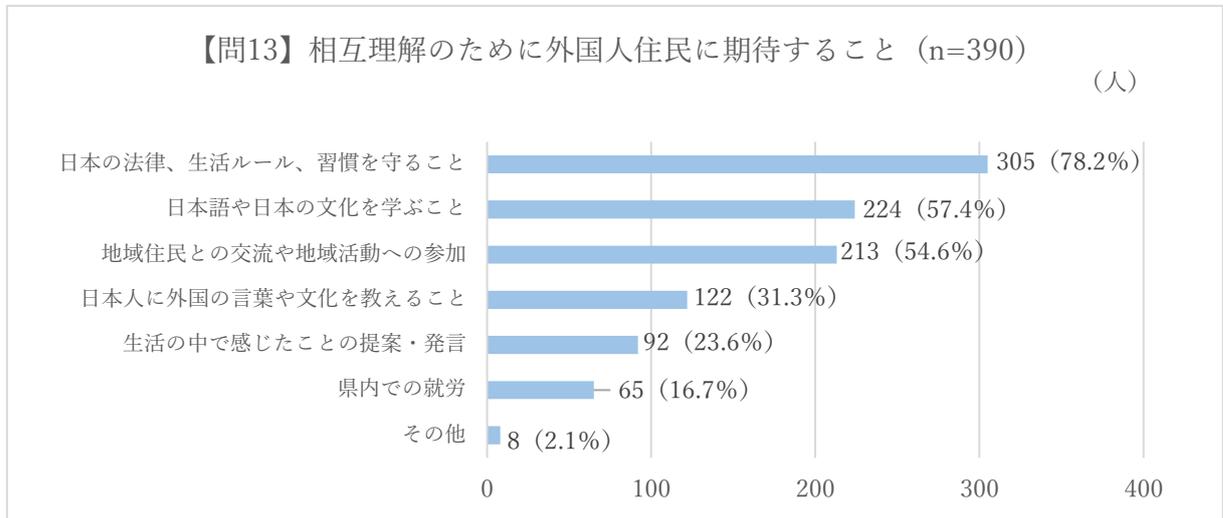
【問12】 外国人住民との相互理解を深めるために、あなたが必要だと思うことはなんですか。あてはまるものを全てを答えてください。

外国人住民との相互理解を深めるために、必要だと思うことについて、複数回答可で聞いたところ、「文化や生活習慣の違いについて知る」が74.4%と最も多かった。次いで、「日常的にあいさつをする」65.4%、「偏見をもたないようにする」62.3%など、日本人側からの働きかけを必要と考える回答が上位を占めた。また、「生活をするうえでのルール等を外国人住民に知ってもらおう」が57.7%、「地域の交流や活動に参加を呼び掛ける」が35.1%など外国人への働きかけを必要と考える回答も多かった。



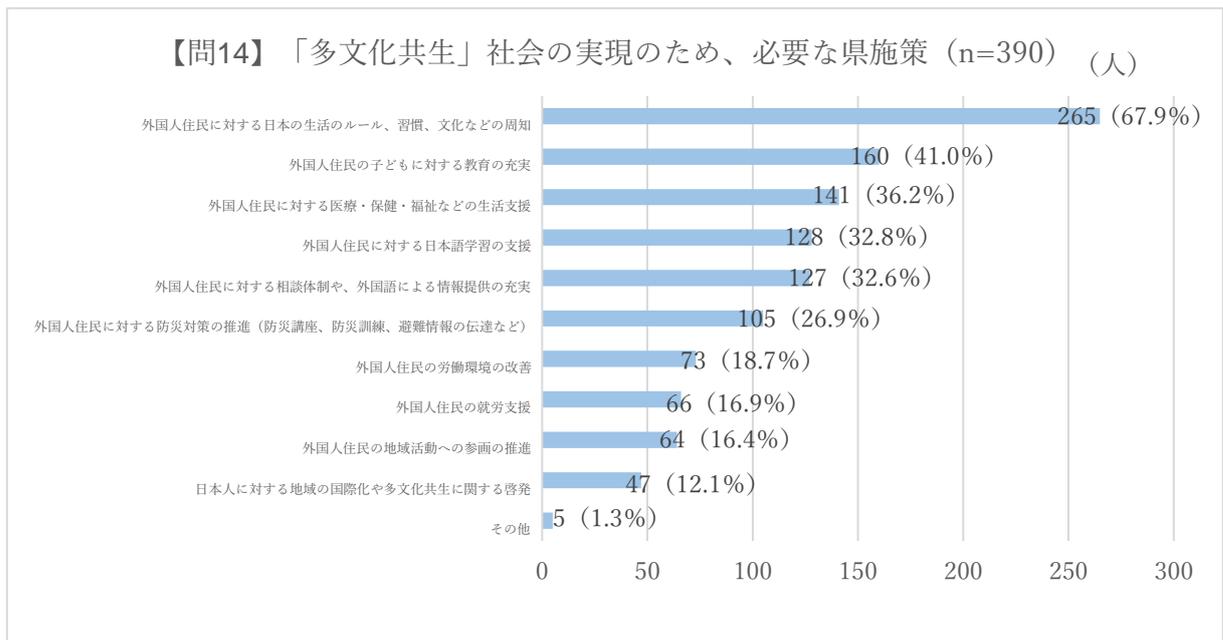
【問13】外国人住民との相互理解を深めるために、あなたは外国人住民に対してどのようなことを期待しますか。あてはまるもの全てを教えてください。

外国人住民との相互理解を深めるために、外国人住民に対して期待することについて、複数回答可で聞いたところ、「日本の法律、生活ルール、習慣を守る」が78.2%で最も多かった。次いで、「日本語や日本の文化を学ぶ」57.4%、「地域住民との交流や地域活動への参加」54.6%が上位を占めた。



【問14】外国人住民との「多文化共生」社会の実現のために、あなたが特に必要だと思う県の施策は何ですか。次の中から3つまで教えてください。

外国人住民との「多文化共生」社会の実現のために、特に必要だと思う県の施策について、3つまで聞いたところ、「外国人住民に対する日本の生活のルール、習慣、文化の違いなどを周知」が67.9%で最も多く、「外国人住民の子どもに対する教育の充実」41.0%、「外国人住民に対する医療・保健・福祉などの生活支援」36.2%、「外国人住民に対する日本語学習の支援」32.8%が続く。

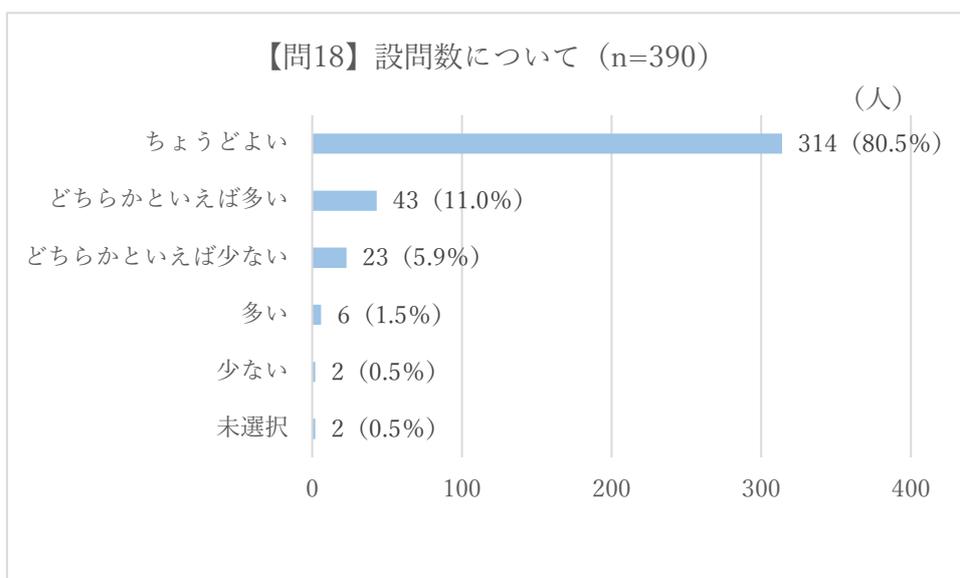


【問15】多文化共生に関する取り組みなどに関して、ご意見・ご要望などがございましたらご自由にお書きください。

(別添のとおり)

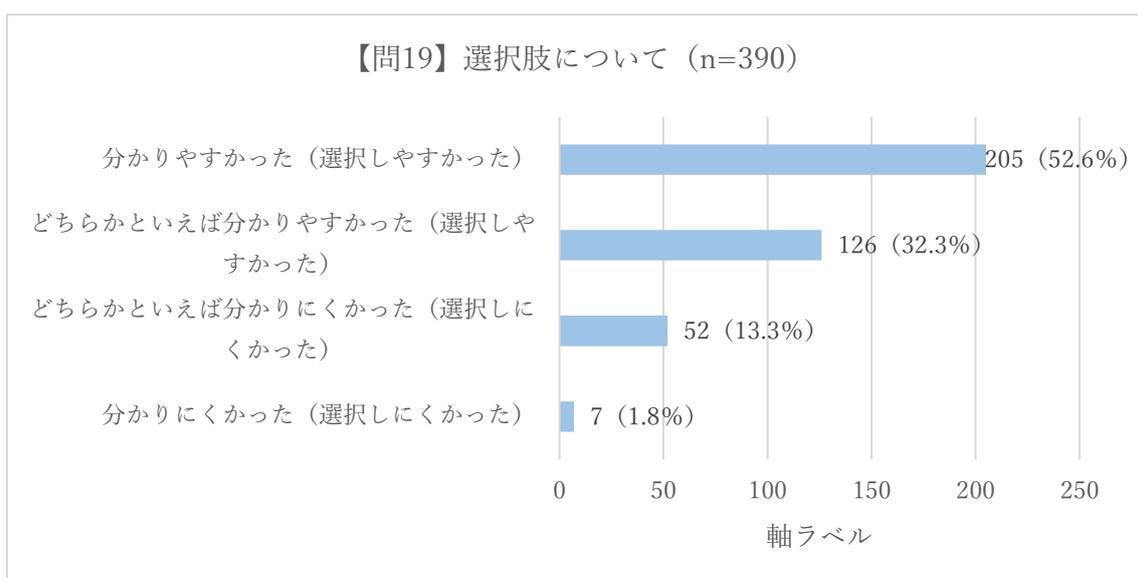
【問18】今回のアンケート設問数について、どのように感じましたか。

「ちょうどよい」が80.5%で大部分を占めた。



【問19】今回のアンケートの設問の選択肢について、どのように感じましたか。

「わかりやすかった(選択しやすかった)」52.6%、「どちらかといえばわかりやすかった(選択しやすかった)」32.3%であり、これらを合わせると84.9%が「選択しやすかった」と回答した。



第5部 参考資料

1. 集計結果

(1) 島根県外国人住民実態調査

□問1 あなたの性別はどれですか。(1つに○)

■性別	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 男性	205	36.2%
2 女性	346	61.1%
3 答えたくない	4	0.7%
無回答・不明	11	1.9%
合計	566	100.0%

□問2 あなたの年齢はどれですか。(1つに○)

■年齢	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 20～29才	153	27.0%
2 30～39才	186	32.9%
3 40～49才	127	22.4%
4 50～59才	69	12.2%
5 60～69才	18	3.2%
6 70才以上	8	1.4%
無回答・不明	5	0.9%
合計	566	100.0%

□問3 あなたの国籍・地域はどれですか。(1つに○)

■国籍・地域	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 ブラジル	191	33.7%
2 中国	115	20.3%
3 ベトナム	70	12.4%
4 フィリピン	70	12.4%
5 韓国、朝鮮	33	5.8%
6 インドネシア	8	1.4%
7 カンボジア	6	1.1%
8 アメリカ	9	1.6%
9 ミャンマー	2	0.4%
10 タイ	14	2.5%
11 バングラデシュ	8	1.4%
12 その他	38	6.7%
無回答・不明	2	0.4%
合計	566	100.0%

□問4 あなたの在留資格はどれですか。(一つに○)

■在留資格	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 留学	30	5.3%
2 技能実習	115	20.3%
3 特定技能	4	0.7%
4 技術、人文知識、国際業務	27	4.8%
5 日本人の配偶者等	109	19.3%
6 定住者	93	16.4%
7 特別永住者	23	4.1%
8 永住者	116	20.5%
9 その他	30	5.3%
無回答・不明	19	3.4%
合計	566	100.0%

□問5 あなたはどのくらい島根県に住んでいますか。(一つに○)

■島根県へのこれまでの居住期間	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 1か月～5か月	51	9.0%
2 6か月～11か月	73	12.9%
3 1年～2年	169	29.9%
4 3年～5年	99	17.5%
5 6年～9年	47	8.3%
6 10年～14年	40	7.1%
7 15年以上	83	14.7%
無回答・不明	4	0.7%
合計	566	100.0%

□問6 あなたはこれから、どのくらい島根県に住む予定ですか。(一つに○)

■これからの居住予定	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 1年未満	30	5.3%
2 1年～3年	136	24.0%
3 4年～5年	53	9.4%
4 ずっと島根県に住む	189	33.4%
5 島根県からは離れるが、日本にはずっと住む	15	2.7%
6 わからない	116	20.5%
7 その他	16	2.8%
無回答・不明	11	1.9%
合計	566	100.0%

□問7 あなたのお仕事は何ですか。(アルバイトを含む)

■職業	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 農業、林業	10	1.8%
2 漁業	11	1.9%
3 建設業	9	1.6%
4 製造業 (食料品)	37	6.5%
5 製造業 (繊維工業)	52	9.2%
6 製造業 (電子機器)	187	33.0%
7 製造業 (鉄鋼業)	27	4.8%
8 情報通信業	4	0.7%
9 運輸業	6	1.1%
10 販売、サービス (コンビニを含む)	16	2.8%
11 卸売業、小売業	4	0.7%
12 飲食サービス業、宿泊業	23	4.1%
13 教育、学習支援	26	4.6%
14 医療、福祉 (介護)	12	2.1%
15 その他	73	12.9%
16 無職 (主婦、主夫を含む)	47	8.3%
無回答・不明	22	3.9%
合計	566	100.0%

□問8 あなたの1か月あたりの平均的な収入は次のうちどれですか。(1つに○)

■1か月あたりの平均収入	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 10万円未満	108	19.1%
2 10万～19万円	206	36.4%
3 20万～29万円	163	28.8%
4 30万円以上	43	7.6%
無回答・不明	46	8.1%
合計	566	100.0%

□問9 あなたは母国に送金をしていますか。(1つに○)

■送金	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 している	321	56.7%
2 していない	212	37.5%
無回答・不明	33	5.8%
合計	566	100.0%

□問10 あなたは結婚していますか。(1つに○)

■結婚	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 している (結婚相手は日本国籍)	175	30.9%
2 している (結婚相手は日本国籍以外)	217	38.3%
3 していない	169	29.9%
無回答・不明	5	0.9%
合計	566	100.0%

□問11 あなたは今、誰と住んでいますか。(当てはまるもの全てに○をし、人数を書いてください)

■同居人	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 1人で住んでいる	105	18.6%
2 結婚相手	285	50.4%
3 子ども	169	29.9%
4 父親 (あなたの父親、結婚相手の父親)	26	4.6%
5 母親 (あなたの母親、結婚相手の母親)	39	6.9%
6 祖父 (あなたの祖父、結婚相手の祖父)	2	0.4%
7 祖母 (あなたの祖母、結婚相手の祖母)	2	0.4%
8 恋人	8	1.4%
9 兄弟姉妹 (あなたの兄弟姉妹、結婚相手の兄弟姉妹)	16	2.8%
10 孫	6	1.1%
11 友人、知人	87	15.4%
12 その他	52	9.2%
無回答・不明	9	1.6%
合計	806	142.4%

■同居人数	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 1人	33	5.8%
2 2人	87	15.4%
3 3人	80	14.1%
4 4人	63	11.1%
5 5人	33	5.8%
6 6人	9	1.6%
7 7人	5	0.9%
8 8人	2	0.4%
9 9人	7	1.2%
10 10人	2	0.4%
11 11人	2	0.4%
12 12人	1	0.2%
13 13人	4	0.7%
14 15人	1	0.2%
15 18人	2	0.4%
16 20人	2	0.4%
無回答・不明	233	41.2%
合計	566	100.0%

□問12 あなたの住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

■住まい	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 購入した一戸建て (マンションも含む)	89	15.7%
2 借りている一戸建て	31	5.5%
3 自分で借りている民間のアパート	82	14.5%
4 公営住宅	25	4.4%
5 会社の社宅や会社契約のアパート	288	50.9%
6 その他	46	8.1%
無回答・不明	5	0.9%
合計	566	100.0%

□問13 あなたは自治会 (町内会) に加入していますか。(1つに○)

■自治体への加入	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 加入している	124	21.9%
2 加入していない	326	57.6%
3 わからない	101	17.8%
無回答・不明	15	2.7%
合計	566	100.0%

□問14 あなたの家の近くに住んでいる日本人との交流はありますか。(1つに○)

■近所の日本人との交流	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 親しく交流している	72	12.7%
2 あいさつのほかに時々話もする	148	26.1%
3 あいさつをする程度	255	45.1%
4 特に交流はない	81	14.3%
無回答・不明	10	1.8%
合計	566	100.0%

□問15 あなたの家の近くに住んでいる日本人とどのような交流がしたいですか。(1つに○)

■近所の日本人とどのような交流がしたいか	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 積極的に交流したい	376	66.4%
2 特に交流したいとは思わない	114	20.1%
3 その他	42	7.4%
無回答・不明	34	6.0%
合計	566	100.0%

□問16 あなたは休みの日は何をして過ごすことが多いですか。(特にあてはまるもの3つに○)

■休日の過ごし方	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 家でテレビや映画を見る	207	36.6%
2 家でゲームやインターネットをする	135	23.9%
3 買い物に行く	335	59.2%
4 寝る	165	29.2%
5 家事をする	308	54.4%
6 趣味	140	24.7%
7 ドライブをする	93	16.4%
8 スポーツをする	54	9.5%
9 その他	79	14.0%
無回答・不明	5	0.9%
合計	1521	268.7%

□問17 あなたは日本語がどのくらいできますか。

□問17A 日本語を聞く(1つに○)

■日本語を聞く能力	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 テレビのニュース、ドラマを聞き取ることができる	159	28.1%
2 相手がゆっくり話せば聞き取ることができる	199	35.2%
3 単語だけ聞き取ることができる	147	26.0%
4 ほとんど聞き取ることができない	51	9.0%
無回答・不明	10	1.8%
合計	566	100.0%

□問17B 日本語を話す(1つに○)

■日本語を話す能力	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 自分の意見を問題なく話すことができる	144	25.4%
2 簡単な日常会話ができる	189	33.4%
3 決まったあいさつ、単語は言うことができる	184	32.5%
4 ほとんど話すことができない	40	7.1%
無回答・不明	9	1.6%
合計	566	100.0%

□問17C 日本語を読む(1つに○)

■日本語を読む能力	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 新聞や雑誌を読むことができる	92	16.3%
2 簡単な漢字まじりの言葉を読むことができる	157	27.7%
3 ひらがなまたはカタカナは読むことができる	206	36.4%
4 ほとんど読むことができない	96	17.0%
無回答・不明	15	2.7%
合計	566	100.0%

□問17D 日本語を書く(1つに○)

■日本語を書く能力	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 文章を問題なく書くことができる	70	12.4%
2 簡単な漢字まじりの文章を書くことができる	121	21.4%
3 ひらがなまたはカタカナは書くことができる	243	42.9%
4 ほとんど書くことができない	119	21.0%
無回答・不明	13	2.3%
合計	566	100.0%

□問18 あなたは今、日本語を勉強していますか。(1つに○)

■日本語を勉強しているか	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 はい	231	40.8%
2 いいえ	324	57.2%
無回答・不明	11	1.9%
合計	566	100.0%

□問18A 問18で「2. いいえ」の方にお聞きします。これから日本語を勉強したいですか。(1つに○)

■これから日本語を勉強したいか	全体 (n=324)	全体 (n=324)
1 勉強したい	96	29.6%
2 機会があれば勉強したい	140	43.2%
3 不自由していないので勉強する必要はない	59	18.2%
4 勉強したくない	4	1.2%
5 その他	8	2.5%
無回答・不明	17	5.2%
合計	324	100.0%

□問18B 問18 A. で「1. 勉強したい」、「2. 機会があれば勉強したい」の方にお聞きします。今、日本語を勉強したくない理由はなんですか。(1つに○)

■日本語を勉強したくない理由	全体 (n=236)	全体 (n=236)
1 忙しくて時間がない	79	33.5%
2 どうやって勉強したらいいかわからない	33	14.0%
3 近くに日本語教室がない	32	13.6%
4 日本語教室の時間が合わない	43	18.2%
5 日本語教室の教え方や内容、レベルが合わない	7	3.0%
6 その他	17	7.2%
無回答・不明	25	10.6%
合計	236	100.0%

□問19 あなたにはお子さんがいますか。(1つに○)

■子どもの有無	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 いる	323	57.1%
2 いない	231	40.8%
無回答・不明	12	2.1%
合計	566	100.0%

□問19A 問19で「1. いる」の方にお聞きします。お子さんの人数を教えてください。(1つに○)

■子どもの人数	全体 (n=323)	全体 (n=323)
1 1人	146	45.2%
2 2人	131	40.6%
3 3人	32	9.9%
4 4人以上	14	4.3%
無回答・不明	0	0.0%
合計	323	100.0%

□問19B (1人目) 問19で「1. いる」の方にお聞きします。お子さんのa. 年齢、b. 生まれた場所、c. 住んでいる場所、d. 学校・幼稚園・保育所に通っているかどうか、e. お子さんの日本語力を教えてください。

■a. 年齢	全体 (n=323)	全体 (n=323)
1 0~5才	57	17.6%
2 6~12才	81	25.1%
3 13~15才	40	12.4%
4 16~18才	24	7.4%
5 19才以上	90	27.9%
無回答・不明	31	9.6%
合計	323	100.0%

■b. 生まれた場所	全体 (n=323)	全体 (n=323)
1 日本	113	35.0%
2 母国	172	53.3%
3 その他の国	2	0.6%
無回答・不明	36	11.1%
合計	323	100.0%

■c. 住んでいる場所	全体 (n=323)	全体 (n=323)
1 一緒に住んでいる	133	41.2%
2 別の場所にいる	136	42.1%
無回答・不明	54	16.7%
合計	323	100.0%

■c2. 別の場所にいる場合の国		全体 (n=136)	全体 (n=136)
1	日本	36	26.5%
2	母国	83	61.0%
3	その他の国	3	2.2%
	無回答・不明	14	10.3%
	合計	136	100.0%

■d. 通学・通園		全体 (n=323)	全体 (n=323)
1	学校などに通っている	182	56.3%
2	通っていない	67	20.7%
	無回答・不明	74	22.9%
	合計	323	100.0%

■e. 日本語力		全体 (n=323)	全体 (n=323)
1	日本語の授業を理解できる	118	36.5%
2	日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない	26	8.0%
3	できない	86	26.6%
	無回答・不明	93	28.8%
	合計	323	100.0%

□問19B (2人目) 問19で「1. いる」の方にお聞きします。お子さんのa. 年齢、b. 生まれた場所、c. 住んでいる場所、d. 学校・幼稚園・保育所に通っているかどうか、e. お子さんの日本語力を教えてください。

■a. 年齢		全体 (n=177)	全体 (n=177)
1	0~5才	28	15.8%
2	6~12才	55	31.1%
3	13~15才	18	10.2%
4	16~18才	15	8.5%
5	19才以上	46	26.0%
	無回答・不明	15	8.5%
	合計	177	100.0%

■b. 生まれた場所		全体 (n=177)	全体 (n=177)
1	日本	73	41.2%
2	母国	79	44.6%
3	その他の国	1	0.6%
	無回答・不明	24	13.6%
	合計	177	100.0%

■c. 住んでいる場所		全体 (n=177)	全体 (n=177)
1	一緒に住んでいる	79	44.6%
2	別の場所にいる	65	36.7%
	無回答・不明	33	18.6%
	合計	177	100.0%

■c2. 別の場所にいる場合の国		全体 (n=65)	全体 (n=65)
1	日本	14	21.5%
2	母国	39	60.0%
3	その他の国	0	0.0%
	無回答・不明	12	18.5%
	合計	65	100.0%
■d. 通学・通園		全体 (n=177)	全体 (n=177)
1	学校などに通っている	108	61.0%
2	通っていない	42	23.7%
	無回答・不明	27	15.3%
	合計	177	100.0%
■e. 日本語力		全体 (n=177)	全体 (n=177)
1	日本語の授業を理解できる	62	35.0%
2	日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない	13	7.3%
3	できない	54	30.5%
	無回答・不明	48	27.1%
	合計	177	100.0%

□問19B (3人目) 問19で「1. いる」の方にお聞きします。お子さんのa. 年齢、b. 生まれた場所、c. 住んでいる場所、d. 学校・幼稚園・保育所に通っているかどうか、e. お子さんの日本語力を教えてください。

■a. 年齢		全体 (n=46)	全体 (n=46)
1	0~5才	5	10.9%
2	6~12才	13	28.3%
3	13~15才	4	8.7%
4	16~18才	3	6.5%
5	19才以上	18	39.1%
	無回答・不明	3	6.5%
	合計	46	100.0%
■b. 生まれた場所		全体 (n=46)	全体 (n=46)
1	日本	23	50.0%
2	母国	16	34.8%
3	その他の国	2	4.3%
	無回答・不明	5	10.9%
	合計	46	100.0%
■c. 住んでいる場所		全体 (n=46)	全体 (n=46)
1	一緒に住んでいる	19	41.3%
2	別の場所にいる	19	41.3%
	無回答・不明	8	17.4%
	合計	46	100.0%

■c2. 別の場所にいる場合の国		全体 (n=19)	全体 (n=19)
1	日本	6	31.6%
2	母国	11	57.9%
3	その他の国	1	5.3%
	無回答・不明	1	5.3%
	合計	19	100.0%

■d. 通学・通園		全体 (n=46)	全体 (n=46)
1	学校などに通っている	26	56.5%
2	通っていない	11	23.9%
	無回答・不明	9	19.6%
	合計	46	100.0%

■e. 日本語力		全体 (n=46)	全体 (n=46)
1	日本語の授業を理解できる	14	30.4%
2	日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない	3	6.5%
3	できない	15	32.6%
	無回答・不明	14	30.4%
	合計	46	100.0%

□問19C お子さんの教育で心配なことはありますか。(あてはまるもの全てに○)

■子どもの教育で心配なこと		全体 (n=323)	全体 (n=323)
1	日本語が十分にできず、授業についていけない	18	5.6%
2	子どもの不就学のこと	5	1.5%
3	子どもの不登校のこと	5	1.5%
4	子どもの進学のこと	45	13.9%
5	子どもが日本の文化・習慣になじめない	10	3.1%
6	子どもがいじめられている	44	13.6%
7	特にない	156	48.3%
8	その他	38	11.8%
	無回答・不明	66	20.4%
	合計	387	119.8%

□問20 日常生活や仕事で困ったことがある場合、どこに(または誰に)相談しますか。(特にあてはまるもの3つに○)

■困った時の相談相手		全体 (n=566)	全体 (n=566)
1	家族、親戚	364	64.3%
2	会社の人	277	48.9%
3	日本人の友人、知人	171	30.2%
4	日本人以外の友人、知人	206	36.4%
5	日本語教室やボランティア団体	22	3.9%
6	公の機関(役所の窓口、ハローワーク、領事館など)	63	11.1%
7	(公財)しまね国際センターの相談窓口や外国人地域サポーター	27	4.8%
8	相談する人がいない、または誰に相談したらいいかわからない	36	6.4%
9	その他	40	7.1%
	無回答・不明	10	1.8%
	合計	1216	214.8%

□問21 あなたが今、困っていることはなんですか。(特にあてはまるもの2つに○)

■今困っていること	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 会社や仕事のこと	94	16.6%
2 子どものこと(学校や進学、出産・育児など)や、家族のこと	69	12.2%
3 住居のこと	31	5.5%
4 病気やけがをしたときのこと	102	18.0%
5 日本の習慣や生活になじめない	32	5.7%
6 失業、または収入が少ない	79	14.0%
7 特にない	247	43.6%
8 その他	66	11.7%
無回答・不明	28	4.9%
合計	748	132.2%

□問22 健康保険に入っていますか。(1つに○)

■健康保険に入っているか	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 国民健康保険に入っている	214	37.8%
2 会社の保険に入っている	304	53.7%
3 留学保険、旅行保険、その他民間の保険に入っている	8	1.4%
4 入っていない	2	0.4%
5 わからない	9	1.6%
6 その他	5	0.9%
無回答・不明	24	4.2%
合計	566	100.0%

□問23 あなたや家族が病気になったとき、どうしますか。(1つに○)

■自分や家族が病気の際の行動	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 すぐに病院に行く	366	64.7%
2 薬を買って飲む	147	26.0%
3 がまんする	10	1.8%
4 その他	27	4.8%
無回答・不明	16	2.8%
合計	566	100.0%

□問24 病院での言葉の問題について、どのようにしていますか。(1つに○)

■病院での言葉の問題	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 日本語ができるので問題ない	205	36.2%
2 日本語のできる家族や友人を連れて行く	191	33.7%
3 通訳を雇って行く	68	12.0%
4 (公財) しまね国際センターのコミュニティ通訳ボランティアを頼む	13	2.3%
5 その他	65	11.5%
無回答・不明	24	4.2%
合計	566	100.0%

□問25 日常生活の中で、外国人であることを理由に、差別や人権侵害を受けたと感じたことがありますか。(1つに○)

■外国人差別や人権侵害を受けたことがあるか	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 ある	175	30.9%
2 ない	371	65.5%
無回答・不明	20	3.5%
合計	566	100.0%

□問25A 問25で「1. ある」の方にお聞きします。それほどどのような場面で感じましたか。(あてはまるもの全てに○)

■差別や人権侵害を受けたと感じた場面	全体 (n=175)	全体 (n=175)
1 会社の人の言葉や態度	92	52.6%
2 公の機関(役所の窓口、ハローワークなど)の職員の対応や言葉	21	12.0%
3 テレビや新聞などの報道	20	11.4%
4 近所の人言葉や態度	31	17.7%
5 家族や親戚の言葉や態度	7	4.0%
6 通りすがりの知らない人の言葉や態度	71	40.6%
7 福祉、年金、税金などの行政のしくみ自体	22	12.6%
8 その他	29	16.6%
無回答・不明	3	1.7%
合計	296	169.1%

□問26 あなたは日本で災害を経験したことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

■被災経験の有無	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 地震	331	58.5%
2 台風	216	38.2%
3 大雨、洪水	110	19.4%
4 特にない	186	32.9%
5 その他	16	2.8%
無回答・不明	9	1.6%
合計	868	153.4%

□問27 災害の時に避難する指定避難所を知っていますか。(1つに○)

■指定避難所を知っているか	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 知っている	299	52.8%
2 知らない	255	45.1%
無回答・不明	12	2.1%
合計	566	100.0%

□問28 災害のために備えていることはありますか。(あてはまるもの全てに○)

■災害のための備え	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 家の近く、職場、学校などで防災訓練に参加したことがある	182	32.2%
2 災害が起きた時の避難方法の手順などを確認している	119	21.0%
3 県や市町村の「防災メール」に登録している	44	7.8%
4 非常持ち出し品や水、食料などを準備している	113	20.0%
5 家族などとの連絡方法を決めている	81	14.3%
6 特に何もしていない	263	46.5%
7 その他	8	1.4%
無回答・不明	12	2.1%
合計	822	145.2%

□問29 災害に関する情報はどこから得ていますか。(あてはまるもの全てに○)

■災害関連情報の入手方法	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 テレビやラジオ	260	45.9%
2 インターネット	367	64.8%
3 学校や勤務先	193	34.1%
4 SNS (Facebook、Twitterなど)	222	39.2%
5 友人や知人の口コミ	222	39.2%
6 県や市町村のホームページや同報無線	83	14.7%
7 県や市町村の「防災メール」	65	11.5%
8 (公財) しまね国際センターの「多言語メールマガジン」	18	3.2%
9 その他	10	1.8%
無回答・不明	15	2.7%
合計	1455	257.1%

□問30 よく利用するメディアや情報は何か。(あてはまるもの全てに○)

■よく利用するメディアや情報	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 母国語のテレビ、ラジオ、雑誌など	217	38.3%
2 日本のテレビ、ラジオ、新聞	219	38.7%
3 日本人の友人からの情報	122	21.6%
4 日本人以外の友人からの情報	165	29.2%
5 会社からの情報	237	41.9%
6 県や市町村の広報誌やウェブサイトなど	56	9.9%
7 SNS (Facebook、Twitterなど)	317	56.0%
8 日本語教室からの情報	30	5.3%
9 NPOなどの団体からの情報	11	1.9%
10 その他	14	2.5%
無回答・不明	10	1.8%
合計	1398	247.0%

□問31 今どのような情報が必要ですか。(特にあてはまるもの3つに○)

■今必要な情報	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 就職、仕事	195	34.5%
2 医療、病院、福祉	224	39.6%
3 ゴミ出しなどの生活ルール、生活習慣	142	25.1%
4 行政サービス	97	17.1%
5 交通機関、交通手段	86	15.2%
6 学校、育児	80	14.1%
7 住宅	49	8.7%
8 防災	158	27.9%
9 地域のイベント	118	20.8%
10 日本語教室	142	25.1%
11 ボランティア団体の紹介	51	9.0%
12 その他	32	5.7%
無回答・不明	46	8.1%
合計	1420	250.9%

□問31A どのような方法(場所)だと情報を得やすいですか。(特にあてはまるもの3つに○)

■情報を得やすい方法や場所	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 県や市町村の窓口	79	14.0%
2 県や市町村のウェブサイトや広報誌	96	17.0%
3 公の施設(図書館、公民館など)	29	5.1%
4 出入国在留管理局	25	4.4%
5 学校や勤務先	287	50.7%
6 テレビ、ラジオ、新聞	213	37.6%
7 SNS (Facebook、Twitterなど)	319	56.4%
8 ポスター、リーフレット、チラシ	92	16.3%
9 メールマガジン	52	9.2%
10 ボランティア団体を通じて	17	3.0%
11 日本語教室	30	5.3%
12 (公財)しまね国際センター	33	5.8%
13 その他	21	3.7%
無回答・不明	23	4.1%
合計	1316	232.5%

□問31B どの言語での情報提供を望みますか。(1つに○)

■情報提供を望む言語	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 日本語(やさしい日本語を含む)	134	23.7%
2 母国語	345	61.0%
3 英語	45	8.0%
無回答・不明	42	7.4%
合計	566	100.0%

□問32 これからどのような行政サービスを望みますか。(特にあてはまるもの3つに○)

■これから望む行政サービス	全体 (n=566)	全体 (n=566)
1 行政情報の多言語化の充実	226	39.9%
2 行政の窓口における通訳の充実	186	32.9%
3 外国人の子どもに対する教育支援の充実	124	21.9%
4 生活相談窓口の充実	77	13.6%
5 日本人との交流窓口の充実	153	27.0%
6 防災対策などの多言語化の充実	127	22.4%
7 仕事の相談窓口の充実	113	20.0%
8 日本文化、生活習慣、日本語などを学ぶ機会の充実	277	48.9%
9 外国人が各国の文化や伝統芸能などを紹介する機会の充実	119	21.0%
10 その他	34	6.0%
無回答・不明	37	6.5%
合計	1473	260.2%

(2) 第5回しまねwebモニター調査

【問1】あなたは「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか。

問1	順位	問1の回答選択肢	回答数	回答率
	1	ある	238	61.0%
	2	ない	151	38.7%
	-	未選択	1	0.3%
	-	計	390	100.0%

【問2】あなたは、外国人住民と互いに認め合い、共に暮らす「多文化共生」社会を島根県で実現することについてどう思いますか。

問2	順位	問2の回答選択肢	回答数	回答率
	1	重要だと思う	154	39.5%
	2	どちらかといえば重要だと思う	143	36.7%
	3	どちらかといえば重要だと思わない	46	11.8%
	4	どちらともいえない	29	7.4%
	5	重要だと思わない	18	4.6%
	-	未選択	0	0.0%
	-	計	390	100.0%

【問3】あなたは外国人住民とどの程度関わりたいですか。

問3	順位	問3の回答選択肢	回答数	回答率
	1	2. どちらかといえば関わりたい	152	39.0%
	2	3. どちらかといえば関わらない	80	20.5%
	2	5. どちらともいえない	80	20.5%
	4	1. 積極的に関わりたい	65	16.7%
	5	4. 関わらない	13	3.3%
	-	未選択	0	0.0%
	-	計	390	100.0%

【問4】（問3で「1. 積極的に関わりたい」、「2. どちらかといえば関わりたい」と答えた方）

あなたは外国人住民とどのように関わりたいですか。次の中から3つまで答えてください。

問4	順位	問4の回答選択肢	回答数	回答率
	1	外国人住民から外国語を学びたい	139	64.1%
	2	外国人住民とともに、地域の活動やイベントを行いたい	109	50.2%
	3	外国人住民を支援する団体の活動、イベントに参加したい	79	36.4%
	4	外国人住民に日本語を教えたい	63	29.0%
	5	関わり方がわからない	22	10.1%
	-	その他	5	2.3%
	-	回答対象者数	217	-

【問5】あなたの近所に外国人は住んでいますか。

問5	順位	問5の回答選択肢	回答数	回答率
	1	2. 住んでいない	167	42.8%
	2	1. 住んでいる	131	33.6%
	3	3. 分からない	89	22.8%
	-	未選択	3	0.8%
	-	計	390	100.0%

【問6】（問5で「1. 住んでいる」と答えた方）

あなたは、近所の外国人住民と付き合いはありますか。

問6	順位	問6の回答選択肢	回答数	回答率
	1	特に付き合いはない	74	56.5%
	2	あいさつをする程度の付き合いはある	29	22.1%
	3	あいさつのほかに時々話もする	16	12.2%
	4	親しく付き合っている	12	9.2%
	-	未選択	0	0.0%
	-	計	131	100.0%

【問7】（問5で「1. 住んでいる」と答えた方）

あなたは、近所の外国人住民をどのように感じていますか。

問7	順位	問7の回答選択肢	回答数	回答率
	1	どちらかといえば親しみを感ずる	40	30.5%
	2	どちらともいえない	29	22.1%
	3	親しみを感ずる	22	16.8%
	4	親しみを感ずらない	21	16.0%
	5	どちらかといえば親しみを感ずらない	16	12.2%
	-	未選択	3	2.3%
	-	計	131	100.0%

【問8】あなたは、近所以外で外国人住民と付き合いがありますか。

問8	順位	問8の回答選択肢	回答数	回答率
	1	2. ない	279	71.5%
	2	1. ある	104	26.7%
	-	未選択	7	1.8%
	-	計	390	100.0%

【問9】（問8で「1. ある」と答えた方）

どのようなところで付き合いがありますか。あてはまるもの全てを答えてください。

問9	順位	問9の回答選択肢	回答数	回答率
	1	職場や学校	43	41.3%
	2	趣味の活動で	22	21.2%
	3	子どもを通じた親同士の交流	14	13.5%
	4	ボランティア活動で	12	11.5%
	5	自治会などの地域活動で	2	1.9%
	-	その他	25	24.0%
	-	回答対象者数	104	-

【問10】外国人住民と交流するにあたり、これまでに課題となったこと、または交流するにあたり課題になると思われることはありますか。あてはまるものを全てを教えてください。

問10	順位	問10の回答選択肢	回答数	回答率
	1	言葉の違い	283	72.6%
	2	文化や風習の違い	278	71.3%
	3	生活習慣の違い	264	67.7%
	4	特に課題となることはない	29	7.4%
	-	その他	13	3.3%
	-	回答対象者数	390	-

【問11】外国人住民との相互理解を深めるために、あなたはどのような機会があれば良いと思いますか。あてはまるものを全てを教えてください。

問11	順位	問11の回答選択肢	回答数	回答率
	1	異文化を体験する機会（伝統芸能や料理教室など）	251	64.4%
	2	地域での交流や活動の機会（自治会活動等）	209	53.6%
	3	外国の言葉を学習する場	177	45.4%
	4	多文化共生に関するセミナーやイベント	121	31.0%
	5	スポーツを通じた交流	100	25.6%
	-	その他	21	5.4%
	-	回答対象者数	390	-

【問12】外国人住民との相互理解を深めるために、あなたが必要だと思うことはなんですか。あてはまるものを全てを教えてください。

問12	順位	問12の回答選択肢	回答数	回答率
	1	文化や生活習慣の違いについて知る	290	74.4%
	2	日常的にあいさつをする	255	65.4%
	3	偏見を持たないようにする	243	62.3%
	4	生活をするうえでのルール等を外国人住民に知ってもらう	225	57.7%
	5	地域の交流や活動に参加を呼び掛ける	137	35.1%
	-	その他	11	2.8%
	-	回答対象者数	390	-

【問13】外国人住民との相互理解を深めるために、あなたは外国人住民に対してどのようなことを期待しますか。あてはまるものを全てを教えてください。

問13	順位	問13の回答選択肢	回答数	回答率
	1	日本の法律、生活ルール、習慣を守ること	305	78.2%
	2	日本語や日本の文化を学ぶこと	224	57.4%
	3	地域住民との交流や地域活動への参加	213	54.6%
	4	日本人に外国の言葉や文化を教えること	122	31.3%
	5	生活の中で感じたことの提案・発言	92	23.6%
	6	県内での就労	65	16.7%
	-	その他	8	2.1%
	-	回答対象者数	390	-

【問14】外国人住民との「多文化共生」社会の実現のために、あなたが特に必要だと思う県の施策は何ですか。
次の中から3つまで答えてください。

問14	順位	問14の回答選択肢	回答数	回答率
	1	外国人住民に対する日本の生活のルール、習慣、文化などの周知	265	67.9%
	2	外国人住民の子どもに対する教育の充実	160	41.0%
	3	外国人住民に対する医療・保健・福祉などの生活支援	141	36.2%
	4	外国人住民に対する日本語学習の支援	128	32.8%
	5	外国人住民に対する相談体制や、外国語による情報提供の充実	127	32.6%
	6	外国人住民に対する防災対策の推進（防災講座、防災訓練、避難情報の伝達など）	105	26.9%
	7	外国人住民の労働環境の改善	73	18.7%
	8	外国人住民の就労支援	66	16.9%
	9	外国人住民の地域活動への参画の推進	64	16.4%
	10	日本人に対する地域の国際化や多文化共生に関する啓発	47	12.1%
	-	その他	5	1.3%
	-	回答対象者数	390	-

【問15】多文化共生に関する取り組みなどに関して、ご意見・ご要望などがございましたらご自由にお書きください。

問15	問15の回答自由記述欄	回答数	回答率
	別添のとおり		

【問16】年齢

年齢について

問16	順位	年齢について	回答数	回答率
	1	50代	94	24.1%
	2	40代	92	23.6%
	3	30代	78	20.0%
	4	60代	58	14.9%
	5	70代以上	44	11.3%
	6	20代以下	24	6.2%
	-	未選択	0	0.0%
	-	計	390	100.0%

【問17】 地域

地域について

問17	順位	地域について	回答数	回答率
	1	松江市	174	44.6%
	2	出雲市	83	21.3%
	3	浜田市	29	7.4%
	4	益田市	19	4.9%
	5	大田市	18	4.6%
	6	安来市	14	3.6%
	7	江津市	13	3.3%
	8	雲南市	9	2.3%
	9	津和野町	5	1.3%
	9	吉賀町	5	1.3%
	9	隠岐の島町	5	1.3%
	9	川本町	5	1.3%
	13	邑南町	3	0.8%
	13	西ノ島町	3	0.8%
	15	美郷町	2	0.5%
	15	奥出雲町	2	0.5%
	17	飯南町	1	0.3%
	18	海士町	0	0.0%
	18	知夫村	0	0.0%
	-	未選択	0	0.0%
	-	計	390	100.0%

【問18】 今回のアンケートの設問数について、どのように感じましたか。

設問数について

問18	順位	設問数について	回答数	回答率
	1	ちょうどよい	314	80.5%
	2	どちらかといえば多い	43	11.0%
	3	どちらかといえば少ない	23	5.9%
	4	多い	6	1.5%
	5	少ない	2	0.5%
	-	未選択	2	0.5%
	-	計	390	100.0%

【問19】 今回のアンケートの設問の選択肢について、どのように感じましたか。

選択肢について

問19	順位	選択肢について	回答数	回答率
	1	分かりやすかった（選択しやすかった）	205	52.6%
	2	どちらかといえば分かりやすかった（選択しやすかった）	126	32.3%
	3	どちらかといえば分かりにくかった（選択しにくかった）	52	13.3%
	4	分かりにくかった（選択しにくかった）	7	1.8%
	-	未選択	0	0.0%
	-	計	390	100.0%

2. 調査票

(1) 島根県外国人住民実態調査

しまねけんがいこくじんじゅうみん あんけーとちょうさ 島根県外国人住民アンケート調査

ちょうさひょう 〔調査票〕

ねん がつ
2019年5月

しまねけんかんきょうせいかつぶぶんかこくさいか
島根県環境生活部文化国際課

あんけーとこたかた アンケートの答え方

- アンケートを受け取った本人（封筒に名前が書いてある人）が答えてください。
アンケートに名前を書く必要はありません。
- アンケートは、日本語と母国語（または英語）の2種類が入っています。分かりやすい方で答えてください。
- 答えるときは、あてはまる番号に○をつけてください。○の数は、質問の最後に「（1つに○）」、「（あてはまるもの全てに○）」などと指定しています。
数字や文字で答える質問もあります。
- 文字で答えるときは、あなたが書きやすい言葉で書いてください。
- 答えられない質問や答えたくない質問には、無理に答えなくてもいいです。
- 答えは、調査の目的以外では使いません。あなたや家族に迷惑がかかることはありません。安心して答えてください。
- アンケートは、同封の返信用封筒を使って、6月21日（金）までにポストに入れてください（切手はいりません）。

※この調査は島根県内全ての市町村と共同で行っています。

とあわせさき 【問い合わせ先】

しまねけんかんきょうせいかつぶぶんかこくさいか たんとう
島根県環境生活部文化国際課 担当：○○

TEL) 0852-22-5020 FAX) 0852-22-6412

E-mail) bunka-kokusai@pref.shimane.lg.jp

【あなた自身のことについて】

問1 あなたの性別はどれですか。(1つに○)

1. 男	2. 女	3. 答えたくない
------	------	-----------

問2 あなたの年齢はどれですか。(1つに○)

1. 20～29才
2. 30～39才
3. 40～49才
4. 50～59才
5. 60～69才
6. 70才以上

問3 あなたの国籍・地域はどれですか。(1つに○)

(在留カード・特別永住者証明書に書いてある国籍・地域を教えてください)

1. ブラジル	7. カンボジア
2. 中国	8. アメリカ
3. ベトナム	9. ミャンマー
4. フィリピン	10. タイ
5. 韓国、朝鮮	11. バングラデシュ
6. インドネシア	12. その他 ()

※島根県の在留外国人数の多い順に記載しています

問4 あなたの在留資格はどれですか。(1つに○)

1. 留学
2. 技能実習
3. 特定技能
4. 技術、人文知識、国際業務
5. 日本人の配偶者等
6. 定住者
7. 特別永住者
8. 永住者
9. その他 ()

問5 あなたはどのくらい島根県に住んでいますか。(1つに○)

1. 1か月～5か月
2. 6か月～11か月
3. 1年～2年
4. 3年～5年
5. 6年～9年
6. 10年～14年
7. 15年以上

問6 あなたはこれから、どのくらい島根県に住む予定ですか。(1つに○)

1. 1年未満
2. 1年～3年
3. 4年～5年
4. ずっと島根県に住む
5. 島根県からは離れるが、日本にはずっと住む
6. わからない
7. その他 ()

問7 あなたのお仕事は何ですか。(アルバイトを含む)

1. 農業、林業
2. 漁業
3. 建設業
4. 製造業 (食料品)
5. 製造業 (繊維工業)
6. 製造業 (電子機器)
7. 製造業 (鉄鋼業)
8. 情報通信業
9. 運輸業
10. 販売、サービス (コンビニを含む)
11. 卸売業、小売業
12. 飲食サービス業、宿泊業
13. 教育、学習支援
14. 医療、福祉 (介護)
15. その他 ()
16. 無職 (主婦、主夫を含む)

問8 あなたの1か月あたりの平均的な収入は次のうちどれですか。(1つに○)
(アルバイトを含む)

1. 10万円未満
2. 10万～19万円
3. 20万～29万円
4. 30万円以上

問9 あなたは母国に送金をしていますか。(1つに○)

1. している (1年間で () 万円くらい)
2. していない

問10 あなたは結婚していますか。(1つに○)

1. している (結婚相手は日本国籍)
2. している (結婚相手は日本国籍以外)
3. していない

問11 あなたは今、誰と住んでいますか。(あてはまるもの全てに○をし、人数を書いてください)

1. 1人で住んでいる
2. 結婚相手
3. 子ども
4. 父親 (あなたの父親、結婚相手の父親)
5. 母親 (あなたの母親、結婚相手の母親)
6. 祖父 (あなたの祖父、結婚相手の祖父)
7. 祖母 (あなたの祖母、結婚相手の祖母)
8. 恋人
9. 兄弟姉妹 (あなたの兄弟姉妹、結婚相手の兄弟姉妹)
10. 孫
11. 友人、知人
12. その他 ()

自分をあわせて全員で
()人

問12 あなたのお住まいは次のどれですか。(1つに○)

1. 購入した一戸建て (マンションも含む)
2. 借りている一戸建て
3. 自分で借りている民間のアパート
4. 公営住宅
5. 会社の社宅や会社契約のアパート
6. その他 ()

問13 あなたは自治会 (町内会) に加入していますか。(1つに○)

1. 加入している
2. 加入していない
3. わからない

問14 あなたの家の近くに住んでいる日本人との交流はありますか。(1つに○)

1. 親しく交流している
2. あいさつのほかに時々話もする
3. あいさつをする程度
4. 特に交流はない

問15 あなたの家の近くに住んでいる日本人とどのような交流がしたいですか。(1つに○)

1. 積極的に交流したい
2. 特に交流したいとは思わない
3. その他 ()

問16 あなたは休みの日は何をして過ごすことが多いですか。(特にあてはまるもの3つに○)

1. 家でテレビや映画を見る
2. 家でゲームやインターネットをする
3. 買い物に行く
4. 寝る
5. 家事をする
6. 趣味
7. ドライブをする
8. スポーツをする
9. その他 ()

【日本語について】

問17 あなたは日本語がどのくらいできますか。

A. 日本語を聞く (1つに○)

1. テレビのニュース、ドラマを聞き取ることができる
2. 相手がゆっくり話せば聞き取ることができる
3. 単語だけ聞き取ることができる
4. ほとんど聞き取ることができない

B. 日本語を話す (1つに○)

1. 自分の意見を問題なく話すことができる
2. 簡単な日常会話ができる
3. 決まったあいさつ、単語は言うことができる
4. ほとんど話すことができない

C. 日本語を読む (1つに○)

1. 新聞や雑誌を読むことができる
2. 簡単な漢字まじりの言葉を読むことができる
3. ひらがなまたはカタカナは読むことができる
4. ほとんど読むことができない

D. 日本語を書く (1つに○)

1. 文章を問題なく書くことができる
2. 簡単な漢字まじりの文章を書くことができる
3. ひらがなまたはカタカナは書くことができる
4. ほとんど書くことができない

問18 あなたは今、日本語を勉強していますか。(1つに○)

1. はい (問19へ進んでください)	2. いいえ
---------------------	--------

A. 問18で「2. いいえ」の方にお聞きします。

これから日本語を勉強したいですか。(1つに○)

1. 勉強したい
2. 機会があれば勉強したい
3. 不自由していないので勉強する必要はない (問19へ進んでください)
4. 勉強したくない (問19へ進んでください)
5. その他 () (問19へ進んでください)

B. 問18 A. で「1. 勉強したい」、「2. 機会があれば勉強したい」の方にお聞きします。

今、日本語を勉強していない理由は何ですか。(1つに○)

1. 忙しくて時間がない
2. どうやって勉強したらいいかわからない
3. 近くに日本語教室がない
4. 日本語教室の時間が合わない
5. 日本語教室の教え方や内容、レベルが合わない
6. その他 ()

【お子さん(子ども)について】

問19 あなたにはお子さんがいますか。(1つに○)

1. いる	2. いない (問20へ進んでください)
-------	----------------------

A. 問19で「1. いる」の方にお聞きします。

お子さんの人数を教えてください。(1つに○)

1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人以上
-------	-------	-------	---------

B. 問19で「1. いる」の方にお聞きします。

お子さんの a. 年齢、 b. 生まれた場所、 c. 住んでいる場所、

d. 学校・幼稚園・保育所に通っているかどうか、 e. お子さんの日本語力を教えてください。

(お子さんが4人以上おられる場合は、上の3人についてお答えください)

1 人目 ひとりめ	<p>a. 1. 0～5才 2. 6～12才 3. 13～15才 4. 16～18才 5. 19才以上</p> <p>b. 1. 日本 2. 母国 3. その他の国</p> <p>c. 1. 一緒に住んでいる 2. 別の場所にいる (日本・母国・その他の国)</p> <p>d. 1. 学校などに通っている 2. 通っていない</p> <p>e. 1. 日本語の授業を理解できる 2. 日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない 3. できない</p>
2 人目 ふたりめ	<p>a. 1. 0～5才 2. 6～12才 3. 13～15才 4. 16～18才 5. 19才以上</p> <p>b. 1. 日本 2. 母国 3. その他の国</p> <p>c. 1. 一緒に住んでいる 2. 別の場所にいる (日本・母国・その他の国)</p> <p>d. 1. 学校などに通っている 2. 通っていない</p> <p>e. 1. 日本語の授業を理解できる 2. 日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない 3. できない</p>
3 人目 さんにんめ	<p>a. 1. 0～5才 2. 6～12才 3. 13～15才 4. 16～18才 5. 19才以上</p> <p>b. 1. 日本 2. 母国 3. その他の国</p> <p>c. 1. 一緒に住んでいる 2. 別の場所にいる (日本・母国・その他の国)</p> <p>d. 1. 学校などに通っている 2. 通っていない</p> <p>e. 1. 日本語の授業を理解できる 2. 日本語の授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない 3. できない</p>

C. お子さんの教育で心配なことはありますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 日本語が十分にできず、授業についていけない
2. 子どもの不就学のこと
3. 子どもの不登校のこと
4. 子どもの進学のこと
5. 子どもが日本の文化・習慣になじめない
6. 子どもがいじめられている
7. 特にない
8. その他 ()

【あなたの生活について】

問20 日常生活や仕事で困ったことがある場合、どこに（または誰に）相談しますか。
(特にあてはまるもの3つに○)

1. 家族、親戚
2. 会社の人
3. 日本人の友人、知人
4. 日本人以外の友人、知人
5. 日本語教室やボランティア団体
6. 公の機関（役所の窓口、ハローワーク、領事館など）
7. (公財) しまね国際センターの相談窓口や外国人地域サポーター
8. 相談する人がいない、または誰に相談したらいいかわからない
9. その他 ()

問21 あなたが今、困っていることはなんですか。(特にあてはまるもの2つに○)

1. 会社や仕事のこと
2. 子どものこと（学校や進学、出産・育児など）や、家族のこと
3. 住居のこと
4. 病気やけがをしたときのこと
5. 日本の習慣や生活になじめない
6. 失業、または収入が少ない
7. 特にない
8. その他 ()

問22 健康保険に入っていますか。(1つに○)

1. 国民健康保険に入っている
2. 会社の保険に入っている
3. 留学保険、旅行保険、その他民間の保険に入っている
4. 入っていない
5. わからない
6. その他 ()

問23 あなたや家族が病気になったとき、どうしますか。(1つに○)

1. すぐに病院に行く
2. 薬を買って飲む
3. がまんする（理由：)
4. その他 ()

問24 病院での言葉の問題について、どのようにしていますか。(1つに○)

1. 日本語ができるので問題ない
2. 日本語のできる家族や友人を連れて行く
3. 通訳を雇って行く
4. (公財)しまね国際センターのコミュニティ通訳ボランティアを頼む
5. その他 ()

問25 日常生活の中で、外国人であることを理由に、差別や人権侵害を受けたと感じたことがありますか。(1つに○)

- | | |
|-------|---------------------|
| 1. ある | 2. ない (問26へ進んでください) |
|-------|---------------------|

A. 問25で「1. ある」の方にお聞きします。

それはどのような場面で感じましたか。(あてはまるもの全てに○)

1. 会社の人の言葉や態度
2. 公の機関(役所の窓口、ハローワークなど)の職員の対応や言葉
3. テレビや新聞などの報道
4. 近所の人言葉や態度
5. 家族や親戚の言葉や態度
6. 通りすがりの知らない人の言葉や態度
7. 福祉、年金、税金などの行政のしくみ自体
8. その他 ()

【防災について】

問26 あなたは日本で災害を経験したことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 地震
2. 台風
3. 大雨、洪水
4. 特にない
5. その他 ()

問27 災害の時に避難する指定避難所を知っていますか。(1つに○)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問28 災害のために備えていることはありますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 家の近く、職場、学校などで防災訓練に参加したことがある
2. 災害が起きた時の避難方法の手順などを確認している
3. 県や市町村の「防災メール」に登録している
4. 非常持ち出し品や水、食料などを準備している
5. 家族などとの連絡方法を決めている
6. 特に何もしていない
7. その他 ()

問29 災害に関する情報はどこから得ていますか。(あてはまるもの全てに○)

1. テレビやラジオ
2. インターネット
3. 学校や勤務先
4. SNS (Facebook、Twitter など)
5. 友人や知人の口コミ
6. 県や市町村のホームページや同報無線
7. 県や市町村の「防災メール」
8. (公財) しまね国際センターの「多言語メールマガジン」
9. その他 ()

【行政からの情報やサービスについて】

問30 よく利用するメディアや情報は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

1. 母国語のテレビ、ラジオ、雑誌など
2. 日本のテレビ、ラジオ、新聞
3. 日本人の友人からの情報
4. 日本人以外の友人からの情報
5. 会社からの情報
6. 県や市町村の広報誌やウェブサイトなど
7. SNS (Facebook、Twitter など)
8. 日本語教室からの情報
9. NPO などの団体からの情報
10. その他 ()

問31 今のような情報が必要ですか。(特にあてはまるもの3つに○)

1. 就職、仕事
2. 医療、病院、福祉
3. ゴミ出しなどの生活ルール、生活習慣
4. 行政サービス
5. 交通機関、交通手段
6. 学校、育児
7. 住宅
8. 防災
9. 地域のイベント
10. 日本語教室
11. ボランティア団体の紹介
12. その他 ()

A. どのような方法（場所）だと情報を得やすいですか。（特にあてはまるもの3つに○）

1. 県や市町村の窓口
2. 県や市町村のウェブサイトや広報誌
3. 公の施設（図書館、公民館など）
4. 出入国在留管理局
5. 学校や勤務先
6. テレビ、ラジオ、新聞
7. SNS（Facebook、Twitter など）
8. ポスター、リーフレット、チラシ
9. メールマガジン
10. ボランティア団体を通じて
11. 日本語教室
12. （公財）しまね国際センター
13. その他（)

B. どの言語での情報提供を望みますか。（1つに○）

- | | | |
|--------------------|--------|-------|
| 1. 日本語（やさしい日本語を含む） | 2. 母国語 | 3. 英語 |
|--------------------|--------|-------|

問32 これからどのような行政サービスを望みますか。（あてはまるもの3つに○）

1. 行政情報の多言語化の充実
2. 行政の窓口における通訳の充実
3. 外国人の子どもに対する教育支援の充実
4. 生活相談窓口の充実
5. 日本人との交流窓口の充実
6. 防災対策などの多言語化の充実
7. 仕事の相談窓口の充実
8. 日本文化、生活習慣、日本語などを学ぶ機会の充実
9. 外国人が各国の文化や伝統芸能を紹介する機会の充実
10. その他（)

じゆう いけん
【自由意見】

とひ 問33 ぎょうせい けん しちようそん かいぜん せいかつ なか こま いけん
行政（県や市町村）に改善してほしいこと、生活の中で困っていること、ご意見などが
ありましたらご自由にお書きください。

これで質問は終わりです。ご協力ありがとうございます。

(2) 第5回しまねwebモニター調査

令和元年度第5回しまねwebモニターアンケート テーマ：多文化共生について

県内における外国人住民数は、平成30年12月末時点で8,875人（前年比で約1,200人増）となっています。平成31年4月からは、新たな在留資格も創設等され、今後もさらに増加することが見込まれています。

こうした中、島根県では、国籍や民族の違いを超え日本人住民と外国人住民とが共に支え合う「多文化共生」の地域づくりを推進しています。

今後の多文化共生施策推進の参考とするため、皆様のご意見をお聞かせください。

【お願い】

○一つ選択式の設問は、あらかじめ一番上の選択肢（「未選択」）にチェックが入っています。

○設問の答えとして、お選びいただく選択肢の左端の○印をクリックしていただくと、チェックが移動します。

○アンケート回答中にリンクボタンをクリックしリンク先へ移動すると、これまで回答した内容が消去されます。リンクボタンをクリックされる際は、リンクボタン上で右クリックし「新しいウインドウで開く」を選択し、アンケート画面とは別の画面でリンク先をご覧ください。

○アンケートの回答が終了しましたら、アンケート最後の【送信】ボタンを押してください。画面が内容確認画面に移動します。

はじめに

しまねwebモニターID（半角数字7ケタ）の入力をお願いします。※パスワード（英字）ではなく、7ケタの半角数字を入力してください。

モニターの皆様が、年間を通じて回答をいただいた回数を集計し、年度末に記念品をお送りする際に使用します。個人毎の回答と関連づけるものではありません。

ID [必須] _____

次にご自身のメールアドレスを入力してください。

メールアドレスは、アンケートの回答を受信したことをお知らせするために使用いたします。

アンケート回答受信のお知らせが不要な方は入力されなくて結構です。

メールアドレス _____

今回のテーマについて、下記の設問にお答えください

【問1】あなたは「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか。

「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化を認め合い、地域社会の一員として、共に暮らしていくことを意味します。

（問1の回答選択肢）

ある

ない

【問2】あなたは、外国人住民と互いに認め合い、共に暮らす「多文化共生」社会を島根県で実現することについてどう思いますか。

(問2の回答選択肢)

- 重要だと思う
- どちらかといえば重要だと思う
- どちらかといえば重要だと思わない
- 重要だと思わない
- どちらともいえない

【問3】あなたは外国人住民とどの程度関わりたいですか。

(問3の回答選択肢)

- 1. 積極的に関わりたい
- 2. どちらかといえば関わりたい
- 3. どちらかといえば関わりたくない
- 4. 関わりたくない
- 5. どちらともいえない

【問4】(問3で「1. 積極的に関わりたい」、「2. どちらかといえば関わりたい」と答えた方)あなたは外国人住民とどのように関わりたいですか。次の中から3つまで答えてください。

(問4の回答選択肢)

- 外国人住民から外国語を学びたい
- 外国人住民に日本語を教えたい
- 外国人住民を支援する団体の活動、イベントに参加したい
- 外国人住民とともに、地域の活動やイベントを行いたい
- 関わり方がわからない
- その他(具体的に)

【問5】あなたの近所に外国人は住んでいますか。

(問5の回答選択肢)

- 1. 住んでいる
- 2. 住んでいない
- 3. 分からない

【問6】(問5で「1. 住んでいる」と答えた方)

あなたは、近所の外国人住民と付き合いはありますか。

(問6の回答選択肢)

- 親しく付き合っている
- あいさつのほかに時々話もする
- あいさつをする程度の付き合いはある
- 特に付き合いはない

【問7】(問5で「1. 住んでいる」と答えた方)

あなたは、近所の外国人住民をどのように感じていますか。

(問7の回答選択肢)

- 親しみを感じる
- どちらかといえば親しみを感じる
- どちらかといえば親しみを感じない
- 親しみを感じない
- どちらともいえない

【問8】あなたは、近所以外で外国人住民と付き合いがありますか。

(問8の回答選択肢)

- 1. ある
- 2. ない

【問9】(問8で「1. ある」と答えた方)

どのようなところで付き合いがありますか。あてはまるもの全てを教えてください。

(問9の回答選択肢)

- 職場や学校
- 子どもを通じた親同士の交流
- 趣味の活動で
- ボランティア活動で
- 自治会などの地域活動で
- その他(具体的に)

【問10】外国人住民と交流するにあたり、これまでに課題となったこと、または交流するにあたり課題になると思われることはありますか。あてはまるもの全てを教えてください。

(問10の回答選択肢)

- 言葉の違い
- 文化や風習の違い
- 生活習慣の違い
- 特に課題となることはない
- その他(具体的に)

【問11】外国人住民との相互理解を深めるために、あなたはどのような機会があれば良いと思いますか。あてはまるもの全てを教えてください。

(問11の回答選択肢)

- 異文化を体験する機会(伝統芸能や料理教室など)
- 外国の言葉を学習する場
- 地域での交流や活動の機会(自治会活動等)
- スポーツを通じた交流
- 多文化共生に関するセミナーやイベント
- その他(具体的に)

【問12】外国人住民との相互理解を深めるために、あなたが必要だと思うことはなんですか。あてはまるもの全てを教えてください。

(問12の回答選択肢)

- 日常的にあいさつをする
- 偏見を持たないようにする
- 文化や生活習慣の違いについて知る
- 地域の交流や活動に参加を呼び掛ける
- 生活をするうえでのルール等を外国人住民に知ってもらう
- その他(具体的に)

【問13】外国人住民との相互理解を深めるために、あなたは外国人住民に対してどのようなことを期待しますか。あてはまるもの全てを答えてください。

(問13の回答選択肢)

- 日本の法律、生活ルール、習慣を守ること
- 日本語や日本の文化を学ぶこと
- 日本人に外国の言葉や文化を教えること
- 地域住民との交流や地域活動への参加
- 県内での就労
- 生活の中で感じたことの提案・発言
- その他(具体的に)

【問14】外国人住民との「多文化共生」社会の実現のために、あなたが特に必要だと思う県の施策は何ですか。次の中から3つまで答えてください。

(問14の回答選択肢)

- 外国人住民に対する防災対策の推進(防災講座、防災訓練、避難情報の伝達など)
- 外国人住民に対する医療・保健・福祉などの生活支援
- 外国人住民の子どもに対する教育の充実
- 外国人住民に対する日本の生活のルール、習慣、文化などの周知
- 外国人住民に対する相談体制や、外国語による情報提供の充実
- 外国人住民に対する日本語学習の支援
- 外国人住民の労働環境の改善
- 外国人住民の就労支援
- 外国人住民の地域活動への参画の推進
- 日本人に対する地域の国際化や多文化共生に関する啓発
- その他(具体的に)

【問15】多文化共生に関する取り組みなどに関して、ご意見・ご要望などがございましたらご自由にお書きください。

問15の回答自由記述欄

最後に、あなたご自身についてお聞かせください。

【問16】年齢

年齢について

- 20代以下
- 30代

- 40代
- 50代
- 60代
- 70代以上

【問17】 地域

地域について

- 松江市
- 浜田市
- 出雲市
- 益田市
- 大田市
- 安来市
- 江津市
- 雲南市
- 奥出雲町
- 飯南町
- 川本町
- 美郷町
- 邑南町
- 津和野町
- 吉賀町
- 海士町
- 西ノ島町
- 知夫村
- 隠岐の島町

【問18】 今回のアンケートの設問数について、どのように感じましたか。

設問数について

- 多い
- どちらかといえば多い
- ちょうどよい
- どちらかといえば少ない
- 少ない

【問19】 今回のアンケートの設問の選択肢について、どのように感じましたか。

選択肢について

- 分かりやすかった（選択しやすかった）
- どちらかといえば分かりやすかった（選択しやすかった）
- どちらかといえば分かりにくかった（選択しにくかった）
- 分かりにくかった（選択しにくかった）

これで設問は終わりです。アンケートにご協力いただきありがとうございました。

3. 自由意見

(1) 島根県外国人住民実態調査

①行政への要望

- 自宅から日本語教室まで30分くらいかかるが自転車で通うのは大変だ。最近一人で勉強しているが、どうやって勉強したら良いかわからない。
日本語をもっと勉強したい。日本語の勉強場所が欲しい。
- 役場などでもう少し優しく説明して欲しい。何回も聞くと面倒そうに見えることがある。「やさしい日本語」で説明して欲しい。
- 行政手続きや病院での問診票など、外国語表記にして欲しい。また、記入方法を教えて欲しい。
- 地域住民と触れ合う機会や、今住んでいる地域のイベント・お祭りなどの情報が得られるサイトやSNSなどがあったら良いと思う。
- 日本語と日本の文化を身につけたいので、もっと日本人と交流したい。
- 日本での生活ルールや習慣、マナーなどが分かる外国語のパンフレットやマニュアルがあれば良い。
- 主要な病院などに、緊急の場合に備え、様々な言語の通訳者がいると助かる。役場や公共施設、学校にも、もっと通訳者を手配して欲しい。
- 避難所・災害対策に関する情報が欲しい。
- 外国人増加の規模に合わせ、学校に通う子どもや保護者への支援を手厚くして欲しい。
- 外国人の子どもが地域でスポーツができる環境を進めて欲しい。また親たちも様々な教室・講座を受けられるよう、情報提供や呼びかけをして欲しい。
- 定住するためにも、県内にもっと外国人の働く場を作って欲しい。もしくは企業を誘致して欲しい。
- ルールを守って不燃ゴミを出したつもりだったが回収されていなかった。近所の外国人でも同じことで困っている人がいる。分別ルールを教えてくれる場があると良い。
- 電気、ガス、水道の請求書に外国語表記・フリガナがあると便利だと感じる。
- 道路の街灯が非常に少ないので、暗くなってから出かけるときや夜遅くなる時心配になる。安全のため、街灯を増やしてほしい。
- 外国人住民がよく使う施設に、多言語の標識（表示）を設置して欲しい。

②生活の中の困りごと

- 今住んでいるマンションの自治会に加入している。
お知らせの紙が届くが、日本語の漢字ばかりで字も小さいので読みにくい。
- レジャー施設（ボウリング、外国人向けのカラオケ、クラブ、ゲームセンター、卓球場など）を増やして欲しい。
- 飲食店に翻訳したメニューも置いて欲しい。
- 日本での習慣やルール（バーベキューをしても良い場所、釣りをしてもいい場所など）が分からない。
- 県内バス路線に関する情報が欲しい（バス停、乗り方、運賃の支払い、時刻表など）。
- 駅では日本語のアナウンスしかなく外国人にわかりにくい。外国語のアナウンスもあった方が良い。
- 車を持たないと、交通手段が限られ、スーパーや行きたい場所に行けず不便を感じる。
- 子どもの大学進学を希望しているが、教育ローンや奨学金制度など、大学入学に関する情報を手に入れやすくして欲しい。

③その他

- 日本国籍以外の人にも選挙権を与えて欲しい。
- 日本は物価が高い。税金や社会保険料を安くして欲しい。

(2) 第5回しまねwebモニター調査

(多文化共生に関する取り組みなどに関する意見、要望)

○多文化共生については知らないことが多く、彼らの日常や、現状の問題と解決事例などをこちらも知っておくことで理解に役立つと思う。

○県内でも外国人就労者が多い地域があり、子どもの教育や様々な生活支援などの問題が出ていると思う。

今後、さらに増えていくことも考えられるので、行政や医療の現場でも外国語が話せる人材を増やすことが必要だと思う。広報や標識なども多言語の配慮が必要だと思う。

○外国人と関わりたいのに機会がない。イベントを開催してくれたら進んで親子で参加したい。

○言葉の壁は大きい。地域参加以前に市役所、病院に行っても困らない、行きやすい環境を整えてあげることによって住むことが出来ると思う。

○外国で生活するのは大変なことだと思う。自治体が積極的に色々な情報や人との繋がり、困った時の相談の場や近隣との繋がりを作ってあげて欲しいと思う。

○自分が海外で生活することを考えた場合、温かい雰囲気や話を聞いたり、気さくに挨拶してもらおうと住みやすいと思うので、関心をもって接することが大切かなと感じる。

○外国人住民には、市町村の色々な活動に参加して欲しい。市町村には、その活動に参加することを周知伝達し、支援して欲しい。

○スポーツ等のイベントを通じ、地元の住民と交流を深めていくことが大切だと思う。

○外国人が増えたことで治安が悪くなったり、マナーやルールを守らないことが増えないようにしたいし、行政も取り組んで欲しい。

○少子高齢化が進む日本にとって、今後、外国人の労働力が必要になってきます。そのために、今から環境づくりをしていくことが重要だと思う。

令和元年度島根県外国人住民実態調査等報告書

令和元年 10 月

島 根 県

(環境生活部文化国際課)

〒690-8501 島根県松江市殿町 1 番地

TEL 0852-22-6493 FAX 0852-22-6412

e-mail : kokusai@pref.shimane.lg.jp

URL : <https://www.pref.shimane.lg.jp/bunkakokusai/>